島津殿

文書原寸　縦一七・三糎　横六五・五糎　封筒原寸　縦一七・三糎　横五・七糎

三三〇　白川県士族大矢野十郎ヨリ政府ヘノ建言

台閣大臣ノ一致和合ニ就テ

（表紙）「上書写」

白川県士族大矢野十郎誠恐誠惶頓首謹テ上書ス、臣愚固ヨリ廟謨ノ洋々タル所窺ヒ計ル可カラスト雖モ物議ノ紛々タルハ天下ノ害ナリ、熟々方今ノ時体ヲ考フルニ内外事繁キヲ以テノ故ニ、物議喧々、実ニ国家ノ一大難ナリ、爰ニ於テ或ハ之ヲ道路巷説ニ拾ヒ、或ハ之ニ蛙見ヲ加ヘ可否向背ヲ論シ、敢テ威厳ヲ冒シ、以テ　上言スル所憂国ノ情中心止ム、容カラサルヲ以テ然リ、或ハ之ヲ伝聞ニ誤リ、或ハ言ノ可ナラサルモノ有ランカ、然リト雖モ此事ヲシテ信ニ伝ヘ聞ク所ノ如クナラシメハ、微臣カ論スル所モ亦或ハ当ルアラン、仰キ希ハクハ人ヲ言ヲ捨ス、聊カ採用セラルヽアラハ、是則微臣カ涯生ノ栄ナラン、若シ尊厳ヲ憚カラスト云ヲ以テ、罪宥ス可カラスンハ刑惟命ノマヽナラン、

一政ノ得失ヲ相スルハ万民億兆ノ心ヲ考フルヨリ善キハナシ、億兆歓喜悦服シ、各敬ンテ其職其業ヲ勤励スル、是其美政論ヲ待タスシテ験シ、万民嗟歎、億兆洶々タラハ之則善政ト云可ンヤ、微臣窃ニ方今ノ事体ヲ考フルニ、民其業ヲ失ヒ産ヲ破リ家ヲ紊リ、尊ヲ陵キ上ヲ軽ンシ、人ヲ欺キ罪藉ニ在ル者往々少ナカラス、其大ナル者ニ至ツテヤ、戊辰以来七年間ニシテ党民不廷ノ徒ノ起ルモノ数十、其福岡県ノ党民ノ如キハ刑ニ遭者概十万人ニ及ヘリト云コトヲ聞ケリ、尋ヲ佐賀県ノ一挙鮮血、今猶腥臭ナルヘシ、法正サヽルニ非ス、刑厳ナラサルニ非スシテ何スレソ、斯ノ如ク人心乖戻シテ物議ノ喧々タルヤ、是則政体ニ欠ル所無ク、県官モ亦

其令スル所ヲ謬ラスト云コトヲ得ンヤ、此時ニ当リ島津久光中興ノ業勲高ク望重ク、陳言数条理義当ルヲ以テノ故カ、前キニ内閣顧問ノ命アリ、佐賀事アルニ中リ、暫ク鹿児島県ニ遣サレ、而シテ猶

勅使ヲシテ書ヲ齎ラシ以テ帰京ヲ諭サシム、其略ニ曰、国家多事、朕カ左右離ル可カラスト雖モ、事情止ムヲ得サルヲ以テ暫ク遣ス、爾後日ニ汝ノ復命ヲ俟ツ、而シテ今男久済ヲシテ云々具陳セシム、朕之ヲ聴キ能ク汝ノ衷情ヲ悉セリ、仍テ亦故ラニ其々ノ人ヲ遣シ速ニ帰京スヘキノ旨ヲ伝ヘシム云々、風カニ聞ク、大政大臣三条実美・右大臣岩倉具視添翰アリト、其略ニ曰、上ハ朝廷ヲ輔佐シ、下ハ万民ヲ撫育センコトヲ偏ニ倚頼ス云々、漸アツテ久光ヲ左府ノ大任ニ薦ム、故ニ仰テ拝命有リ、久光先キニ上陳スル所ノ趣意、今猶更ニ違フコト無カルヘシ、既ニシテ言聞カレス、謀用ヒラレス、　廟堂倶ニ議ヲ同フスルノ人無ク、左府ノ大任ヲシテ徒ラニ尸位ニ居ラシム、斯ノ如クンハ

君トシテ臣ヲ辱カシメ玉ヒ、大臣トシテ人ヲ侮リ欺クニ似タリ、語ニ曰、民無信不立ト、嗚呼今中興日新ノ時ニ当ツテ堂々タル　廟上信ヲ欠キ、体裁ヲ失スルコト何ソ其レ甚シキヤ、今方サニ内外憂患ヲ生シ物議紛然タルノ時ニシテ、大臣各其意ヲ異ニス、　皇室豈危カラスト言サル可ンヤ、大政ニ預リ大任ニ位スル者言一モ聞カレス、議一モ合ハスシテ焉ソ能ク空ク、徒ラニ尸位ニ居ランヤ、故ニ久光遂ニ意ノ達スルコト能ハサルヲ覚リ断然帰県ノ情アリ、然ト雖モ実美・具視屢之ヲ留メテ敢テ許サス、議合ハス、論同シカラスシテ其帰県ヲノミ留ムルコトノ強ク切ナル所以ノ者ハ何ソヤ、久光ハ実ニ天下人心ノ倚頼スル所ナリ、今ニシテ帰県セハ是其民心沸騰瓦解麻乱ヲ憂フルノ外必スヤ他事無カルヘシ、今ヤ方ニ国家ノ治乱ハ久光ノ進退ニ関ルカ、夫レ国ノ国タルヤ国ヲ以テ宝トセスシテ人ヲ以テ宝トス、民心ノ倚頼スル所必ス理有リ、然ラハ則久光ハ天下ノ宝器ニアラスヤ、既ニ之ヲ宝器トシ、包ミ

揜フテ其光リヲ顕スコト能ハサラシメハ宝器ノ徳焉カアルヤ、然ト雖モ人ハ各動物ニシテ聖智以下一モ惑フコト無ク、一モ違フコト有ラサルヲ得ス、或ハ合シ或ハ齟齬セン、其齟齬スルモノ迭ニ肺肝ヲ露ハシ、懇々ト熟ク談シ忠ニ告テ誠実通徹スルアラハ、終ニ天理大道ノ公議ニ着カンノミ、久光ノ　廟堂ニ於ル言一モ聞カレス、議一モ合サルモノ是恐クハ其議スル所未タ必ス悉ク熟セサルニ有ランカ、斯ノ如クンハ之ヲ挙テ審カニ問ヒ玉ハス、之ヲ薦メテ熟ク議ラス、其責誰ニカ帰センヤ、今此三人ハ復古恢業ノ功臣位高ク国家命脈ノ係ル所、天下ノ安危今日ニシテ、　廟議ノ繁務之レ日モ足ラサルノ秋ナルヘシ、何ソヤ此時ニ当ツテ大臣各討論講議ノ功ナラサルヤ、実美・具視ノ久光ニ於ル曩ニハ親シクシテ今疎キ、是亦何ノ故ソヤ、若シ論大本ヲ異ニセハ、曩ニ久光ヲ

召スノ日ニ於テ、何ソ忠諫セサルヤ、前ニハ諫メスシテ後ニハ倶ニ議セス、斯ヲ以テ之ヲ見レハ豈尽セリト云ヘキヤ、今既ニ内チ物議ヲ生シ、外カ患ヲ来シテ以テ　廟議一ニ和セス、恐ルヘキノ甚シキナリ、夫レ天下国家ハ人ノ一身血気周流シテ以テ立ツカ如キニ譬フ、今此ノ大臣其議一ニ帰セサルモノ、是則人ニシテ服心ノ病アルナリ、物議ノ喧々タルハ痿痺ノ病ニシテ、四肢不随ナルカ如シ、焉ソ能ク立チ能ク趨ルコトヲ得可ケンヤ、亦曰、敵国外患無キモノハ国常ニ亡フト云コトヲ聞ケリ、是其平常無事ノ時ニシテ、偸安ヲ戒ムルノ語ナリ、況ヤ内外憂患アルニ当ツテ内チ和セス、外カ整ハサルハ其平常無事ノ時ニシテ偸安ナルニ孰レソヤ、故ニ今仰キ願クハ大臣ニ諭シ、各大イニ胸膈肺肝ヲ開キ露シテ以テ懇々ト講議セシメ、其止ムコトヲ得サルアラハ是ヲ議院ニ下シ、以テ時宜ノ適論ヲ取リ、廟議一決国是確定アランコトヲ、然ラスンハ焉ソ能ク泰山ノ安キニ居ルノ日アランヤ、是則微臣カ忌諱ヲ憚カラス、敢テ

上言スル所以也、

一頃ロ台湾ノ役アルヤ其兵三千、之ヲ死地ニ置クモノ数月、而シテ我カ　国人未タ其故ヲ審カニスル者稀ナラン、故人曰、兵ハ凶器ナリ、猥ニ動カスヘカラス、止コトヲ得スシテ之ヲ用ユト、今斯ク兵ヲ用ユルモノ必ス大ナル故アランカ、伝ヘ聞ク台湾既ニ平クト雖モ彼ノ地素ト支那ノ管轄ト云ヲ以テ支那我ヲ遮リ、既ニ兵端ヲ開クノ勢イアリト、元ト彼ノ台地支那ノ属轄ニシテ、我ニ無礼アラハ我レ理支那ニ糾スニアリ、何ソ台湾ノミヲ事トセン、曩ニ此事ヲ以テ大使添島某支那ニ談スル、是亦我カ　国人ノ知ラサル所ナリ、我若シ彼ノ台地ハ支那ノ属轄ナルヤ否ヤヲ詳カニセス、一言支那ニ談スル無ク我カ兵威ノ壮ンナルニ傲リ、妄ニ人ノ属地ヲ侵サハ是則暴而已、一旦戡勝平治スト云ト雖モ後患何ソ来ラサルコトヲ得可ケンヤ、我亦他無シ、謝センノミ、若シ其理謝スルニ有ツテ、却ツテ非ヲ遂ントセハ戡ツトキハ可ナリ、或ハ謬ツテ一朝敗辱ヲ取ラハ、億兆ノ生霊ヲシテ忽チ塗炭ノ苦ヲ免カル、コトヲ得セシメサルノミナラス、汚名ヲ千載ニ貽シ笑ヲ海外ニ取ラン、死猶遺憾アラサルコトヲ得可ケンヤ、義ヲ抱ヒテ戦ヒ力ラ能ク戡ツコトヲ得スンハ、仮令一国焦土ト成リ、尸ハ灰燼ノ下ニ埋ムト云トモ、魂猶涼然、義豈万世ニ朽ンヤ、我レ今方サニ文明ノ時ニシテ理未タ尽サス、是非ヲ正サス曲直ヲ審ニセス、如何ンソ人ノ国ヲ奪ヒ、人ノ財ヲ掠メテ以テ餓虎ノ餌ヲ争フニ異ナラサルコトヲ為サンヤ、然リト雖モ支那一旦彼ノ台地ノ人ヲシテ仮令属セシムルコト有リトモ今ニシテ御スルコト能ハス、彼ノ民ヲシテ強暴奪掠ヲ恣ニセシメハ、是則彼ノ民ヤ宇内ノ化外ニシテ人ニ害アルモノナリ、威力有ルモノ之ヲ服セシメテ、以テ人道ヲ教ユヘシ、支那何ソ故ラニ遮ルノ理アランヤ、亦曰、支那ノ台地ニ於ルヤ石門ノ戦ヒ敗衂ヲ取ルモノ三四、終ニ彼ヲ膺懲スルコト能ハス、米利堅ノ軍石門ニ敗ル、モノ一タヒ爾後之ヲ征スル者無シト云コトヲ聞ケリ、今我是ヲ破リ、彼ノ国人ヲ教撫シ、以テ天地ノ化育ヲ佐ク、盛

ンナリト云ツヘシ、土ヤ人ヲ生ス、人能ク土ヲ有ツ、故ニ人能ク其民ヲ服セシメテ而シテ後始テ以テ其国人ヲ民トシ、其土ヲ土トスルコトヲ得ルヘシ、今支那ノ台湾ニ於ルヤ其人ヲ征スルコト能ハス、却ツテ屢敗辱セラレ我カ彼ノ石門ヲ破ルヲ待ツテ我ヲ拒ム、支那固トニ斯ノ如クナラハ天理ノ公義ヲ知ラサルノ妄論ナリ、若シ此事ヲ以テ主張シ、我カ孤軍ヲ侮リ、威ヲ以テ迫ラハ、其曲直論ヲ待タスシテ判然タリ、兵ノ衆寡勝敗ノ機知ルヘカラスト雖モ、我レ亦国内ノ兵ヲ尽シ、挙テ彼ト戦ハン而已、然リト雖モ我カ　国人真意未タ戦ヲ持セス、是則我レト彼レト戦ヲ決スル所以ヲ知ラサルノ故ナリ、戦ノ機会ハ他無シ、将卒悉ク怒リ、意気充実スルヲ待チ、放ツテ之ヲ敵ニ中ツ、堅陳ト雖モ破ラサルハ無カルヘシ、今ニシテ戦ヲ含マハ、速カニ令ヲ下シ、曲直ヲ判チ、人心ヲシテ各忿怒ノ気ヲ抱カシメヨ、然ラスンハ令下ルノ日急カナラント欲スト雖モ国人皆曰、我輩ノ素ヨリ知ラサル所ナリト、斯ノ如クンハ今彼ノ地ニ置ク所ノ将卒三千、仮令鑒ニセラレ眼前眉ヲ燃クノ患ヒ来ルト云トモ之ヲ如何トモスルコト無カルヘシ、恐ルヘキ物ニシテ、豈之ヲ深ク謀リ遠ク慮カラサル可ンヤ、臣愚誠恐誠惶頓首謹言、

白川県熊本第二大区一小区山崎居住士族
東京第一大区六小区元大立町四番地寄留（愚）
明治七甲戌年八月十七日　大矢野十郎□
四十一歳六ケ月

冊子原寸　縦二七・三糎　横一九・五糎　七枚

三三七　福島県令安場保和等ヨリ三条相国ヘノ建言

上下協和其他ノ件

上言

台湾蕃地御処分之儀ニ付弁理大臣清国派遣被　仰出候次第ニ付地方官会議延期之儀、御内達書今朝拝見、私共愚存之趣不取敢上申仕候、

第一条

廟堂即今之御急務ハ、御誓文之聖旨ヲ拡充在セラレ治乱常変トナク法令禁制ノ発スル処、設施運歩之際、輿論ニ

基キ公議ヲ悉シ、上下協和之実ヲ確定セラレ官省院使府県之官員ヲシテ、深ク
朝意ヲ体認シ、各其主任ヲ尽サシメラレ度事、

第二条

第一条　聖旨ヲ拡充シ公議ヲ悉シ、廟議確定ノ上ハ速ニ支那御談判、廟算之大旨ヲ明諭シ、上　廟堂ヨリ各省院使府県之体段ニ応シ、全国人民之智識財力ヲ量リ、目今軍国権宜之措置ヲ定メ、臣等ヲシテ管下数十万之人心ヲ一ニシ徐ニ　廟堂之大号令ヲ奉待スルノ御処置有之度事、

第三条

即今上下士官招募之官員派出之処、多クハ士族ヲ募ラサルヲ得サルノ勢アリ、此士族ヤ支那台湾之事件如何ヲ知ラス、況ヤ平民ニ於テ国憂ヲ共ニスルノ根元何物タルヤ、焉ソコレヲ知ルヲ得ン、此際ニ当リ法令煩苛変更有之、士民頗ル失意ノ情体アリ、仍テ胸襟ヲ開イテ不得止之情体ヲ広ク人民ニ細諭シ、振而御国難ヲ担ヒ、百険ニ当リ不撓之意気ニ至ラシムル様ニ仕向度、就テハ即今如何之御廟算ニ被為存候哉、奉伺度事、

第四条

軍国万機中、第一之憂ハ御一新来百事振興、用度多端之末佐賀之一挙ヨリ問罪出師ニ至迄、其費ス処額数ヲ与リ知ラスト雖モ之ヲ臆算スルニ五百万円ニ下ラサルヘシ、爾今支那ト決戦センニハ日々万金ヲ費サスンハ、数万ノ兵士ヲ海底山岳ニ沈転セシメンコト必然ナラン欤、此巨万之金員目下之措置持久之策、之ヲ内地ニ募リ外国ニ債スル両ナカラ大困難ナラスヤ、　廟堂将来国ヲ立、民ヲ護シ、以テ軍国ニ処スルノ会計、御成算ニ応シ、管下人民上ニ関係スヘキノ要件ニ付予メ御目的相伺置度候事、

第五条

新築土木費用之伺等ハ即今御差延ニ相成候共、目下破堤修繕之経費伺ハ殊別之御処分無之候テハ、田園保護五穀収獲、貢租収入之道難相立候間、地方官実際取調上申之趣御採用相成度候事、

第六条

外ヲ務ルハ内ヲ斉ルヲ以テ緊要トス、今日軍国之政ヲ布カセラル、上ハ不急之冗費ヲ省ク、無論ト雖モ三民之本業ヲ勧メ、便益ヲ通スル要務ハ弥コレヲ奨勧セサレハ財用生スル処ナシ、仍テコレカ措置制限ヲ確定在セラレ度事、

第七条

全国各地之人心穏静ナラサル之際外事起レリ、各地取締方今緊要之急務ナレハ実地之景況申上、御見込等奉伺置度候事、

右件々公議ニ採ルノ　聖旨ニ基セラレ、全国実際之人情、体段ヲ酌量シ速ニ御決定、平常治民之儀ハ支那之一義定ル迄一切旧貫ニ倚ラシメ、新令ヲ禁シ、官省院使府県ニ簿書記録不急之雑務悉皆取畳、本業ヲ勉メ学文ヲ専ラニシ、取締ヲ厳ニシ、臣等ヲシテ管下人心ヲ一ニシ、実際施設之目的相立、区々之微力ヲ尽シ、以テ御国難之一部分ヲ担当仕度、愚衷奉陳述候条、　廟議之御懇諭ヲ蒙リ度奉懇願候、誠恐拝具、

明治七年八月十八日　宮崎県権参事上村行徴
豊岡県参事　田中光儀
水沢県権令　増田繁幸
鳥取県権令　三吉周亮
小田県権令　矢野光儀
大分県権令　森下景端
福島県令　安場保和

太政大臣三条実美殿

冊子原寸　縦二八糎　横二〇・五糎　五枚

三三七三　岩倉右府ヨリ島津左府公ヘ

左府公往訪ノ件

（封筒）「左大臣島津殿　岩倉具視」

（封筒ウラ）「ナ」

前略、今夕五時ヨリ来臨願置候処、意外暴風定而強雨ニ可相成哉、右ニ而は別而御苦労且今日ニ限リ候用向ニも

無之、一両日之内重而来臨可相願候間、今日之処御延引有之度此段申入候、併シ於小生は素リ閑日如何様ニ而も御都合次第ニ候、否御一筆御答承知致度、早々、已上、

八月廿一日　　具視

島津殿

文書原寸　縦　一六糎　封筒原寸　縦一七・三糎
横四八・八糎　横　六糎

三三七三　某氏（元行）履歴書

元行儀

明治元戊辰年五月軍務官出仕、病院御建設ノ創メ、医長拝命、同年六月越後口総督宮ニ随行ス、凱陣之後軍務官病院頭取拝命、明治三年庚午十一月ニ至リ、京都軍務官及病院等御引揚之砌、依病一旦辞職罷在候折柄、同年十二月岩倉大納言（具視）殿、鹿児島及山口表へ為　勅使参向被致候節付属ス、翌明治四年正月西京へ帰リ候節、閑院宮家令可被　仰付御指令書東京太政官ヨリ到来致シ有之由ニテ、正月廿三日留守官ヨリ御用召ニ相成候得共、元行儀御維新以来西京表ニ勤仕罷在候ニ付、東京之事情モ実地見聞仕度志願ニ候間、同月廿五日更ニ岩倉公ニ付属シ、東京ニ来リ候後、岩公ノ思食ヲ以テ何レヘカ出仕為致可申旨被申聞候侭九月ニ至リ、岩公俄ニ欧米各国大使之命ヲ被蒙候ニ付テハ留守中大老父及伯母ノ老人モ有之事故、別テ宜頼置トノ仰ニ付、空シク御帰朝相待候モ無詮事ト存、兼テ願置候出仕之儀申出候処、公ヨリ山県陸軍大輔（有朋）へ頼置候トノ事ニ有之、同年十二月被任軍医権中属其後軍医寮ノ称ヲ被廃、陸軍本病院ト改候節陸軍省十一等出仕ニ被補候侭今日ニ至リ申候事、

明治七年八月廿一日

文書原寸　縦一九・五糎　横五〇糎

三三七四　渡辺重石丸ヨリ左府公ヘノ建言　二通

主上御親祭等五ケ条

二三七四ノ一

建言件々

一主上御親祭之事

神祇寮再興ハ実ハ中古之弊風ニ而祭政二途ト相成事、

一治教一途ニ出ル様改度事

教部・文部合併シテ人材教育ノ方法ヲ立ザレバ、皇国化シテ夷案ト相成可事、

一封建ニ復シ兵制ヲ盛大ニスル方法あらまほしき事

当今ノ方ニ而ハ廉恥地ヲ払テ空ク相成、士風萎靡不振国体難立且録制等も宜敷方法可有之、

一親王家ヲ以繁盛ニ致シ、皇統不絶之方法相設度候事、

文書原寸　縦二三・五糎　横三四・二糎

二三七四ノ二

管見五件

一主上御親祭之事

子トシテ祖先ヲ祀ルハ天下ノ通礼ナリ、今般億兆ノ視聴ヲ一新シ、　神武天皇ノ霊畤ヲ鳥見山中ニ設テ、皇祖天神ヲ御親祭アラセラレシニ則リ、造化参神御遥拝ノ大儀式ヲ御再興アラマホシ、神祇官再造ノ如キ恐クハ真ノ復古ノ義ニ非ス、

一封建ニ復シ士気ヲ養ヘキ事

禄制兵制等ノ如キモ当今ノマヽニテハ永久ノ策ニ非ス、礼義廉恥モ月給ト云コトヲ廃シ、封建ノ制ニ因テ良法ヲ立ルニ非レハ必士気萎靡シテ振ハザルニ至ル、

一親王家ノ制ヲ古ニ復シ皇胤蕃衍セシム可キ事

当今ノ制ニテハ　皇胤ヲ芟除シ、所謂天胤絶エザルコト線ノ如シト云者ナリ、豈　宝祚無窮ヲ謀ル者ノ為ナラン哉、

一教律ヲ設テ邪僻ヲ懲スベキ事

国ニ教法アレハ人ニ教律ナクバ有ルベカラズ、　天朝ニテ　皇祖天神御親祭ノ御宗教一定ノ御規則ヲ確定シ子トシテ親ヲ祭ラザル者ハ刑シ、孫トシテ祖ヲ祀ラザル者ハ戮ス、溯リテハ　造化参神ハ祖ナリ、

君ナリ、　天朝ノ御先祖ナリ、　天朝ニ倣ヒ奉リテ祀ヲ奉ゼズバアル可カラズ、此祀ヲ奉ゼザル者ハ斬ニ処ス可シ、果シテ此クノ如クナラバ邪教懲スベク、風俗斉フベク、　国体維持ス可シ、

一治教一途ノ事

教部・文部合併シテ人材教養ノ規則ヲ立ザレハ有司ハ自ラ有司ニシテ教法ハ自ラ教法ナリ、是レヲ治教岐シテ二ツト為リ、神州変シテ洋蛮ト為ルノ方法ト云フ、

右五件ハ当今御改正ノ急務ト奉存候、其施設ノ方法ニ至テハ、素ヨリ神算アルベク賢臣ヲ親シミ、佞邪ヲ遠クルガ如キハ無論ノ義ニ候ヘハ今改テ弁ヲ費サズ候、威厳ヲ干犯忌諱ニ冒触万死万死謹言、

明治七年戊八月二十一日　　渡辺重石丸
頓首々々再拝

文書原寸　縦二七・三糎　横三八・五糎　二枚

三三五　嵯峨実愛卿ヨリ島津左府公ヘ

三条邸ニ参会ノ件

（封筒）「左府公閣下　謹復　実愛」
（封筒ウラ）「」

謹奉拝承過時参拝苦情共申上慙惶之至ニ奉存候、併御寛大高諭感銘得候、猶亦御厚腆垂示奉恐入候、然ハ条公返書拝見、明日午後一時之義敬承仕候、御指麾次第、素ヨリ可応申一同存慮ニ罷在候間、明日午後第一時迄ニ条公邸江一同参着仕候様直様可申合候、此段僕より奉拝答候、先ハ御請如此御座候、匆々粛復、屯首謹言、

八月念二日　　実愛

左相府公閣下

追言上中山以下本文時間必相揃、条公邸ヘ可令出頭候間、左様御承知御引立可被下候、条公状拝借仕置候也、

文書原寸　縦一七・三糎　封筒原寸　縦一八糎
横八六・五糎　横　六糎

三三六　岩倉右府ヨリ左府公へ

集会不参ノ件

今朝御答書拝承、然は中山卿（忠能）云云今朝之処は条公差支ニ付今日午後一時御集会之旨、就而ハ拙家病人も有之候得共、精々勉強可令出頭之様御愈示、再応之御命参堂勿論之所、今朝申上候仕合、殊ニ午後之所ハ殊ニ頭痛困苦候ニ付不得止御断申入候、不悪御承引可給候、仍早々如此候也、

八月廿三日　具視

文書原寸　縦一六糎　横五九糎

三三七　三条太政太臣より島津左府公及岩倉右府公へ

病気欠勤の件

「（封筒）島津殿　実美」
岩倉殿
「（封筒ウラ）」

拙官儀今日例刻参勤可仕之処少々暑邪腹瀉仕、参否未定之仕合ニ付宜御含奉願候、精々勉強出仕之心得ニハ御座候得共先以御理申上候、宜希上候也、

八月廿四日　実美

島津殿
岩倉殿

文書原寸　縦一七・二糎　封筒原寸　縦一七・五糎
横一四・八糎　横　五・八糎

三三八　中山忠能卿等十四人ヨリ三条岩倉両卿へノ建白書

島津左府公ノ件

前日書ヲ閣下ニ呈シ聊管見ヲ陳ス、海量ヨク其言ヲ容ル

欣抃ノ至ニ勝ヘス、因テ再陳セント欲スル所ノ者アリ、以為ク前ノ言フ所ノ者、業已ニ之ヲ容ル、後ノ言フ所ノ者豈聞カレサルコトアランヤ、謹ンテ啓申ス、閣下夫レ之ヲ択ヘ、前年島津左大臣方今ノ政体ニ就テ着眼ノ要件ヲ論列ス、　朝議措テ用ヒサルコト累月、其後他事ニ当リ再論スル所アリ、而シテ議協ハス遂ニ病ト称シ、　朝セサルニ至ル、夫レ同氏ハ夙ニ朝野ノ望ヲ負ヒ、又曾テ天下ニ大功徳アリ、故ニ其旧里ニアルヤ数々　勅使ヲ賜ヒ以テ其病ヲ問ヒ、且之ヲ召シ到ラシム、其入京スルヤ内閣顧問ニ充テ尋テ左大臣ニ擢任ス、其之ヲ待遇セラル亦厚シト云フヘシ、而シテ其任用ニ至リテハ何ソ甚軽キヤ、夫レ其官ヲ重クスルハ深ク其責ニ任セシムル所以ナリ、今既ニ鼎職ニ任シ而シテ其言論スル所ノ如キハ措テ問ハス、左大臣ノ名アリテ左大臣ノ実ヲ行フコト能ハサラシム、豈病ト称セサルヲ得ンヤ、且衆庶皆言フ、　朝廷同氏ヲ以テ左大臣ニ任シ而シテ其言ヲ用ヒス、是敬シテ之ヲ遠ケ、以テ遺賢ノ名ヲ遁ル、ナリ、同氏亦豈久シク尸位素餐ノ辱ヲ忍フ者ナランヤ、頃者持ニ　聖諭ヲ垂レ同氏ヲシテ起テ事ヲ視セシム、僕等以為ク　聖寵既ニ是ノ如シ、必嘗テ建言スル所ノ条件ヲ用ヒ能ク其職ヲ尽サシメント、而シテ未タ其実ヲ詳カニセス、伏テ冀クハ三公心ヲ協ヘ志ヲ一ニシ、上　宸襟ヲ安シ下黎庶ヲ沢セハ国家ノ洪福之ヨリ大ナルハナシ、是僕等ノ日夜懇禱仰望スル所、其衷情ヲ吐露セント欲シ、覚ヘス言不遜ニ渉リ数々尊厳ヲ冒ス、伏テ乞幸ニ宥恕セヨ、不宣、

従五位松平信正
従五位松平忠和
従五位津軽承叙
従四位立花鑑寛
正四位松浦　詮
正四位大原重実
従三位亀井玆監
従三位佐竹義堯
従二位池田慶徳

明治七年八月廿四日

従二位伊達宗城
従二位大原重徳
従二位嵯峨実愛
従二位松平慶永
従一位中山忠能

太政大臣三条実美殿
右大臣岩倉具視殿

文書原寸　縦二四・八糎　横三三・五糎　三枚

三三九　左府公ヨリ三条岩倉両公ヘ
左府公ヨリ中山従一位等五人ヘ　二通
辞表提出ノ件

二三七九ノ一

炎暑之砌御座候得共、両公弥御堅剛被成御勤仕奉大賀候、然ハ過日来家令ヲ以病体保養之為御暇之内意申上置候処、干今可否之御返答も承知不致憂慮罷在候処、一昨日ハ中山初五名来訪、懇ニ説諭有之候ニ付御暇之義ハ暫時見合申候、乍併病体殊ニ云々之事件ニ而長々参朝も不仕、御上之都合之程恐入奉存候、仍而別紙辞表差上申候ニ付不悪御汲取被下、速ニ　御許可被為在候様　奏聞被成下度奉伏願候、頓首再拝、

三条殿
岩倉殿

二三七九ノ二

炎暑之候、各位弥御安全大賀之至奉存候、然ハ過日ハ御来臨御懇篤之御教諭拝承、頑愚之病夫汗顔之外無御座候、就而ハ保養御暇ハ此涯見合申候、乍併随御教示重職ヲ奉シ長々参朝不仕次第、御上ノ御都合ハ勿論億兆之人民ニ対シ不相済事ニ付今日両大臣迄辞表差出申候、各位御説諭之義も有之候ニ付、右次第為御納得此段申上置候也、

中山従一位（忠能）殿
松平正二位（慶永）殿
嵯峨従二位（実愛）殿

池田従二位(慶徳)殿
松浦正四位(詮)殿

文書原寸　縦一六・八糎　横九六・五糎

三三八〇　石川県大聖寺佐楽秀三郎ヨリ海江田信義ヘ久光公ヘ拝謁ノ件

「拙楼漫吟」添

(包紙ウワ書)「東京府飯田町三丁目十二番地
海江田従五位殿　親展」

(消印三ツ、三銭切手二枚)

九月十一日発

佐楽秀三郎

(消印)○自石川県加賀国大聖寺福田町十二番地

二三八〇ノ一

嚮ニ往覲ヲ獲テ始テ雲霧ヲ撤ス、大人富貴ヲ挾マス、竟ニ蘭金ヲ挹ム、其恩ヲ感スルニ足レリ、爾来僕帰県、一向冗忙書問ヲ奉セス、審セス、起居康勝ナルヤ否僕素剛激胸中ノ気アリ、此ニ拙稿一本勉綴シテ以テ進ム藉テ教ヲ請フノ地ト為耳、以テ頑固ノ作ト為シテ而シテ之ヲ擲ツ勿レ、況復僕久シク旧尊藩主島津正二位公ノ高徳ヲ慕フ、雖然未タ登拝スル克ハス、悵恨良多シ、若幸ニ僕ノ小人ヲ以テセス、一タヒ其醇醪ニ酔フコトヲ得セシメハ賜ヲ拝スル備矣、然ル時ハ則粉骨齏身以テ其恩ニ報ヒント欲ス、此レ僕ノ素志ナリ、此レ僕ノ宿願ナリ、　大人鹿児島ノ巨臂(肇カ)、而シテ慷慨義ヲ負ヒ人ノ憂ヲ憂フ、是ヲ以テ敢テ告ク、書ニ臨テ眷恋ノ至リニ勝ヘス、即辰残暑灼人伏乞保愛、

八月念六　　佐楽義祥
海江田大人台下　　頓首再拝

別啓、僕ハ大阪府故田中内記号華城ノ門人也、内記

ノ旧製一通付呈ス、僕ノ拙稿 一本ハ
島津公ヘ上ル、一本ハ内田政風殿ヘ呈ス、伏テ周旋
ヲ冀フ、

文書原寸　縦一五・二糎　横四三糎

二三八〇ノ二
（表紙）「拙楼漫吟」

魁心子

余病中無聊偶有所感慨、卒然命筆作漫吟而言、
或有触忌諱者、庶幾知余者、当作言之者、無
罪之観云、

黠虜

黠虜貪婪非所堪　膺懲已悟聖教覃
勤王百戦欽忠武　封事一編懐澹庵
世運雖傾行可力　国恩欲報学宜耽
自今但願知天下　北陸和魂有此男

洋風

洋風汚俗好浮夸　淫技奇工画足蛇
世乱又安知死所　時危豈可計生涯
有如楚欲図周鼎　無似蠡能起越家
一掬久懐与離語　歴観今古不勝嗟

豈止

豈止頻年夷狄煩　律令賦歛又堪繁
驕奢自古多亡国　疲蔽于今不塞源
奸吏府中猶弄法　忠臣地下永呑冤
奈何雲上九重隔　草莽無由效直言

男子

男子冲襟死不休　聊賢坎坷侭堪憂
天祥高節覊牢獄　枋得精忠呼馬牛
已抱（ママ）廿年皇国恥　便懐一世庶民憂
匹如洪水難壅塞　邪説滔漫八十州

窄袖

窄袖区々突帽卑　廃亡礼制況威儀

化来洋俗皆如此　振起皇風更属誰
可嫉姦人能欺世　堪悲志士不逢時
吾家神器須珍重　傍有髯奴偸眼窺

東洋

東洋禍害竟如何　未看陰陽上下和
俗吏偸安経日久　廟堂姑息歴年多
憂時為講出師表　懐古空吟正気歌
吾宅吾身非所論　有君之外莫知他

自表

自表丹心気益振　神州我是一介臣
豺狼不敢王倫肉　社稷幾危高宗身
煮茗焚香時独楽　右書左剣日相親
何時刈却腥羶去　好賞凞々艸木春

冊子原寸　縦一四・三糎　横一〇・五糎　四枚
包紙原寸　縦三二糎　横四四糎

三六一　神奈川県令中島信行等ノ政府ヘノ建言

施政上ノ六条件

袖扣

臣等窃に思惟スルニ、方今国家多事、天下之人心錯乱して一定之方向なき紛議朝野ニ満つ、是之時に当り臣等上朝庭之為の下蒼生之為ニ寒心する者少なからす、是れ維新之際朝庭に於テ五ヶ条之御誓文被為立候得共、其実効未タ天下に貫徹セさるより生する所と奉存、依之地方会同ハ則ち御誓文之聖旨を万世ニ通徹せしむる之端緒に可有之と存込、先般来再三及遣言候得共、其言実地御施行之場合ニ到兼、毎時拝謁を乞ひ心事を尽す者必竟輿論公議を御採用被為在度、愚衷を懇願する所にて即今速に約束御設立被為在度候、条件左ニ申上候、

一内外国債を興す事

一外国と盟約を結ひ、及ひ改正する事

一外国と講戦講和得失之事

一金穀を人民に賦課する事
一租税を改革する事
一各省之定額金を定る事
右条件ノ類は追而憲法全備之期に至る迄、当今之内各省府県之長官をして周悉協議公論せしめて後、確決すへきニも約束を誓定せられ度候事、

明治七年八月廿六日　鳥取県権令三吉周亮
福島県令安場保和
神奈川県令中島信行

冊子原寸　縦一八糎　横二〇・三糎　二枚

三六二　岩倉右府より島津左府公へ

御用覚ケ条書の件

追而三冊之外ニ伊地知之分一紙差添候也、
先刻御約束申置候御用覚ケ条書三冊則差出候、元来昨日来臨之為メ卒然愚案之侭書付候義ニ而、種々不都合も可有之候間宜敷御取捨御談し願入候、早々、以上、

八月廿七日　具視

島津左大臣殿

文書原寸　縦一七・三糎　横四五・七糎

三六三　山階宮晃親王ヨリ島津左府公へ

時候御見舞

（封筒）「左大臣様　侍史中」
（封筒ウラ）「晃」
（封紙ウワ書）「左大臣様　侍史中」
（墨引）「晃」

朝夕不序之景色折角御用意奉祈入候也、
秋雨濛々敷候得共弥御勇健ニ御奉職奉大賀候、猶此一折不珍赤面仕候へ共、以而蠢末恐縮なから時令御見舞申上候験迄ニ奉進上度、御笑留被下候ハ、深々忝奉存候、尚曲折期拝顔候也、

敬白、

戊八月二十九日

文書原寸　縦一六・六糎　封筒原寸　縦　一八糎
横四六・三糎　横五・五糎

三三四　三条太政大臣より島津左府公へ

大山鹿児島県令辞職の件

「（封筒）島津左府殿　実美」
「（封筒ウラ）緘　」

大山鹿児島（県脱カ）令義、辞表差出シ相成候間、御廻申候同人之義、過日来も御談申候次第ニ付付紙案之通御示令相成可然欤、尤拙官より過日説諭ニ及置候得共、此上は何卒尊閣よりも御説諭、是非奉職仕候様御配慮奉願候、仍此段得貴意度如此候也、

八月廿九日　実美

島津殿

文書原寸　縦一七・七糎　封筒原寸　縦二四・七糎
横五五・八糎　横一〇・三糎

三三五　伊東長辭ヨリ島津左府公へ

金五千円恩借礼状

「（包紙ウワ書）左閣殿下　伊東長辭
御請

」

益御勇健被為在恐悦御儀奉存候、陳は一昨日ハ参上拝顔之砌、恥羞至極之義、瀆御内聴候処、今日ハ不存寄御使被下置御直書且金五千円拝領被仰付候旨拝見、愕然恍惚仕候次第只管感戴仕候而已、早速取詰候金主共より首尾相整候次第、難有御恩露多々慈親等、唯遥拝感泣仕候仕合御座候、実目下之急務以御寵眷相凌候条御礼申上尽兼候、後刻以参万事心緒申上候得共不取敢御請御礼奉申上候、誠恐頓首、

八月三十日　　伊東長辭

左閤殿下

文書原寸　縦一六・五糎　横六四・八糎　包紙原寸　縦二七・七糎　横四〇・四糎

三三八六　上村行敦ト笠久光公建言ノ成否

（包紙ウワ書）「上」

笠　恐ナガラ御建言ノ立ヤ否

革之夬

謹テ断ス、当分ノ形勢日西山ニ没入シテ明ヲ不レ得、日輪地下ニ隠ル、ノ象アレバ急ニハ御趣意立マシク、然レドモ朝スレバ日東方ニ出ツ、且ツ革ハ改レ旧ノ義アリ、然ト雖豈ニ即日信シ改ムルコトヲ得ンヤ、必ス人信シテ後ニ改ムベシ、又期望セザル羽翼ノ人出テ輔佐スルアラン、来亥四五月ノ間ニハ決テ湯武革レ命ノ時至ルベシ、其節ニ至リテ勢ヒニ乗ルベカラズンバ、誠ニ難有世上ニ可相成ト窮慮ニ端座シテ余命ヲ楽而已、

但真先ニ衣服ノ製ヲ革ル事件ヨリナランカ、

旧戊七月九日暁　　上村行敦考

文書原寸　縦一六・二糎　横六一・三糎　包紙原寸　縦二八・五糎　横　四〇糎

三三八七　左府公ヨリ三条相国へ

上書提出ノ件

炎熱之候、愈々堅剛被成御勤務奉大賀候、然ハ昨日は卒爾之上書御取次奉頼上候処御受合被下、別而忝安心仕候、誠ニ蠧暴之愚論演舌仕御笑止之筈と奉察候、乍併天下之御為不残心底申述候義ニ御座候、定而御壅閉ハ無之天覧ニ御備被下候事ニハ奉存候得共如何之義ニ御座候哉、為念御尋申上候、尤御疑問被為在候筈と奉存候ニ付何卒速ニ御承知仕度候、此旨乍略義以乱毫奉伺貴意候、以上、

再白、昨日申上残候西郷信吾・野津七左衛門如此苛

酷、武国所之野人ハ以迅速御退黜、偏ニ奉願候也、

文書原寸　縦一六・五糎　横二三・三糎

三六八　西園寺実満ヨリ左府公ヘノ建白　二通

九月一日ヨリ施行セラルヘキ従前ノ墳墓埋葬禁止ノ東京府令撤廃ヲ乞フノ件

二三八八ノ一

謹聞ク　殿下ハ天資篤行寛仁明識ニシテ、能ク古今ノ得失ヲ知リ、加フルニ天下ノ英俊奇傑皆鞠躬尽力、事ヲ究メ情ヲ竭シテ上言スト、焉ンソ臣駑才ノ言ヲ俟ンヤ、然レトモ螻蟻憂国ノ志又以テ仁察ヲ仰ク、伏シテ惟ルニ、方今海内ノ形勢殆ント危急ニ際シ、将ニ鼎沸ニ処セントス、是ノ時ニ当テ都下亦騒擾ノ変アラントス、墳墓禁移ノ令是ナリ、微兵ノ令是ナリ、諺ニ曰ク、其微ヲ未然ニ防ク力ヲ用ユル小ニシテ功ヲ挙ル大ナリ、既ニ其顕ルヽニ至ツテハ、力ヲ用ユル、愈大ニシテ愈及フ能ハサルナリ、臣慷慨万止ム能ハス、右府公ニ建白シ、以テ民擾ヲ未然ニ鎮セント欲ス、然レトモ臣短才庸愚在廷ノ信ヲ取ル能ハス、故ニ又右府公ニ奉スルノ書ヲ添テ以テ　殿下ノ英明ニ依頼ス、伏シテ冀クハ区々ノ微衷ヲ愍了シテ納容シ玉ハンコトヲ、臣実満誠惶誠惶再拝謹白、

西園寺実満

明治七年八月

左大臣明公殿下

侍史開奏

文書原寸　縦二〇・二糎　横六七・五糎

二三八八ノ二

（表紙）「建白　西園寺実満」

伏シテ惟ルニ、古今明王ノ天下ヲ統治スル其政令皆人情ノ原ツク所ニ随テ、沿革異同各施説ノ法ヲ布ク、譬ヘハ水ノ卑キニ下ルカ如ク、令シテ行ハレサル無ク禁シテ止マサル無シ、其仁百代ニ照臨シ、其徳万世ニ沛沢ス、是ヲ

以テ天下常ニ泰山ノ安キニ処ス、夫レ　仁徳天皇ノ宮室亜カス御床雨ヲ容ルヤ、　孝明天皇ノ民ノ為ニ国ヲ慨スルヤ、天下皆其仁ニ帰ス、武王ノ紂ヲ伐ツヤ商客ノ閭ニ表シ、比干ノ墓ヲ封ス、漢高ノ関ニ入ルヤ秦ノ苛法ヲ除イテ三章ヲ約ス、而シテ四海皆其寛ニ服ス、古今世ヲ別チ和漢国ヲ異ニスト雖トモ、英明ノ主天下ノ為ニ事ヲ処スル符節ヲ合スカ如シ、悉ク当時ニ於テ美事良法ナラサル無シ、方今　聖明上ニ親臨シ、英雄下ニ賛輔シテ開化文明日ヲ刻シテ進歩スルノ秋、上下ノ情互ニ貫通シテ百事百挙当ラサル者無キカ如シ、然リ而シテ政令日ニ密ニ、刑法日ニ深ク、賦歛日ニ重ク、騒乱日ニ踵キ、民心日ニ離ハ是レ何ニ由テ然ルヤ、是レ皆怠惰姑息ノ情ニ起ツテ有名無実ノ弊ニ出ル者欤、又百事数百年ノ確定ヲ以テ、是レヲ一朝ノ改革スルニ由ルカ、将又賢路壅閉人才蔵匿シテ士道陵夷シ、廉恥ノ風地ヲ掃フノ致ス所カ、然ラスンハ官其任ニ堪ヘス、禄其能ニ当ラスシテ、忠義ノ気振ハサルノ成ス所カ　殿下以テ如何トナス、臣其ノ由テ来ル所ヲ知ラス、夫レ政令ノ密ナルハ森羅万象一トシテ号令布告ニ係ラサル者無シ、甚シキニ至テハ墳墓ノ禁移アルニ至ル、刑法ノ深キハ天下ノ徒場檻獄悉ク罪囚ニ塞ル、号令布告半ハ罪者ノ物色ニ係ル、又斬絞懲役ノ掲示スル者日ニ陸続タリ、又負債ノ身代限リニ断スル者其掲示表ニ嵩シ、而シテ法官ノ門原告被告ノ訟訴、日ニ市ヲ為ス、輦轂ノ下尚ホ是ノ如シ、況ヤ海内ノ広キ推シテ知ル可シ、諺曰、水源汚濁ニシテ下流清潔ナル者無シト、賦歛ノ重キハ山河大地事々物々一トシテ税租ヲ容レサル無シ、甚シキハ皇族華族ノ食禄ニ及ヒ、勅奏官ノ月俸ニ及フ、騒乱ノ踵クハ戊辰以来七道ノ郡県此ニ民擾ヲ釀シ、彼コニ叛逆ヲ起シ、或ハ要路ノ顕官奇禍ニ座シ、人民日トシテ四海ノ静安ヲ知ラス、終ニ今日兵海外ニ連ルニ至ル、夫レ是ノ如キノ形勢ニ至ツテ民心ノ離レサル者ハ、天下古ヨリ未タ聞カサル所ナリ、　殿下博覧明識古今ニ通達シテ臣カ乳臭ノ言ヲ俟スト雖トモ、公明正大以テ万機ノ大政ヲ輔賛シ、寛仁明決以テ天下ノ民心ヲ収攬シテ既往ノ

流弊ヲ一洗シ、而シテ仁政以テ民ニ施シ、徳沢以テ下ニ及シ、天下億兆ヲシテ綏撫ノ実ヲ尽シ玉フ可シ、然レハ則チ其名伊周ノ右ニ秀テ、其功斗南ニ第一タリ、然リト雖トモ、事ニ緩急アリ、本末アツテ施設取捨ノ際又容易ナラス、其緩急ヲ前後シ、其本末ヲ顚倒シテ人心ノ順逆ヲ計ラスンハ、其害亦事ニ随テ大ナリ、　殿下深謀遠慮、其急ヲ急ニシ、其緩ヲ緩ニシ、其本ヲ前ニシ、其末ヲ後ニシ玉フ可シ、方今兵海外ニ結ヒ民国内ニ離レ、国力疲弊廟謨多端、殆ント危急存亡ニ際ス、此時ニ当テ　輦下若シ不虞ノ変アラハ、海内土崩ノ勢夫レ是レニ原ツカンカ、苟モ忠義ノ心アル者豈ニ之レヲ傍観坐視スルニ忍ヒンヤ、臣慷慨ノ志万止ム能ハス、　殿下ニ上書シ、眉火ノ急ヲ救ヒ、民擾ヲ未然ニ防カント欲ス、抑今般府下従前ノ墳墓悉ク埋葬スルコトヲ禁シ、九月一日ヨリ之レヲ施行スルノ公令アツテ、人民各驚愕悲歎ノ情ヲ生シ、哀訴悃願府庁ニ陸続スルト、府庁若シ人民ノ哀願ヲ容レスンハ騒擾ノ変由テ起ル計リ難シ、其ノ故如何ントナレハ、人民ノ墳墓ヲ敬尊スル皇国固有ノ美事ニシテ、所謂ル終ヲ慎ミ遠キヲ追フ民ノ徳厚キニ帰スノ言ナリ、加フルニ仏法一タヒ我邦ニ入リシヨリ千有余年、王公ヨリ士庶人ニ至リ之レヲ敬シ、之レヲ師トセサル無シ、其教民心ニ感銘シ、其法民骨ニ深刻ス、今累世浸潤ノ俗ヲ以テ一朝沿革ノ法ニ従ハシム人情ノ堪サル所ナリ、縦令ヒ釈氏ノ教ニ由ラスト雖トモ、墳墓ハ人民各祖宗ノ元基ニシテ、皇室ノ宗廟アルカ如シ、之レヲ移シ之レヲ禁ス、宜ヘナリ、人民哀訴ノ雑沓スル、昔シ田単即墨ヲ守ル、燕軍城外ノ墳墓ヲ発クヲ見テ軍民大ニ忿怒シ、一挙七十余城ヲ恢復ス、悉ク田氏ノ画策ニ出ルト雖トモ、亦軍民忿激ノ力ニ依ル少シトセス、又項羽ノ秦ヲ破ル始皇ノ墓ヲ穿ツテ天下ノ宝玉ヲ網羅ス、秦ノ民豈ニ恨ミサランヤ、義帝ヲ江中ニ弑シテ而シテ身モ亦烏江ノ鬼ト為ル、諺ニ曰ク、爾チヨリ出ル者ハ爾ニ帰ルト、羽ノ英雄ヲ以テ乱世ニ処シ、事ノ此ニ及フ、猶可ナリ、然レトモ平素残忍ノ心天怒リ人恨テ大業ヲ成スコト能ハス、垓下ノ一戦終ニ天下

ノ戯トナル、彼我事ヲ別ニシ古今世ヲ分ツテ猶人情ノ趣ク所、即チ一ナリ、然ルニ何者ノ建議カ興利ノ説ヲ以テ此ノ残忍ノ事ヲ起ス、是レ古今ニ暗ク民情ヲ知サル者ナリ、方今廊廟ノ上国家ノ急務次ヲ追テ到ル、焉ンソ区々ノ小令ヲ施スニ遑アランヤ、又嘗テ墳墓云云ノ公令ヲ見ルニ偏頗無シトセス、三府六十余県ノ大独リ東京ヲ禁シ、而シテ官ノ有スル所朱引内ト雖トモ亦之レヲ置キ、人民ノ有スル所之レヲ禁ス、而シテ又小塚原ノ如キハ旧政府数百年之間、天下ノ窃盗巣賊八逆ノ罪人俯仰天地ニ容レサル者ヲ以テ、之レヲ刑シ之ヲ埋ム、普天ノ下汚穢刑場ヨリ甚シキハ無シ、然ルヲ名ツクルニ清浄ノ地ヲ以テシ無事温良ノ民ヲ茲ニ埋葬セシム、何ンソ民ノ甘心スルコトヲ得ンヤ、之レヲ堀ルニ満地白骨ナラサルナシ、臭汚ナラサルナシ、又夫婦ノミ先人ノ墓ニ祔葬スルコトヲ許シ、君ニ忠臣アリ、父ニ孝子アリ、兄ニ順弟アリ、朋ニ信友アリト雖トモ、之レヲ禁シテ各其天稟ノ誠意ヲ全スル能ハス、紛擾ノ原夫レ此ニ胚胎センカ、按スルニ此令ノ発スルヤ二ツノ原因アリ、一ニ曰ク、洛外荒蕪ノ地人民利用ニ供セサルヲ以テ之レヲ購求スル者ナク、空シク会議所ノ有タリ、是レヲ以テ利ヲ興スノ策一ナリ、二ニ曰ク、街路直行碁盤ノ如ク、人家駢列方函ノ如ニシテ、電線夜燈車行人歩各自在ヲ為サシメ、海外各国ノ都府ニ軌リ、都下ヲ荘飾スルノ策一ナリ、夫海内ノ広ヲ以テ洛外区々ノ地之レヲ荒蕪ニ委ルモ亦何ンソ損益スル所アランヤ、縦令是レヲ墳墓ニ決スルモ、亦人民ノ随意ニシテ可ナリ、且ツ都城ノ修飾ハ海外各国ト雖トモ、豈ニ鴻荒ヨリ荘麗ナル者アランヤ、皆ナ開化百年ノ漸ヲ以テ成ル者ナリ、未タ一時ノ創営スルヲ聞カス、我邦亦然リ、人民開明ニ進ムノ漸ヲ俟ツテ、上下一和シ国力強大ニシテ、而シテ後チ其美五大洲ニ冠絶スルノ都府ヲ興スト雖トモ亦容易ナリ、今日信義以テ海外ニ接シ、仁徳以テ国民ニ対セハ何ンソ都府ノ修整セサルヲ以テ　皇国ノ恥顔トスルニ足ンヤ、　殿下古今ノ情態ヲ折衷シ、人民ノ至願ヲ愍酌シテ速ニ墳墓ノ令ヲ刪除シ玉フヘシ、然ラスンハ

輦下不虞ノ変万一ニ計ル可カラス、是其ノ急ヲ急トシ、其ノ本ヲ前ニスルナリ、而シテ他日都下路線ノ改正ニ該ル者ハ、時ニ臨ンテ又施設ノ法アル可シ、一朝区々ノ小令ヲ以テ天下ノ大事ヲ起サントスル、其得失何ンソ識者ヲ待ツテ弁センヤ、今　殿下位三台ニ処シ、職万機ヲ賛ク　王室ノ柱石天下ノ大任ナリ、故ニ言行坐作一トシテ万姓ノ表目ニ係ラサル無シ、天下ノ安危ニ関セサル無シ、伏シテ冀クハ、臣カ螻蟻ノ言ト雖トモ、其微衷ヲ愛容シテ取捨シ玉フ所アラハ万死猶余栄アリ、屢不遜ヲ顧ミス、厳威ヲ冒瀆ス、臣実満誠惶誠恐昧死謹白、

明治七年八月　　西園寺実満花押

右大臣明公殿下

冊子原寸　縦二七糎　横一九・三糎　九枚

三三八九　山本復一ヨリ政府ヘノ建言

征台ノ兵ヲ収ムルノ議

当今燃眉之急何ソヤ、台湾之事是也、神州興廃之機実此ニ決ス、熟ラ其顛末ヲ考ルニ、副島(種臣)氏ノ談判未タ尽サ、ル所あり、台地ノ攻撃一応支那政府ニ迫リ論スルコトナシ、然ル則ハ我カ措置未タ密ナリトセス、支那ノ曲タル未タ服セサル者アラン、然レトモ騎虎ノ勢已ニ止ムヘカラス、必ス其雌雄ヲ決セント欲ス、而シテ僕大ニ憂ル所アリ、今ヤ府庫余財ナク万民日ニ窮ス、而シテ陸ニ練兵乏ク海ニ船艦少シ、徒ニ外債ヲ生シ横ニ大敵ヲ挑ム、縦令一時ノ勝ヲ得ル、恐ラクハ忘(忽カ)ニ不測之禍ヲ釀サン、唇歯ノ交ヲ捨テ、鷸蚌之笑ヲ招ク、豈ニ可ナランヤ、且聞ク、米利堅ノ朝鮮ニ戦フヤ一タヒ其鋒ヲ試テ敗ル、爾後復報復ノ挙ナシ、是米人ノ怯ナルニ非ス、米人ノ智ナル也、其之ニ克ツモ益スル所ナキヲ知レハ也、今ヤ琉人ヲ殺スノ讎已ニ復シ、我カ義勢大ニ揚ル、亦以テ我兵ヲ収ムヘシ、若然ラサル時ハ戦結ヒ、兵構ヘ陸続出兵セサルヲ得ス、徴募ノ民丁未タ用ユヘカラス、力ヲ旧藩士族ニ借ラサルヲ得ス、縦令其力ニ資テ之ニ克ツ、兵驕リ士強ク復制御スヘカラス、是亦可憂也、神州安危実ニ今日ニ

決ス、請審ニ計之、

明治七年八月　　山本復一

文書原寸　縦三三・五糎　横二三・七糎　二枚

三三九　津軽承叙ヨリ三大臣ヘノ建白

時弊匡救策五ケ条

「上書（包紙ウワ書）　津軽承叙

○（朱）　」

曩ニ廃藩置県ノ盛挙アルハ、大義ヲ明ニシ名分ヲ正シ、確乎独立不抜ノ国本ヲ立テ、綱維ヲ張ル所以ナラン、然ルニ其実蹟今ニ至リ見ルコトナク、只事情ハ洋風ニ模擬シ冗物ヲ海外ニ求メ、漸次奢侈ノ俗ヲナスノミ、故ニ遠陬動モスレハ愚民法ヲ犯シ、佐賀擾乱ノ如キアリ、尋テ征湾ノ役ヨリ支那ト交戦ノ勢ニ至ル、是内治外交其宜ヲ得ト謂フヘカラス、嗚呼支那ト隙アル至大至重、況ヤ魯英ノ如キモ素ト常ニ我ヲ覬覦スルノ心アリ、実ニ恐ルヘキノ外患、天下誰カ寒心セサルアラン、骨鯁ノ志士憤ヲ抱キ、野ニ哭スルノ時ニシテ、宰相尚吐握ノ礼ヲ躬スルヲ顧ミス、悠優不断、徒ニ文徳ヲ名トスル、或ハ時ヲ誤ン、此時ニ際シ専ラ諸省ノ用度ヲ略シ、大ニ軍備ヲ興張センコト尤モ当ニ務ムヘキノ急タラン、因テ権限ヲ超ヘ斧質ヲ冒シ瞽言五条ヲ献ス、其当否ノ如キハ明公能ク其レ之ヲ詳ニセヨ、誠恐誠惶頓首頓首、

明治七年八月　　津軽承叙○（朱「承叙」）

太政大臣三条実美殿

左大臣　島津久光殿

右大臣　岩倉具視殿

閣下

一君大禄ヲ賜リ、臣其恩ヲ報セス、苛モ私門ヲ営ムト爵位ヲ乱リ、与奪ノ権其宜キヲ得サルト、是皆禍乱ノ原ナリ、承叙等能ナクシテ貴位ヲ被リ、功ナクシテ大禄ヲ賜リ、其義務タル何レニアルヲ知ラス、抑何ノ恩遇ソヤ、実ニ恐懼ニ堪ヘス、或ハ二石石（ママ）三万石ノ家禄ヲ

賜ルノ華族アリ、是亦何ノ報効アルヤ、只シカノミナラス其大禄尚足ラス、隠ニ小民ト利ヲ争フニ至ル、今日ノ弊此ノ如クナレハ恐クハ大恩却テ禍乱ノ原トナラン欤、方今猛断果決、速ニ華族ノ義務ヲ授ケ大ニ其禄ヲ減スヘシ、然ラスンハ禄ノ多寡ニ随テ軍役ヲ助ケシメ、其酖楽翫弄ノ為ニ糜費スル所ヲ以テ、専ラ軍備ニ充補シ、大ニ国本ヲ立テ綱維ヲ張ラスンハ、恐ラク臍ヲ嚙ムノ歎アラン、

一政事ヲ簡ニシ用度ヲ節スルハ、省ヲ合シ人ヲ減スルニアリ、省多キトキハ事務繁冗ニシテ其人ナキ能ハス、故ニ左院ヲ以テ正院ニ合セ、内務・大蔵合テ一省トシ、工部ノ如キハ之ニ属スル司寮ト為シ、文部・教部モ合一スヘシ、而シテ官費ノ洋行御雇入ノ洋人等必需ノ急務ニ非ル者ハ大ニ之ヲ減シ、専ラ用度ヲ節シ以テ軍備ニ充ヘキ事、

一士族ハ固ヨリ兵ニシテ国事ニ死スルハ其職分ナリ、然ルニ今之ヲ問ハス、又更ニ兵ヲ平民ニ募リ新ニ給ヲ与フ、承叙聊之ニ惑フ、抑兵ノ安危存亡ハ是非ト虚実トニアリ、何ソ必シモ老弱長短ニ由ンヤ、然ラハ兵ヲ取ル有禄ノ士族ニ就テ選ムヘキ事、

一大監ノ職ヲ置キ、大臣以下官吏ノ勤惰華士族ノ邪正ヲ督シ、或ハ朋党不正政治ニ妨害アラハ、宜ク之ヲ監察シ直ニ

陛下ニ奏シ之ヲ処分スヘキ事、

一皇居ヲ旧城地ニ建築シ、天下ノ耳目ヲシテ儼然トシテ其尊威ヲ仰カシメ、苟モ爵位アル者四時朝覲セシムヘシ、是所謂大臣ヲ敬シ群臣ヲ体スルナリ、且正院ヲ近接ノ場所ニ設立シ、

陛下日々親臨シ、万機ヲ聴断遊ハサルヘキ事、

冊子原寸　縦二四・三糎　横一七・二糎　三枚

包紙原寸　縦二八糎　横四〇糎

三三九　近世烈士伝自序　筆者不明

近世烈士伝自序

（朱、以下同ジ）

「起首頗似五代史諸伝序論妙」

余聞諸烈士之脱水戸次安食邑也、招瞽者円樹、使演院本忠臣蔵演之未了、衆皆感歎歔欷、揮涙而去、蓋諸烈士、亦似追慕赤穂義士者、然以余観之、事之難易、義之優劣、固不可同年而論也、何則安政戊午、権姦之興大獄也、上自親王公卿、下至布衣韋帯、一時名賢君子、清議讜論之士、為之一空、終至於要至尊遜位、而挙朝惴々、屏息箝口、道路以目、於是諸烈士、奮於困頓流亡之余、斃元悪於一撃、回天日於将堕、何其烈也、則四十七士不足道耳、而余烈之所及、尋又有阪下之挙、及五条挙兵、生野唱義之属、大率皆聞其風、而起者、従是以来、天下人皆知尊　王室勤　王事、而唱義殉難者、踵相接、以啓今日中興之隆運者、豈非謂諸烈士首唱之功也耶、自諸烈士逝、十五年于茲矣、其盛躅赫々、与日月並明、与天壌不磨、雖児童走卒、莫不誦其姓名、其為烈固不待区々筆墨而伝也、然或恐有載筆者、採録口碑、往々失其実者、於是今春遊水戸、親捜訪其逸事、或質之其父弟、或問之其朋友、終不自揆著此編以欲使諸烈士心事、暴白於天下後世也、昔者、嘗聞之。麗藩人。毎年十二月十四日。夜老幼相会。読赤穂義臣伝。相与感歎咨嗟。徹暁以為例云。麗人之尚義為風。蓋亦有以也。宜哉。当時有如有村氏兄弟者焉、然則烈士之為烈、孰知非赤穂義臣之萃礪之乎哉、嗚呼。何世無権姦。天下後世読此書者。追慕諸烈士。猶麗人之於赤穂義臣。而感憤興起。人々常以除国蠹。安社稷為心。而不幸或会権姦弄改之時。挺身殉義。能為諸烈士之所為。則為権姦者。亦必知所誡且懼焉。則区々撰著、未必無小補於世道人心也、迨刻成書以

「引麗城佳話為陪襯与首段映照巧甚妙甚」

「発起前意草刀十分」

弁巻首。

「(朱)議論慨功筆挾風露能使読者奮発興起可謂傑作矣、

狗年八月十日　川田剛妄評多罪」

冊子原寸　縦二四糎　横一六・七糎　二枚

三三九二　横浜ヘラルド新聞評論

日本ノ為ニ愛国ノ賢相ヲ要ス

横浜ヘラルト新聞抄訳

日本ノ為ニ愛国ノ賢相ヲ要スル説

方今此ノ混乱セル日本政府ニ於テ事ヲ取ル者至愚ノ処置ヲ施スコト、是英人ノ深ク注意シテ見ル所也、如何トナレハ日本ノ親友ハ固ヨリ英国ノ如キ者ナキ也、曩ニ日本ニ於テ固陋ノ弊習ヲ脱シ、次序ノ整然タル開明諸国ノ締盟中ニ入ランスル(ト脱カ)危急ノ秋ニ当リ、其能ク力ヲ尽シテ周旋セシ者ハ英国也、然シテ今英人ヲ以テ日本ヲ観ルニ、其勢未タ急ニ改革ヲ為ニ至ラサル分明也、又能ク之ヲ察スルニ事ヲ取ル者多クハ至愚ニシテ政務ニ達セス、邦国ヲ統御スヘキ識量ナキニ因テ、国民ノ心志遂ニ之カ為ニ激動シ、遠カラスシテ国ノ大事ヲ生スルニ至ラン、故ニ日本ノ開化ヲ急ニスルコトヲ要セスシテ、徐リニ(ヒ)其事ヲ謀ルノ名相ヲ出サヾルハ国ノ不幸ト云ヘシ、今ヤ此国ノ勢開化ノ域ニ進歩スルヨリモ、恐クハ却テ紛乱ノ途ニ退歩シ、奮激謀叛ノ徒起リテ国必ス大ニ乱ルヽニ庶幾シ、今我輩預メ此国後来ノコトヲ前言シテ憂苦ス、因テ思フニ海外ヨリ来ル所ノ論説亦我輩ノ論外ニ出ザルコト必セリ、一千八百五十九年、日本帝国ト通信交易ノ道少シク開ケシヨリ、人気国ヲ利セリ、且従来外国人ヲ拒絶セシ弊習ハ、同年支那ニ起リシ事件ノ後、遂ニ之ヲ廃止セリ、而シテ此時日本ノ制度紊乱シテ治ムヘカラス、国ノ安泰ヲ期セント欲セハ、一大改革ヲ為サヾルベカラス、故ニ此事機ニ至リ、同国人民ノ衆議ヲ以テ更ニ其政府ノ基礎ヲ固フシ、旧時ノ政令ヲ改新セシメ、以テ一千八百七十一年天皇陛下ヨリ国ノ名臣ヲ使節トシテ西洋諸盟国ニ遣レリ、然シテ彼輩到所恭敬懇款ノ待遇ヲ受ケサルナシ、

夫レ日本ノ外国交誼ヲシテ求ム所ノ篤信ナルニ、内国ヲ治ル処置ニ至リテハ却テ太タ愚也、加之　天皇陛下ノ大臣等政務ニ熟達セス、属危険ノ事ヲ以テ其国ヲ試ム、是所謂国ヲ弄フ者ニシテ、更ニ人ヲシテ戦々兢々ノ惑ヒヲナサシム」、抑全国人民ノ信奉スル心情ニ戻リテ釈教ヲ蔑視シ、或ハ漫リニ反覆ノ新令ヲ下シ、神拝ノ式ヨリ断髪ノ制ニ至ルマテ何事ニ拘ラス、新奇ノ布令ヲ出シテ常ニ人民ヲ苦メリ、斯ノ如ク無益ノ改革ヲ為スニ因テ、唯利ヲ貪ル有司及ヒ衣食ノ為ニ奔走スル如キ、絶テ廉恥ナキ外国人ノミ独リ利ヲ得ルニ至ル、斯ク条理ナクシテ民心ヲ激怒シ、且浪費ノ変革ニ違フ者、其声ヲ高クシテ其不平ヲ言ハン、畢竟政府一時ノ便利ノミヲ計リテ人民ノ貴重セル制度ニ関渉シ、頃日ノ大難ヲ引出セシモ、全ク国政ヲ治ムル克ハサルニ因テナリ、

日本ハ内其国法ヲ紊シ外其交際ヲ脩メス、千八百七十年ヨリ以来速急ノ過劇ノ処置ヲ以テ、不善ノ改革ヲナス故、将来或ハ進歩ニ疲ル、時アルヘシ」、古昔ヨリ日本ノ如キ進歩セサルノ人民ノ慣習ハ数月ニシテ之ヲ洗除スルハ太タ難シ、縦令人民保全ノ為ニ一大変革ヲ要スルモ、猶且之ヲ徐々ニ行ヒテ後来成功ノ期ヲ待ヲ良計トス、日本ノ旧法中ニ於テ取ル者ハ能ク斟酌シテ之ヲ採ルヘシ、必速急ニナス可カラス、進歩之地ヲ占シテ漸ヲ以テ行フヘシ、又改革ニ因テハ一二世ヲ経、初メテ功ヲ奏スルコトアリ、日本モシ西洋ノ開化ニ従テ法律或教育或政事等ニ至ルマテ、締盟中ノ各国ト肩ヲ比セント欲セハ、現今当路ノ執政一千九百年ニ至ルヲ期トシ、安ンシテ其事ヲ為サハ頗ル智慮アリト云フヘシ、

若夫レ古来ノ論説及人民ノ性質ヲ顧ミス、急ニ之ヲ進歩セシメント欲スルトキハ、所謂進歩ノ利益ヲ失フニ至ラン、今ヤ日本ニ於テ事ノ成敗ヲ顧ミス、好テ改革ヲナス者アリ、或ハ之ヲ改革セント欲スルモ、其力能ク之ニ慴サル者アリ、是両ナカラ要セサル所也、故ニ現今ノ如ク改革ヲ急ニシテ遂ニ民心ノ不平ヲ招キ、国家ノ大変大乱ヲ釀スニ当テハ、彼ノ輩ニ易ヘルニヨリ、此国ヲ救フヘ

キ有才守旧ノ賢相ヲ要スル也、日本ノ安泰ハ多クハ外国ト懇親ヲ結フニアリ、　天皇陛下ノ輔佐剛毅ノ心ナリ、又愛国ノ情ナク事ヲ為スニ慎重ナラス、此国ヲ波濤ノ上ニ浮ヘ、然シテ今此艱難危急ノ秋ニ当テ、自由ニ此大艦ヲ運用スヘキ勇敢ノ水師ヲ見ス、去月ノ処置ノ如キハ即チ至愚ニシテ事ヲ未然ニ看ル克ハス、後或ハ悪菓(果)ヲ結ン、如何トナレハ仮令一時台湾征討ノ命ヲ廃セルモ後必害ヲ招カントス、夫レ支那ハ人心一和強盛ニシテ、且リーノ如クツーノ如クガングノ如ク、又「ジョーウオリン」ノ如キ英傑輩出シテ、彼ノ強健ナル支那人ヲ駕御セリ、而今日本ニ於テ支那領ノ一部ヲ侵奪セント欲セハ、必其不敬ヲ責テ償金ヲ求メンコト必セリ、支那ニハ戦艦アリ、精兵アリ、其罪ヲ責ルニ足ルヘシ、日本ノ民不幸ニシテ、其至愚ナル執政ノ濁行ニ由テ苦難ヲ受クヘシ、又朝鮮ヘ問罪ノ師ヲ出スモ、亦必其功ヲ得ヘカラス、故ニ此二ツノ者ハ策ヲ得タル者ニ非ス」、副島(種臣)必ス支那人ノ朝鮮ヲ助ケテ日本ノ師ヲ伐ツコトヲ知ルヘシ」、去月ナス所ノ至急ノ処置ハ必日ナラスシテ著明ナラン、然レトモ其国位ヲ降シテ軍威ヲ損シ、大金ヲ費シ人心ヲ失ヒ「サカレン(サハリン)」島ヲ奪レ、琉球島ヲ失フ如キハ今既ニ是ヲ表セリ」、我輩日本ノ為ニ従来憂慮スルヲ以テ今前言スル処、悉皆空論トナラハ、我輩ニ於テ何ノ幸カ之ニ過キン、願ハクハ造物主ノ厚賜ヲ受ケタル、此日本ヲシテ幸福弥栄ナラシメンコトヲ、然レトモモシ此国ニ於テ智謀有志ノ人ヲ得ルニ非レハ、三年以前ヨリ表旌セル進歩ノ形勢モ必変シテ災害並至リ、遂ニ他国ノ付属トナラン、

文書原寸　縦三二・七糎　横二四・五糎　三枚

三三九　東京府士族松井強哉ヨリ左府公ヘノ建言

時弊救済富国強兵策ニ就テ

(表紙)「建白

東京府士族松井義烈男
松井強哉」

布衣強哉再拝、稽首頓首謹、上書

従二位左大臣島津公閣下、夫今左府盛徳至仁文武兼備、頓雖整耳目之股肱、然必不可謂無一失、臣不肖朽木糞土之愚、蠢爾覓見雖固不足表真、豈亦不可謂莫一得也、臣狂慮遇当、心欲言不能筆、雖然以文格書法而、不可忸怩之秋矣、伝云智出天下而聴於至愚、威加四海而屈於匹夫、故臣輒自不度愚賤而、不敢犯尊威不告也矣、孔子曰工欲善其事必先利其器、臣請先白其利害、其利害者何乎、乃風俗陵夷元気仆滅是也、夫風俗者雖与世推移者、其伝来流行浸潤之勢、或厚或薄或虚或実、其厚実也富強、其虚薄也貧弱、是則国家隆替人心邪正、其得失興亡、莫他尽生於風俗焉、故前輩之論説頗充具而、今所不敢俟臣之謇告也、然小大異同各有其差、今臣窃見其勢、上自天子下至庶人、概擬風於海外、冠彼帽衣彼服、遂失告朔之餼羊而、起居進退師彼学于彼、臣愚次為是軽薄貧弱之俗而、非敢富強厚実之風也矣、如何則古者官養民也、士者安貧楽義、苟不為勢利動其心、不為患禍変其節、見死如帰、農商亦従孜々給其用而、上下交足矣、是所以海外之不如我而、尤所彼之惶我也、輒我孤邦綿々独立、仮令雖彼垂涎於我豊土、其容易不可侵掠也可得知也、今也不然、民養官也四民同一、交疾貧争求富、上下貪利不飽欲富益不富、疾貧愈貧、遂失義不遺、漸生不足矣、迺所以海外之希望而、彼所逞其欲可得知也、今国家已承於旧幕之衰弊而、一奮将張四維之日、未数歳而、又将集天下之怨毒矣、噫率不教不学之民、専任於聚斂之吏、吏争競其速成而、教令煩刻民疲幸不敢生乱、豈不招斯衰弊也哉、夫衣冠今日之用、固有足於我而、何為求于彼乎、是吾求於彼以、争利於我、乃利彼而致吾貧弱之一也、建大廈築高堂、経営悉擬於彼而、蓋成于彼者居多、則利彼而致我貧弱之二也、府県課其貢税、苟以区々計算、周密其賦而莫遺利、与民争毫末矣、況乎強募民費、競興庠序、華屋壮堂、経営広大、民恐懼而不知所出、聚斂以供無用之費矣、則利彼而致吾貧弱之三也、徴兵卒課其生年、最採於農商也、士族始失望、遂恨不復用、各廃棄之憂矣、農邪商也、父母失其愛児而、哀痛廃其営、兄失其孝弟而、悲泣怠力耕、

骨肉之情疑其死生、噫無知之民、始遇於斯苛矣、且集之而雖為兵、太無虎貴之勇、却有群羊之怯、苟対敵之秋、不知其動静果如何也、則利彼而、致吾貧弱之四也、贖罪違式詿違之科、民未慣其煩雑、或犯其目、吏務求其瑕疵、罪人日愈多、盗賊月陪盛、官吏率銭数其課、犯民齎銭塞其責、惟恨、狼賊随刃無辜矣、亦罪民之多、未曽有盛似今欤、去歳之良民、今年之盗賊、明暗異地、誰施斯教令乎、嗚呼窮亡困迫累其心身也、則利彼而致吾貧弱之五也、嗚呼作斯数事者誰焉、噫着彼衣冠、乗彼馬車、安彼巨室、踞彼美床、謾唱開化文明、仰望鮮樓之石造、俯臨槁路之鉄作、弁義務説愛国、以虚誕無実、喋々拾細目、以聚斂苛察、区々数遣利、専図速成之功、不知其僥倖、意気揚々敢自誇于尺寸矣、一朝言苟有所不合、恐其不所容、疑懼自不安、阿諛末旨、巧探苟容、心如不堪、出入唯々、面表正義、心算得裘、依於賄賂更左右、然諾、特以愛憎遅速其公事、競固其私也、苟欲以掩悪諱過、全身於官途、毎有過悪、未聞一人在以身任於罪戻矣、所謂危顛而不持扶、窃取利禄以、奉養妻子而已、嗚呼斯開化之俗、蓋以為官吏之風而、施至于庶民、延蔓波及其勢、殆不可禁也、臣又見所以斯文明之伝染、蓋醸乎彼海外之狡黠而、成乎我俗吏之私欲者欤、自古海外之偽謀、其不可忽亦不宜乎、嘗豊太閤之征韓也、虜使惟敬等、利小西・石田等之佞慧、一時施欺謀矣、宋韓縝・蔡確等之接於夏審、虜使顧反脣微笑、如我小西・石田之於乎明使、是虜窃喜其有利於彼也、焉、今廼蛮客慫慂之於二三官吏、朝廷得師之於細大、於乎斯始起軽薄之風矣、臣愚以為、不敢富強而、乃貧弱之萌也、臣聞之、漢張湯、唐盧杞丁謂、宋安石恵卿之徒、果何等之人乎、今朝廷必雖無斯徒之姦臣在、惟至種禍於国家者一也矣、臣焉非敢詆誹朝廷、惟憂之、国情日洶々乎、中外傷風俗、上下貪利以為文明開化、指厚朴為迂闊、指軽薄為明敏、惟恐、若一旦有緩急則、挙朝之官吏能致命以、不辱国体哉否矣、今既有事於海外乎、臣輒不敢慥悲憤而、所訴区々之哀也、始吾接于海外也、所以補短助長者而、今長短悉採以、備吾於虚実而、其虚勝似実、特

聞其利未究其害矣、今可採於彼者、無他銃砲之戦具与、紡織之器械而已、故臣曩者、自不計敢以覓見、上表　皇帝陛下而、所以論其本末也矣、今左府忠功満天下而、威徳蓋海内、位列三公、於戯、可謂功徳並備矣、所謂国之柱石而、民命之所繫也、故臣請敢白其緩急者、夫緩急者、知幾之能也、自古君子者能知其緩急矣、曽右大将源公之起于伊豆乎、上皇屢促上京、然源公先定関東而、後平族織田右府之奮于尾張乎、先定畿甸而、後関東、豊太閤・東照君者、蓋継緒於織田公而、成其志者、皆雪帝側之乱、随奏大勲者矣、足利氏其跡雖無可見然興、北条氏雖姦、其治有可見者、是数氏者、皆能知其緩急而、統御英雄従人心而、鎮撫海内矣、仮令、後醍醐帝之賢而、加之以楠・新田等之厚忠、然亡、秦始皇雖極富強如我平相国僅二世而亡、不得其緩急也、臣聞之、昔者自堯舜以来、至於今清国、能知其緩急而得人心者、或為帝或為王、謂聖謂賢、云徳之厚薄、周武王豈不啻周公一弟哉、雖然、独周公能知其緩急、施仁政而、臣事於成王、後世讃之焉、夫其存亡之門、尽出於風俗而、入於緩急之得失也、可得知也、故臣特悲之、元気之日憔悴而、風俗之月衰弱矣、臣又聞之、漢蕭何霍光、唐玄齢如晦子儀、晋謝安之徒、後世讃其治、如彼四子、不必速成之功、其術皆有緩急之序、噫乎馭無知之民用苛酷之鞭、亦不怜也哉、臣請伏願　左府振周公之美才、以上助綿々皇統、下救億兆於水火之中、然而一匡斯弊風、以令此国礎、置万代之安矣、于茲挽回之斯貧弱而、起真富強、其鳴勲之任、今挙海内、一左府在而已、於戯天朱亡斯文、上皇祖在天之神霊下億兆之生心、特有待於左府而已矣、臣狂愚誠自不揆、漫悲慨大体、仰冀左府許死罪、憐愚忠臣生蘇之恩、天下之幸甚、臣強哉昧死頓首泣血以聞矣、

明治七年八月

（裏表紙）（朱、二ツ同ジ）

「□」　□

冊子原寸　縦二四・七糎　横一六・八糎　七枚

三三四　栃木県士族伊藤義典ヨリ左院ヘノ建言　二冊

学校更張、文武一途ノ議等

二三九四ノ一

（表紙）「学校並至急大事件見込建言　上　栃木県士族　伊藤義典」

臣義典恐々謹白、去ル辛未九月、村里学校建言ノ如ク、凡ソ天下ノ治道ハ必其人ヲ得ルニ在リ、其人ヲ得ル所以ノ者ハ必学校ニ在リ、其人ヲ得テ天下ヲ定ル所ノ者ハ文学・武備・理財ノ三ツニ在リ、此三ツノ者ヲ総括シタルヲ万機ト可謂也、夫文ハ天道人理ヲ弁知シ、物理ヲ窮メ人心ノ昏愚ヲ開明シ、博ク宇内ノ理ヲ尽シ、天下文明ニシテ不朽ノ治ヲ成シ、武ハ真理ニ起テ直道正理ニ徹シ、志心堅強不屈ニシテ乱ヲ未萌ニ制シ、悪ヲ未然ニ戒メ、海内確乎トシテ王化ヲ無窮ニ輔翼シ、理財ハ航海貿易ヲ尤盛ンナリトシ、普ク貨財ヲ通シ天下窮スルコト勿ラシム、文学疎ナルヲ闇政ト可謂、軍備疎ナルヲ弱政ト可謂、理財疎ナルヲ貧政ト可謂也、文学・武備・理財ノ三ツ是天下ヲ定ル大綱タリ、今ヤ天下挙テ益財用功利ヲ先トシ、文武ノ貴キヲ知ル者殆ト尠シ、文武アルコトヲ不知シテ、専ラ財用功利耳刻苦勉励シ、若シ富国ニ立至ルトモ文学武備疎ナルトキハ闇政弱政タリ、政コト闇弱ニシテ天下ヲ保ンコト、猶倉廩ナフシテ金銀珠玉ヲ曠野ニ積カ如シ、我カ有ニ非スシテ却テ彼カ有ト成ン、是豈帝業ノ位地大人ノ道タラン乎、夫政コトハ人心ノ不正ヲ正シカラ令ルヨリ急ナルハ不可有之、人心ヲ正シカラ令ルハ人心ヲ開明スルヨリ急ナルハナシ、人心ヲ開明スル者ハ無他必文武ニ在リ、故ニ文武不開ハ俊傑不起、人材不出天下ノ人心益昏愚ニシテ必神仏ニ迷ヒ、国家賊民交々起リ国体漸ク衰弱シ、各国対峙ハ偖置焉ソ四海永世安寧タルヲ得ン乎、

一人心ヲ開明スル者ハ必文武ニ在リ、文武ヲ起ス者ハ必学校ニ在リ、是故ニ学校普ク開ケテ天下ノ人心開明セハ俊傑奮然トシテ其間ニ興起シ来リ、宇内ノ大ナルモ

猶手ヲ拱シテ可定、況ヤ我国ニ於テ乎、是ヲ以テ学校ハ宇内ノ最大事件タリ、必軽易ニ措置スヘキ者ニ非ス、今ヤ更始ノ時ニ当リ、全国上下協力シ学校天下ニ普ク不可不開也、

一理財ノ道ハ爰ニ千金ヲ費シ必利倍スルノ道タリ、故ニ天下挙テ費用ヲ不顧、千里ヲ不遠家産ヲ費シ、終身竭力精励シテ不已、文武ノ道ハ爰ニ千金ヲ費セトモ素ヨリ利倍スル道ニ非ス、故ニ天下挙テ家産ヲ費シ却テ困却ヲ招クノ道トシテ不信、文武勉励ノ徒天下殆ト尠シ、是ヲ以テ去ル辛未九月、村里現草高二千石ヲ以テ一学区トシ、一学校ヲ設ケ、如斯ニシテ天下ノ村里ニ普ク学校ヲ開ンコトヲ建言ス、

以上先般建言ト大同小異有之、

一今ヤ学校天下ニ普ク御布告有之、全国漸ク学ノ可講学校ノ可開ヲ知ルト雖トモ、又愚意ナキニ非ス、建言左ノ如シ、

一去ル壬申七月文部省ニ於テ、学制御確定教則御改正ノ上既ニ御布告タルニ於テハ、都鄙共ニ学制・教則ノ二ツヲ奉戴シ学校漸ク開ケ学生日ニ可進歩スノ所、頃日都下風聞アリ、区学校ヘ入学セシメハ一ツモ進歩ノ功ナク、費用相倍蓰シ行跡日ニ乱レ、遂ニ身ヲ保ツコト不能ニ立至ラン、是子弟ヲ捨ルナリ、手習師匠私学校ヘ入学セシムルニ不如トシテ区学校ヘ入学不令メ者モ間亦有之欤、若夫一ツモ如斯ハ文部省ノ学制教則徒法タルノ恐ナキニ非ス、

一学校不行レハ教官ノ不懇切ト、区長・戸長ノ傍観シ不勉励ト、且ツ学務掛リ不堪其任ニ徒食スルニ在リ、

一教官ノ不懇切ハ其為人ノ曲直ヲ措テ人材ト文事ノ巧拙ヲ検査シ、若輩ヲ多ク用ルノ弊ナラン、文学材智アリトモ、中心不直ノ徒ハ不懇切コト必セリ、十七八歳ヨリ二三十歳ノ徒ハ中心直ナリトモ、大志有之輩ハ小学校教官未満ノ心意可有之、

一区長・戸長其区学校ノ不行レヲ傍観スルハ、文武ノ貴ヲ不知ナリ、文武ノ貴ヲ不知ハ国家安寧ノ大路ニ目度

不立故ナリ、其他総シテ其人ヲ不得ハ、徒ニ人材耳人撰スルコトヲ知テ其為人ノ曲直ヲ弁知スルコトヲ不知カ故ヘ欤、既ニ其趣旨先般建言ス、

一小学校教官ハ六七歳ヨリ十四五歳ノ学生教授故ヘ、人材文事ノ巧拙ヲ先トセス、謹厚懇切ニシテ文事概略ノ徒ヲ人撰スルヲ以テ先トシテ可ナラン欤、

一小学校ハ大中学校ノ本タラン、小学校不起ハ大中学校必廃レン、大中小学校共ニ廃ルヽトキハ俊傑益不起人材益乏シ、我国ノ患ヒ是ヨリ大ナルハ無シ、

一方今小学校教官ノ見込有之試験ノ上、請願クハ学制教則ノ二ツヲ奉戴シ当都下不奮ノ小学校ヲ挽廻センコトヲ俯シテ懇願希望ス、

一全国上下能協力シ学校漸ク開ケ、天下ノ俊傑益興起シ来リ、宇内第一等タル其人ヲ得ルトキハ　皇国必宇内第一等タラン、第二等タル其人ヲ得ルトキハ第二等タラン、学校不開俊傑益不起人材益乏キトキハ、各国ノ為ニ必屈縮セラレ、遂ニ奴僕タルノ恐ナキニ非ス、凡ソ天下ノ盛衰存亡無他唯俊傑ノ有無ニ在ン耳、

一方今ノ景況ヲ窃ニ管見スルニ、我国専ラ洋風ヲ慕ヒ、断髪始メ頭ニチヤツフヲ戴キ、身ニ洋服ヲ着シ、或ハ洋語ヲ唱ヒ、華士族脱力（ママ）スルヲ見テ、彼能開化スト云ヒ、或ハ鉄道・電信機・練瓦石造リ・ガス灯等其他総シテ各国ノ器械ヲ奇トシ、是能人ノ耳目ヲ驚ス、開化進歩ノ道之ニ如ク者ナシト称スル者間亦有之、凡ソ耳目見聞ノミヲ以テ開化進歩ノ道トセハ、必浅陋卑薄ニシテ幕府末ヘノ俗士ノ如クナラン、夫学校不開ハ俊傑不起人心不開明セ、徒ニ形表耳各国ト同ク悉皆各国ノ物品ヲ並ヘタリトモ、俊傑乏シク天下ノ人心昏愚ニシテ何益也、開化ノ要俊傑益興起シ、天下ノ人心益開明スルヲ以テ急トシ、加ルニ洋服器械等ヲ以テ見聞ノ知見ヲ開カハ俊傑其中ヨリ興起シ、開化ノ功且ツ盛大タラン、総シテ耳目見聞ノミヲ以テ開ク知見ハ博カ如シト雖トモ、浅陋卑薄ニシテ智力必怯弱タリ、事ニ当リ中心果シテ変転シ易シ以テ国事ニ充ルニ不足也、窮理貫

徹ヨリ開ケル知見ハ智力果シテ剛堅タリ、事ニ当リ中心確乎トシテ変転スルコトナシ、以テ国事ニ可充ツ也、

一形表ノ見聞ヲ以テ開ク知見ハ愚民ヲ開化スルニ足ル耳、若夫豪傑ノ士ハ究理貫徹スルニ非ンハ焉ソ可開化乎、窮理貫徹センコト学校ヲ開クノ外豈有他乎、学費欠乏シ、学校起スコト不能ヲ不顧シテ徒ニ形表耳盛ンニセハ無益ノ失費ニ庶幾ン、

一我国方今文武ノ形勢ヲ窃ニ顧ルニ、臣素ヨリ聞ク、旧薩藩古代ヨリノ軍備充実シ、其古実亦備レリト云々、右藩去ル辰年、既ニ奥州征討ノ形勢苦難ヲ凌キ、其討所速疾ニシテ概略其図ヲ不迦サ、同藩士ノ剛直朴素事ニ当リ確乎トシテ不転、今ヤ我国洋風ヲ慕ヒ国体瓦解ヲ歎息ス、独リ薩藩耳其他アルヲ不聞、是毎他武力盛大ノ所致也、是ニ偉立スルニ藩小ナリト雖トモ旧会藩アリ、一事方向ヲ誤ツヨリ遂ニ滅国ニ落タリ、惜哉其他一両藩可有之欤、其形体未著明、今ヤ更始ノ時ニ当リ能王化ヲ輔翼シ　皇国輔相ノ武国独リ旧薩藩在ル耳、全国広シト雖トモ薩ノ武力ニ偉立スル文事アルヲ未聞、夫軍備ハ海陸共ニ兵隊戦具分数有度、費用又従テ予メ可知、夫文事ハ今ヤ天下ノ男女無不有学、故ニ人員無限費用亦然リ、全国上下協力スルニ非ンハ焉ソ学校天下ニ盛大タルヲ得ン乎、大蔵省財用不足ヨリ文部省学費欠乏シ来リ、学校専ラ不能起コト、是何謂也、目標模範タル都下、若シ如斯ハ天下皆然ン、嗚呼慨歎ノ至リニ不堪、学費欠乏タリトモ不可無其措置也、

一学校ヲ開クヤ天下毎戸ニ入学セシメ毎人ニ学バシメ、学校日ニ盛大タランコトヲ欲スト雖トモ、有限ノ財ヲ以テ無限天下ノ人ヲ教ントス、素ヨリ不能コト必セリ、学費ハ欠乏タルヲ以テ学校ヲ起サント欲セハ、先ツ其人員ヲ計度シ穉童ノ賢否ヲ目度スベシ、我国人員概略三千有余万人ト聞ク、穉童千有余万人賢哲何幾アルヤ、僅カ一千有余二千人ニハ不可立至也、府県村落亦然リ、雖然ト資質美タルハ天ノ異寵誠ニ難得、故ニ府県村落其所ニ従ヒ、智気有之穉童ヲ人選シ学ニ就シメ、謹厚

懇切ノ教官ヲシテ是ヲ教授セシメハ、進歩ノ功日ニ顕レ成業且ツ速ナラン、智気無之穉童ヲシテ廃学セシムルニ非ス、必学ニ就シメン、是其概略也、猶亦細詳可奉建言也、府県村落共ニ其土地ト其人民ノ情状ヲ深ク察シテ竭力セハ、其所ニ従テ学校ヲ開クノ措置必ナシト不可謂、

一幕府末ヘ時ノ老職海岸防禦武備厳重ノ趣旨各藩ヘ屢令スル耳、軍備疎ナル各藩間有之ト雖トモ之ヲ傍観ス、一ツモ其措置アルコトナシ、故ニ其令不行レ徒令ニ失シタリ、是故ニ命令屢厳タリトモ、之ヲ傍観シ其措置ナキハ所謂徒法タル者也、夫学校ハ上其人ヲ得治道ヲ助ケ、下衆庶ニ至テハ無事故、今日ノ家業ヲ営ム所以ノ根元ニシテ大政ノ最大至重タル者ナリ、一タビ天下ニ令シテ後其省ニ委託シ諸省必傍観スヘキ者ニハ不可有之、学校事件ニ当テハ太政官文部省ハ言ヲ不待、其他諸省府県ニ至迄専ラ心志ヲ尽シ、全国上下挙テ協力不可不令メ也、

一全国上下挙テ協力セシメント欲セハ、臣既去ル辛未九月御国体御変革建言中ニ述ルカ如ク、海外各国ノ如キハ弘ク宇内ヲ航海シ、普ク他邦ノ利ヲ得テ本国ノ助トス、故ニ財用乏キヲ不患我国ノ如キハ素ヨリ航海ノ道ナク、民ヲ以テ国ノ本トシ国用ヲ国内ニ取ル耳、故ニ用ヲ節セス奢美ニ流ルヽトキハ国用漸ク欠乏シ来リ、其患ヒ必全国ニ及ン、是我国用ヲ節シ奢美ヲ戒メ、専ラ勤倹ヲ守ル所以ナリ、夫学校不開ハ俊傑不起人材乏ク政体不建、四海ヲ保ツコト不能、是故ニ乍恐上自皇帝下衆庶ニ至迄相因テ不離コト、猶一体分身ノ如クシテ苦楽昏明自然無不感響セ、故ニ用ヲ節シ奢美ヲ戒メ上下苦楽ヲ供ニセンコト我国政体ノ元タラン以上先般建言ト大同小異、是故ニ上自　皇帝下衆庶ニ至迄専ラ勤倹ヲ宗トシ太政官始メ諸省府県共ニ節約シ、全国上下皆勤倹ヲ守リ、学費ニ供セシムルヲ全国上下挙テ専ラ協力セシムト可謂也、夫能如斯ハ貧学校共ニ起リ、我国ノ学校益盛大ニシテ俊傑日ニ興起シ、人材全国ニ普ク天下有之

ノ大ナルモ手ヲ拱シテ可定、是無他唯在此一挙耳、豈区々タル財用功利耳、専ラ先トセン乎、学校ヲ開ント欲シ、刑法ヲ厳ニセンコト文学ニ於テ賤ム所ナリ、必徳ヲ以テ不可不本也、

一台湾支那ノ属国タリ、彼罪アリ、我是ヲ支那ニ告ク、不肯故ニ我兵ヲ挙ケ台湾ヲ討ツ、支那兵ヲ挙台湾ニ在ル我兵ヲ討ント欲シ、支那使節来朝シ挙兵決定ノ応接甚急ナリ、彼レ順ヲ以テセズシテ逆ヲ以テス、我　朝ニ於テ豈可辞乎、心胆確乎トシテ報国ノ為ニ懸命ノ地ヲ踏ント欲スルノ兵ヲ募ルノ密決、既ニ確定スト聞ク、是ナリヤ否ヤ、

一今ヤ至急ニ新兵ヲ募リ台湾ヘ出兵セシメ支那兵ヲ討ツト聞ク、若シ如斯ハ是恐クハ少ク武力アルニ似タリト雖トモ戦略狭少ノ拙策タラン、彼国戦略遠大ノ徒アラハ台湾接戦ノ勢ヒニ乗シ我　本国ヲ窺ン、彼若シ兵ヲ挙ケ我　本国ヲ討タハ狭小ノ戦略豈唯我国内俄ニ沸騰スル耳、焉ソ接戦スルコトヲ得ン乎、危ト可謂也、彼カ本国ヲ討ツノ目度若シ不立ハ、我国大敵ヲ砕キ、大乱ヲ制シ、四海ヲ安定スル奮武ノ勢ヒナク大体既ニ蟄縮ス、大体既ニ蟄縮シテ妄リニ兵ヲ挙ケ、却テ各国ノ慢リヲ受ン、止ムヲ勝セリトスルニ如ン乎、

一此度我国支那ト接戦タラントスルヲ聞キ、彼ハ大国タリ我ハ小国タリ、戦ヒ我ニ不利、我国未曽有ノ大難危急存亡、嗚呼今既ニ此時ナリト歎息スル者アリ、是戦ヒヲ畏レ憶シタルニ庶幾ン、御洞見素ヨリ言ヲ不待ト雖トモ臣窃ニ顧ルニ支那兵ヲ談スルヤ其理遠大、其兵ヲ用ル所ハ法ヲ厳ニシ謀略ヲ宗トス、既ニ接戦ニ及ンテハ其討所鈍ニシテ不鋭、緩ニシテ不速疾、抑我国ノ兵ニ於ルヤ正理剛直タルハ天然素性タリ、其兵ヲ用ル所ハ謀略ヲ宗トセズ、格目正フシテ敵ヲ討ツコト時ト不違、既ニ接戦ニ及ンテハ其討所鋭利速疾神ノ如クニシテ不鈍緩、中古漢伝詭謀ノ兵起ルト雖トモ接戦ニ臨ンテ其働ク所鋭利速疾タリ、今ヤ西洋兵ニ立至ルト雖トモ亦然リ、夫兵ハ素ヨリ好ム者ニ非ス已コトヲ不得

ニ出ツ、彼既ニ挙兵決定タラハ大国タリトモ何ソ恐ン、天ノ命スル勝敗、豈国ノ大小人数ノ衆寡ニ関セン乎、

我国天然剛直鋭利速疾タル　皇国一円ノ兵ヲ挙ケ、彼カ謀略鈍緩兵タル其本国ヲ可討也、已コトヲ不得ニ及ンテ兵ヲ挙ルコト不能、是ヲ既ニ没国ト可謂也、

一兵ハ素ヨリ国家存亡ノ必関スル所ニシテ治道ノ至重大事件タル者ナリ、必軽易ニ可挙者ニ非スト雖トモ、又戦ヒヲ畏レ可蟄者ニ非ス、彼カ本国ヲ討ント欲セハ先ツ非常出格ノ御英断アランコト言ヲ不待、挙兵既ニ確定タラハ先ツ我兵隊ヲ可計度ス、方今我国兵隊人員総合六万員ニ不出ト聞ク、尠シト可謂、今俄ニ新兵ヲ大募シテ妄リニ費用ヲ空フセンヨリ、元武家今華士族ヲシテ兵隊タラ令メハ少クモ四五十万員余ニ可立至ル、支那本国始メ台湾出兵我国内守衛分賦ニ不足アルコトナシ、既ニ挙兵決定ノ上ハ速疾可令出兵不可令遅緩也、且ツ支那ト接戦タランニハ我国ノ鎗刀ヲ用ンコト、果シテ可ナラン欤、

一支那兵ヲ用ルヤ、虚々実々ヲ主トシ謀略ヲ宗トス、故ニ遠近強弱衆寡大小其他総シテ、或ハ虚ニ出実ニ出、其備ナキヲ攻メ其不意ニ出ツ、是ヲ以テ彼カ詭謀ノ術中ニ陥ルコト勿レ、小戦ヲ事トセズ、蹈留タル接戦ヲ目度トシ、彼ヲ破ルヤ三五度ニモ及ハヽ、毎戦ニ彼必我意中ニ陥ン、

右ノ件々学校事件ニ不関ニ似タリト雖トモ文武素ト二ツアル者ニ非ス、其本一途、今ヤ支那兵端ノ機、我国ニ潜伏既ニ急ナリト聞ク、豈得不建言乎、挙兵ノ期ニ及ンテ猶亦可奉建言也、

一窃ニ以為ク、凡ソ宇内ニ卓絶超越タルノ道無他、学校ヲ開クニ急ニシテ物理ヲ始メ、文武ノ本原遠奥高上ノ極ヲ尽シ、天下ノ人心ヲ開明シ、普ク俊傑ヲ興起育殖シ、文武一途治乱一徹ノ政体ニ立至ルノ外、更ニ他事不可有之也、且ツ理財ノ道ハ俊傑ノ開ク所タリ、俊傑全国ニ普クンハ何ノ用乏キヲ患ン乎、

一昇平ノ世ニ在リト雖トモ常ニ兵革ノ間ニ坐スルカ如ン

ハ軍備益盛大タリ、兵革ノ間ニ居ト雖トモ常ニ昇平ノ世ニ在ルカ如ンハ、学校益盛大俊傑益興起シ天下ノ民益其沢ヲ蒙ン、斯之ヲ治乱一徹文武一途ニ永世不朽ノ政体又国体トモ可謂也、昇平ノ世ニ在テハ益文弱遊惰奢美ニ流レ、戦ヲ畏レ兵革ノ間ニ在テハ困労戦苦ニ不堪、如斯ナルヲハ俗政懦国ト可謂也、今ヤ更始ノ時ニ当リ、仮令ヒ兵革ノ間タリトモ常ニ昇平ノ世ニ在ルカ如ク、学校益盛大、俊傑益興起不可不令メ也、況ヤ昇平ノ世ニ於ヲ乎、

一偏文懦タリ偏武無智タリ、共ニ国事ニ充ルニ不足、況ヤ無学ノ人心ニ於ヲ乎、天下安シト雖トモ武ヲ忘ルヽトキハ既ニ危シ、文武一途ニ出ル政体ニ非ンハ焉ソ永世タルヲ得ン乎、政コトヲ執ニ当テ一ツモ治乱一徹ノ極ヲ過タハ既ニ没国ノ機タリ、凡ソ在官ノ輩文武一途ノ遠奥常ニ不可不顧也、

一夫文武其本一途其本原天ニ出テ、豈人功ノ妄リニ可処所ナラン乎、雖然ト精励刻苦セハ必人心ノ昏愚ヲ開明シ、俊傑ヲ育殖シ、政体ノ源ト成リ、宇内ニ卓越タルノ道果シテ是ヨリ開ケン、是故ニ文武ハ宇内ノ大徳ニシテ　帝王永世ノ至宝タリ、現世　帝王ノ羽翼輔相タル者ハ独リ俊傑タリ、故ニ俊傑ハ　帝王現在ノ至宝タリ、夫全国上下挙テ協力シ、学校漸ク開ケ、文武益高明盛大俊傑益興起シ、天下ノ人心益開明シ、人材全国ニ充チ、文武一途治乱一徹ノ御国体タルニ及ンテハ宇内ノ大タルモ猶坐而可定也、各国強大タリトモ彼来テ必法ヲ我ニ取ン、豈可慕洋風乎、　帝王ノ至宝文武人傑ノ外焉ソ他事可有之乎、臣素ヨリ昏愚不敏タリト雖トモ我　皇国ノ至重最大一ノ御為タルベキ者ハ、本原ノ文武ヲ本トシ、天下ニ普ク学校ヲ開キ、俊傑ヲ育殖シ、文武一途治乱一徹ノ御国体タルノ外、更ニ他事無之ト目度既確定スルヤ爰ニ年アリ、請願クハ出格ノ御英断アツテ素ヨリ不肖建言ノ件々御詰問於有之ハ、幸甚々々不過之不顧恐ヲ此段奉建言也、誠恐誠惶頓首謹言、

明治七年戊八月

左院
御中

栃木県貫属士族
第五大区二小区
浅草小島町四番地
伊東義典印

冊子原寸　縦二四・五糎　横一六・五糎　八枚

二三九四ノ二

恐々謹而白、支那ト我国方今有事故、将ニ国家ノ大事ニ至ントスル風説不已ニヨリ、当府下ノ風習浮薄ノ甚キヲ知ル、豈不慨歎ヲ得ン乎、臣義典今ヨリ既ニ十有三年前、壬戌冬出府在勤後概略府下ニ在リ、幕下ノ世タルヤ幕府始メ旗下列藩皆挙テ西洋練兵、夜以テ日ニ続キ府下西洋鼓声教師ノ司令四方ニ充ツ、武ヲ講スルヤ盛ンナリト可謂、臣モ亦其間ニ周旋無隙、窃ニ府下ノ景況ヲ窺ヒ見ルニ報国ノ為ニ懸命ノ地ヲ踏ント欲スル者殆ト稀ナリ、合戦ハ大国大家ノ所為ト心得敵ヲ砕キ乱ヲ制ス、奮武ノ勢ヒナク戦ヲ畏レ徒ニ武備ノ貌形荘厳タル耳、浮薄ノ風習タルヤ如斯、幕府ノ危キコト亦薄氷ヲ蹈ヨリモ甚シ、臣其趣旨再三幕府ヘ建言ス、去ル戊辰年幕府瓦解シ御維新ノ御世ト成リ、開化日ニ進歩シ既ニ今日ニ至リ益盛ンナリ、頃日支那ト我国有事故将ニ国家ノ大事ニ至ントスルノ風説近ク聞ク、方今十ニ八九和親ニ立至ルナリト、是ナリヤ否ヤ、和親ニ不立至ニ於テハ臣兼日建言ノ如ク、我国天然鋭利速疾タル全国一円ノ兵ヲ挙ケ、彼カ国質鈍緩兵タル其本国必不可不討也、此等ノ措置素ヨリ御洞見言ヲ不待、海陸兵隊方今ノ支那事件ニ当テ英気益隆ンナリト聞ク、豈不愉快乎、当今支那ト和親ヲ専ラ好ム者ヲ管見スルニ、文事アリトモ、材智アリトモ概略戦ヒヲ畏ル、文弱儒夫、其他我身一代無事ナランコトヲ欲スル庸劣微弱ノ俗物多シ、抑支那国ヨリ我国ヲ討ント欲シ、出兵タルハ弘安ノ度ノミ、彼国ニ於テ我国ヲ討ント図テ不果者数度アリト聞ク、今ヤ彼我一度兵端ノ機ヲ釀シ更ニ和親ス、彼今屈シ後チ必伸ン、是一時ノ和親姑息偸安耳、

彼国豪傑ノ徒起ラハ今ノ和親却テ彼レ我国ヲ討ノ基ト成リ、果シテ後患ヲ開ン、後患至リ来ル時ニ及ンテ臍ヲ噬モ遅カルベシ、今ヤ彼カ本国可討ノ秋ナリ、必此時ヲ不可失也、豈可和親乎、此等ノ御活眼アランコト素ヨリ是亦言ヲ不待也、方今我国ノ模範タル者ハ華族タリ、之ニ次ク者ハ士族タリ、今将ニ支那兵端ノ機起ラントスルヲ聞テ、彼ヲ砕ントスル奮武ノ勢ヒアル者亦尠シ、皆苦情ヲ鳴シテ曰、既ニ開闢以還　日本独立シ今日ニ至ル者ハ是武家アルカ故ナリ、又近ク去ル戊辰ノ後御維新ノ御世ト成ル、是亦武家ノ功ナリ、今ヤ何ノ罪ナフシテ国家ニ功アル武家却テ廃シノ世ト成リ、苦難今日ニ至ル者亦不尠、仮令ヒ　王命タリトモ誰カ豈敢テ懸命ノ地ヲ蹈者アラン乎ト云々、是果シテ戦ヲ畏レ臆シタルヨリ郡県ノ御世ヲ幸ヒニ苦情ノ資本トスル欤、或ハ兵ハ凶器ナリ、合戦ハ愚ノ至リナリトシ、切ニ和平ヲ唱ヒ或ハ支那事件ヲ聞テ外国騒キノ如ク坐視シテ意トセズ、又此度兵隊御人撰ノ年齢期当ノ徒ニ至テ奮武ノ徒亦尠シ、親子兄弟皆挙テ苟モ兵隊ヲ免ル、ヲ悦ヒ、平民ニ至テハ迷動悲歎ノ甚キ聞コヘ有之、右等ノ件々ヲ以テ府下ノ情状ヲ窃ニ顧ルニ、府下人心物理不貫徹セ、道義未頗然内チ利ヲ専ラトシ、外荘厳タランコトヲ日夜困苦勉励シ、国家ヲ顧ルノ心アル者殆ト尠ク、我国ヲ視ルコト猶外国ノ如ク、国家ノ事件ニ当テハ必傍観坐視ス、況ヤ大事件ニ於ヲ乎、士族概略如斯、況ヤ平民ニ於ヲ乎、全国ハ不知、府下ノ風習浅陋浮薄ノ甚キ慨歎ノ至リニ絶タリ、凡ソ風習弱ナルトキハ強者モ強ナルコト不能、遂ニ弱タリ、風習強ナルトキハ弱ナル者モ強者ノ為ニ興起セラレテ必強タリ、其他総シテ風習ノ国質ヲ変スルコト如斯欤、抑関八州ノ兵英武素ト全国ニ偉立スト聞ク、今府下人心至テ微弱、古ノ人果シテ剛ニシテ今府下ノ人微弱タルニハ不可有之、是果シテ風習ノ然ラ令ル所欤、高貴ノ小児ヲシテ民間卑賤ノ家ニ育長セハ容貌志気言語皆果シテ卑賤ノ人タラン、民間卑賤ノ小児ヲシテ高貴ノ家ニ育長セハ容貌志気言語皆果シテ高貴ノ人タラン、凡ソ風習ノ人ヲシテ然ラ令ル

コト如斯、理財ハ人ノ風俗ヲ変シ、風習ハ人ノ資質ヲ更ニ変転ス、府下ノ風習不一変ハ稗童其中ニ育長シ文ヲ学ヒ武ヲ講スト雖トモ、又々如斯今ヤ更始ノ御世ニ在テ目標タル府下、如斯ハ遂ニ全国ノ衰弱ヲ釀シ、夫風習ノ美悪ハ其人ニ非スシテ、必教化ノ厚薄ヨリ至リ、政体ノ曲直必関スル所タリ、既ニ更始ノ時ニ当リ貌形上ノ開化益更張シ浮薄ノ風習幕府ト同ク、不一変者ハ人心上更ニ不開化故欤、人心上ヲ開化セント欲セハ人心ヲ開明スルノ外ナク、人心ヲ開明スル所以ノ者ハ必学校ニ在リ、学校普ク天下ニ御布告有之ト雖トモ猶此上一層先ツ府下ノ学校更張シ、外荘厳ヲ戒メ内チ忠心懇切ノ教官ヲシテ中心開明正理貫徹ノ教授ヲ施サハ浮薄ノ風習必一変セン、且ツ支那方今競和ノ事件和平ニ至ラハ府下皆心意ヲ安ンジ、果シテ遊惰奢美ニ流レ浮薄ノ風習益甚カラン、仮令ヒ支那ト和平シタルトモ豈心意ヲ可安乎、後患必至シ、猶此上軍備益更張シ不虞ノ備不可不厳重也、兼日建言ノ如ク偏文懦タリ、果シテ戦ヲ畏レ必遊惰奢美ニ流レ弱国ニ陥ン、偏武無智タリ、果シテ暴戻苛酷ニ過キ国家亡滅ヲ招ン、是故ニ文武一途治乱一徹ノ政コトヲ発シ、文以テ天下ノ人心ヲ開明シ、物理ヲ究メ道義ヲ弁知シ、武以テ天下ノ人心剛直正理ニ処シ、事ニ当リ確乎トシテ不転浮薄ノ風習更ニ変転シ、剛直資実純厚ノ風習行レ、文武一途ニ出テ独立建国永世ノ御国体確定セン、此等ノ件々果シテ御決議ニ不足コト言ヲ不待ト雖トモ、素ヨリ庸劣昏愚報国一丹心ノ微意出格ノ御憐察ヲ以テ再度建言ノ件々御質問アランコトヲ希望シ、且ツ方今府下ノ風習挽廻ノ御措置アランコトヲ再三再四俯而懇願希望シ、不顧恐ヲ猶亦奉建言也、誠恐誠惶頓首謹言、

明治七年戌九月

栃木県貫属士族
浅草小島町四番地
伊藤義典印
当戌六十一年
四ヶ月

未建言

左院
御中

冊子原寸　縦二四・五糎　横一六・五糎　二枚

二三九五　三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

教部省一条

御安全奉賀候、然は昨夕ハ参館晩景御妨仕恐入存候、別紙入伝覧候御覧済右大臣へ御廻シ奉願候、将昨夜入御覧為教部省一条、調書御覧被為済候ハ、御返却奉願度、御意見も被為有候ハ、御示可給候、草々拝具、

九月一日　　実美

島津左府公

文書原寸　縦一七・三糎　横五三・三糎

二三九六　岩倉右府ヨリ島津左府公へ

右府来訪ノ件

（封筒）「島津左大臣殿　岩倉具視」

（封筒ウラ）「　　」

御用之儀ニ付得拝面度明朝七時参上候間、御差支無之哉否御一筆承知致度如此候也、

九月一日　　具視

島津殿

文書原寸　縦一五・七糎　横三〇・四糎　封筒原寸　縦二〇・七糎　横六糎

二三九七　三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

教部省一条ナラン

御清穆奉賀候、然は別冊入電覧候、御異論も不被為有候ハ、御検印御返却有之度候、定額も相望候ニ付而は、速ニ施行仕度大蔵省より申立も有之候、草々拝具、

九月二日　　実美

島津殿

二伸、今日御不参御不例格別之御義ニも無之哉、秋冷相催折角御保護専祈候、

文書原寸　縦一七・三糎　横五七・三糎

二三九八　三条太政大臣より左府公右府公へ

海陸調練天覧の事等

拙官昨夜より持病胸膈痛相悩、今朝は甚不快身褥仕居、何分出勤心底ニ不任深恐入候得共不参仕候、今日一日加養奉願候、然処参議中へも十一字ニ出頭申置候ニ付、別紙之事件詰合之人々江は御示し奉願度候、仍右相願度如此候也、

九月三日　　実美

左府公

右府公

二伸、僕不参ニ付而は、御都合如何とも存候得共、又明日と遷延相成而は不可然存候間、可成今日参議中へは御示し奉願度候、

文書原寸　縦一七・三糎　横四八・三糎

二三九九　三条太政大臣ヨリ島津左府公岩倉右府公へ

大久保柳原ノ書状廻覧ノ件

「(別紙)　両大臣宛　　実美

九月三日

大久保・柳原ヨリ之書状山県・河村等江御廻覧ニ相成候様云々、」

(利通)大久保・柳(前光)原ヨリ之御書状、山(有朋)県・河(川村純義)村等江御廻覧ニ相成候様可然存候、此段気付之侭申上候、草々拝具、

九月三日　　実美

島津左府公

岩倉右府公

文書原寸　縦一七・二糎　横二一・八糎

二四〇〇　三条太政大臣ヨリ島津左府公岩倉右府公へ

海陸調練天覧ノ事等

(封紙ウワ書)「左府公
右府公　　実美」

(実則)徳大寺今日参　朝申置候間参朝候ハヽ、海陸調練

天覧之事海陸将校召之事、
宮内定額残金御手元金等自今法方取定之義御尋之事、
右之儀ニ御申聞奉願度候、拙者不参ニ付此段御依頼申候、
草々拝具、
九月三日
文書原寸　縦一七・三糎　横四一・八糎

二四〇一　柳原前光卿より島津左大臣殿へ
華族会館之件
（封紙ウワ書）「左大臣殿　前光」

益御清泰奉賀候、然は先般花族会館一件ニ付、壬生議官（基修）等より三大臣へ及内建白候末、前途変革目途如別冊取調差出、右府公内嘱ニより下官相調提札等仕リ候、三条殿（実美）ニハ既ニ閲覧相済候間閣公へ呈覧候様、右府被愈候ニ付、差上候冊数々多有之候得共、其内前途目的手順及会館章程二部、就中必要と存候間尚御注意御堅考奉願候、何れ委曲は参殿之節可奉面述、先拝啓如是候也、頓首、
九月四日
文書原寸　縦一九・六糎　横一〇七糎

二四〇二　中山忠能卿等八人ノ建言　別紙共二通
閣議ノ忽卒遅緩ヲ論ス
（包紙ウワ書）「上言写」

二四〇二ノ一
海外輸出入之事
右ノ一端ハ貨幣ノ海外ニ出ルヲ減却スルニ在リ、就テハ先
君側ヲ始メ奉リ、官省ニ於テ西洋物品ヲ御節減相成度事、
万民安着之事
右ノ一端ハ太政大臣万機ヲ鞅掌シ、事務多端ニ渉リ、

或ハ忽卒ニ決シ、或ハ遅緩ニ及フモ不得止情勢ニ付、其大綱ヲ総轄シ、左右大臣諸省ヲ分轄シテ担任アラハ事務忽決、遅滞ノ患ヒ随テ相去リ、其帰着スル処万民ノ安着ニ可至事、

中山忠能
嵯峨実愛
大原重徳
伊達宗城
池田慶徳
池田茂政
松浦　詮
立花鑑寛

文書原寸　縦一八・三糎　横四三糎

二四〇二ノ二

過日上言ノ末条目上御諮問モ被為在候ハヽ、猶陳上可仕心得御座候処、切迫ノ御時節一日モ難安奉恐入候得共、御沙汰ヲモ不奉待敢テ奉奏上候、抑奉陳スル所ノ第一条全国輸出入之大計ハ、国家命脈存亡ノ大機関不容易御事ニ付、一日モ速ニ御根抵御改定御着手相成度奉懇願候、第二条民心安着ノ事、人心ノ安ト否トハ政治上至緊ノ要務ニテ、人心疑懼ヲ懐候処ヨリ乖離ヲ生シ、乖離キワマル分崩離折ニ至リ、賢相良史アリトモ救フ能ハサルニ終ル、臣等至愚、目今ノ実際上ヲ恐察仕ルニ忽卒ト遅緩トヲ以人心疑懼乖離ヲ致スモノ多カラストセス、今敢テ試ニ一二ヲ奉陳仕候ヘハ、忽卒ノ大ナルモノ二条、其一曩朝鮮ノ事件、　廟議既定ルヤノ後内閣紛議ヲ生シ、俄ニ参議数人退職ニ至候由、遍ク世人ノ評論疑懼ノ根元タルモノニテ、肥前佐賀表ノ暴動ニモ立至リ、然ルニ数月ヲ経ス、俄然台湾ノ事件ト変シ、終ニ日支葛藤ヲ醸成シ、人心ノ憂苦頗ル顰眉ス、然トイヘトモ御威徳与天幸ニ因リ弁理大臣黽勉功ヲ奏シ、海外ヘ被対御国恥ニ不至、海内ノ幸福何ソ是ニ如ン、然レトモ此軽挙ニ及フ　廟議不尽処ニヨル、其二頃来元老院長官兼任、

既ニ御内勅アリテ数日忽然御変更ノ勅詔相成候由、此等忽卒ヨリ出ル所ノ御失体ニテ、人心ノ疑懼ヲ起サシムル所ト奉存候、且遅緩ニ渉候一二ノ如ハ、小猿沢（尾去沢）銅山裁判ノ一条数月ノ久ヲ歴、或ハ諸官員目今枢要ノ建言、数旬御採択無之義モ有之ヤニ伝聞、是等遅緩ヨリ人心乖離ヲ生シ候端ト奉存候、如此事件乍恐第一聖徳ニ関シ、将来史伝ニ存シ千載ノ遺憾此事ノ責任帰着スル所ヲ知ラス、於臣子之分奉恐入候間、自今内閣謀議御鄭重決テ忽卒遅緩ノ弊ヲ去、廟謨御一定ノ上、御軽挙無之様有御座度千祈万願之至奉存候、誠恐誠惶謹言、

中山忠能
嵯峨実愛
大原重徳
伊達宗城
池田慶徳
池田茂政
松浦　詮

九月六日

立花鑑寛

文書原寸　縦一七・三糎　横一九〇・五糎　包紙原寸　縦二八・二糎　横三九・七糎

二四〇三　三条太政大臣より島津左府公へ

岩倉右府より条約改正掛人選の件

（封筒）「三条公
島津公　具視」
（封筒ウラ）「緘」

二四〇三ノ一

只今寺島（宗則）入来、条約改定掛リ人体ノ事頻リニ申為候、英公使も昨日帰リ催足之由ニ候、何とか早く御決シ無之而ハ、実ニ御困リニ可立至と存候、昨日御談不申候得とも不取敢此段言上候、どふとかよろしき御賢考願候事ニ候、早々如此候也、

九七　具視

三条公　承候

島津公

文書原寸　縦一六糎　横四六糎

二四〇三ノ二

別紙岩倉ヨリ相廻候間入御覧候也、

九月七日　　実美

島津殿

文書原寸　縦一七糎　封筒原寸　縦　一九糎

横一六糎　　横五・八糎

二四〇四　岩倉具視ヨリ久光公へ？

参朝要談ノ件

御風邪如何候哉、尚御大事と存候、扨今日ハ定而御参と存候得共、為念相伺候、段々御談し申度件々有之候、仍早々如此候也、

九七　　具視

文書原寸　縦一六糎　横二六・二糎

二四〇五　三条実美ヨリ大久保利通へ？

木戸孝允ノ件

秋涼相催候処益清康大賀候、然は木戸(孝允)一条、昨日伊藤(博文)面会相尋候処、伊藤より懇々及論談候処、木戸ニも猶熟考致返答可致との由ニ而、未昨夕迄ハ返答も無之由、何れ分り次第早速報知可致約束ニ付、一寸此段内密申入置候、何れ面上縷述可仕候得共、今日処労不参ニ付一筆御進候、草々不具、

九月十日　　実美

文書原寸　縦一六糎　横五〇糎

二四〇六　琉球藩王尚泰ヨリ島津従二位公へ

藩制改革ニ関スル歎願書

(包紙ウワ書)「進上　従二位様　　尚泰　琉球藩王」

謹御内々奉呈愚翰候、倍御機嫌能被遊御座奉恐悦候、然は今般内務大丞松田道之殿当藩江渡海、清国江進貢并慶賀使且彼冊封を請候儀自今被差止、且藩内一般明治之年号を奉シ、年中之儀礼等都而御布告之通遵行、藩制改革被仰付、且分営被召立候段被仰渡、御達之事々都而御断茂難申上、分営は無是非御請仕、清国と之続并職制等は難行段々御断仕候得共御聞取無之、就而は政府江以使者申上度相願候得共御免無之、其上段々厳重之御沙汰致承知、進退必至と差迫、不得止今一往政府江願申上、乍此上御採用無御座候ハヽ、御請可仕段申上候得共、此儀茂御許可無之、藩中騒立候付終ニ御聴許を得、此節使者池城親方江与那原親方・幸地親方・喜屋武親雲上・内間親雲上・親里親雲上随行申付差上申候、敝藩支那と之続は五百年来之縁由有之、信義之掛る所ニ而断チ絶候儀何共難致、職制茂基ひ国柄ニ応し相立、治民之実際致適宜、古来無変易最通来候処、相改候而は政務行届不申、此度之儀実以国家安危相掛、既ニ藩内相騒候時機ニ立至、甚憂苦差迫候付、乍恐　尊公様御事は素より敝藩之情実御洞察被下通御座候間、一藩御救ニ被思召上、夫々従前通不相替様被仰付被下候方ニ御賢慮被召付被下度、偏ニ仰願仕候、委細池城等江含越候付、此節は別段之御取分を以内情旁御直ニ被聞召上、何卒願達仕候様幾重ニ茂奉仰候、右之趣御内々より御願申上度如斯御座候、恐惶敬白、

琉球藩王　尚泰

九月十日

進上

従二位様

横帳原寸　縦二一・五糎　横四七・五糎　二枚

包紙原寸　縦二七・五糎　横三九・五糎

三〇〇二　大山綱良ヨリ桂久武へ

鹿児島県治上ノ件

（包紙ウワ書）「桂久武公　緊要御親拆　大山格之助」

愈御清宇被為□(虫損)御珍重奉恭賀候、□(虫損)ハ先朝并昨日参殿仕候処、折悪敷御他出中ニ而、終ニ不奉得拝顔、何共恐縮之至□(虫損)存候得共、再□(虫損)不仕候、将亦昨朝□(虫損)喜入奉懇願候事件、尚入林少丞殿江委細演述仕置候間、何卒速ニ御聞届被□(虫損)様到而奉願□(虫損)後不都合而已□(虫損)職掌□(虫損)ニ御座候、万事奉拝願候、今日帰国仕候付乍恐一封奉拝呈候、宣敷御汲量奉希候、恐々頓首、

九月十一日　　大山綱良

文書原寸　縦一八糎　横八四糎　包紙原寸　縦二八糎　横四〇糎

二四〇八　本田親雄ヨリ奈良原繁ヘ

久光公ヘノ意見上申ニ付

今朝御内使之場を以御申入候処、午食後参殿可仕との事ニて候、今朝も縷々承候処唯御信用被遊下候、深浅ニ随ひ如何様共天下之為識見之及候丈ハ不残申上候て御採用ト否を不論御尋之向ニ寄リ、底蘊を尽し言上致度との事ニ付、勿論右ハ希望スル処ニて、将来見越之機事たり共御腹蔵有ましき様致度申入置候、今日は過日来ノ御遠慮深キ事ニてハ遺憾至極ニ付、

御前ニも十分打明シ御懇話被遊候様御執計有之度奉存候、此段ハ拝唔ニ申述度候得共、右ノ主意御了解被下まて之事ニ付、別ニ不申上候、書中早々及御報候也、

九月十六日　　本田親雄

奈良原繁殿

追而昨日も海江田江申入候通、頃日来遅々之有様ニてハ必ス其遅ノ字よりして害を生候事と深心配罷在候条、今日は貴兄も右之事情御逢取之節、御打合被下度為天下奉禱候也、

文書原寸　縦一七・八糎　横八七・五糎

二四〇九　三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

岩倉右府邸へ参集ノ件

（封筒）「島津左府公　　実美」

（封筒ウラ）「　　」

弥御安全奉賀候、然ハ下官義少々持病相勤今日出勤難相整不参仕候、明日ハ推而も出仕候心得ニ御座候、猶左右両君御同席ニ而御談申度義候間、明日午後一字岩倉家江御同伴仕度、御差支有無御示奉願候、其上右府方へ掛合可申候、仍早々如此候也、

九月十八日　　実美

左府公

文書原寸　縦一七・三糎　封筒原寸　縦　一八糎　横　六一糎　横五・八糎

二四一〇　山県陸軍卿より内史宛

行軍　天覧ニ付岩倉邸へ不参ノ件

（封紙ウワ書）「三条より到来御廻し申候事、　　具視」

明十九日午後第一時三大臣殿被致御面会ニ付、同刻岩倉殿邸へ罷出候様、御書面之趣致承知候、然ル処明十九日実地行軍天覧被仰出、有朋も出張候間、同邸へ難罷出候間、此旨及御答候也、

七年九月十八日　　山県陸軍卿

内史
御中

文書原寸　縦二八・五糎　横四〇糎

二四一　三条太政大臣より島津左府公へ

岩倉右府邸へ参集之件

（封筒）「島津左大臣殿　　実美」

「（封筒ウラ）
ナ　　」

御安全奉賀候、然ハ今午（日脱カ）後岩倉家へ御同伴御約申置候処、小生昨日来胸痛甚相勝不申困却仕候、何卒明朝ニ相願度尤今日ハ臨幸之御事暫時扶病参院ハ可仕候得共、早出相願度候、右得貴意度草々如此候也、

九月十九日　　実美

左府公

文書原寸　縦一七・二糎　封筒原寸　縦一七・五糎
横五一・五糎　横五・七糎

三四三　置賜県士族宇加地新八ヨリ左院ヘノ建白

兵制ト兵備ニ就テ

（表紙）「明治七年九月中浣吉日
建白書　置賜県貫属士族
宇加地新八」

臣先ニ野鄙ヲ顧ス深ク兵制ト兵備トヲ論シテ以テ左院ニ建白ス、左院喩シテ曰ク、参考ニ備フト、臣因テ以為ラク書言ヲ尽サスト請テ増田（繁幸）議官ト左院ニ建論ス、亦高崎（五六）議官トヲス、其后チ反覆之ヲ思ヒ杞憂舎ク能ハス、以為ラク先キノ建論猶オ未シト再ヒ其要ヲ摘而左ニ論述ス、

兵制論

頼襄曰、我朝之初、建国也、政体簡易、文武一途、挙海内皆兵云々、皇朝維新以来、頻リニ旧弊ヲ除キ、兵制ヲ一変シ、英ト仏トニ倣ラヒ、海陸軍ヲ置ク、若カモ去年徴兵之法ヲ定ムルハ千百世之古ニ復リ、文武一途ニ帰シ、海内皆兵タラシメントス、其意ニ曰ク、天下百姓我土ニ生レ我粟ヲ食ム者、我為メニ死力ヲ致スヘキ也、故天下百姓士農工商ヲ問ハス皆之ニ編入セサルヲ得スト、豈ニ之ヲ美且義ヲ尽スト言ハサルヘケン耶、於是四民其権利ヲ同シ苗字、帯刀、及ヒ乗馬ヲ許ス、故ニ古ヘノ武門、武士ト称シ妄ニ武威ヲ以庶民ヲ凌蔑セシモ一掃、而尽

ク」我レ農也、我レ商也、素トヨリ仁義ノ何者タルヲ知ルヘカラス、唯利而已ト言ヒシモ翻然図ヲ改メ、学ヲ為シ身ヲ脩ントスルニ至ル、豈快ナラス哉、抑名至テ美ナルモ実至テ美ナラサルアリ、事至テ利ナルモ物至テ利ナラサルアリ、故ニ曰福ノ有ル所、禍モ亦随テ生ス、利ノ有ル所、害モ亦従テ興ルト、今ヤ兵制美且善ヲ尽セルカ如シト雖、其弊害モ亦甚シ、曰軟弱、曰冗多、曰威服、此三ツノ者兵家之至戒タリ、此ノ如キノ兵幾百万アリト雖為スコト能ハス、故ニ兵ハ多ヲ不レ貴而精ヲ貴ヒ、弱ヲ不レ貴而強ヲ貴ヒ、威ヲ不レ貴而和ヲ貴フ、精而強ク、強而和スル者、何ニ因テ然ル、教ト徳トノ素アルニ因テ也、多而弱ク弱而威スル者何ニ因テ然ル、教ト徳トノ素ナキニ因テ也、今也海内挙ケテ皆兵タラシムルモ、教ト徳トノ素ナキヲ如何セン、所謂、軟弱、冗多、威服、三ツナカラ之ヲ兼ヌル者也、然而一旦之ヲ険地ニ駆リ、死ヲ視ル塵芥ノ如クナラシム、難哉、所謂、教エスシテ、而殺之者ニ非ス哉、故ニ民欺詐百端兵役ヲ免レントスルニ至ル、甚シテ指ヲ折リ足ヲ傷ルニ至ル、噫之ヲ何ニト謂ハンヤ、今ヤ疆場多事猶オ積薪之下ニ火ヲ焼キ之ニ坐スル如キ也、然而之ヲ改ムルヲ知ラス、噫亦策コトノ得タル者ニ非ス、今ヤ宇内万国、狼眼豺心、弱ハ強ノ肉ト成リ、小ハ大ノ役トナル、我神州、建国以来、二千五百有余年、屹然東洋ニ位シ、外侮ヲ受ケサル者何ニ依テ然ルソヤ、宜ク速カニ兵威ヲ張リ、預メ外寇之心ヲ圧抑セスンハアルヘカラス、徴兵之如キ数十年ノ後、臣其ノ到ル所ヲ知ラサレトモ、今日ノ勢ヲ以テ論スルニ曰、却テ然ラス、不レ如、士族ヲ編制シ以テ兵ト為サンニ、頼襄曰、光仁・桓武之朝、疆場多事、宝亀中、廷議汰冗兵、殷富百姓、才堪弓馬者、専習武芸、以応徴発、其羸弱者、皆就農業、而兵農全分、云々、噫亦勢ノ自然士農全ク分ルヽヲ観ルヘシ、今ヤ所謂疆場多事ノ時ニ非スヤ、此ノ時ニ当テ強者国ヲ為シ、弱者国ヲ失フ、然ラハ則宜ク冗多ト軟弱ト威服トヲ去ルヘキ也、之ヲ去ル術アリ、曰教ト徳トノ素アルニ因テ也、今也海内皆兵ト為ストモ、素

教素徳ナキヲ如何セン、故ニ太古ノ兵制ノ如キ太古ニ宜クシテ、而今日ニ宜シカラス、且挙海内皆兵之語、宜ク言フヘクシテ而宜ク行ハルヘカラス、故ニ士ハ以テ文武ヲ講究シ、農ハ以テ田畑ヲ鋤耕シ、工ハ以器物ヲ製造シ、商ハ以有無ヲ交通ス、皆以テ相為ニシ各以テ相利ス、而民タル者素トヨリ其職ヲ職トシ、素トヨリ見素トヨリ聴各其位ニ安ス、故ニ士タル者生ルヽヨリ文武ヲ以テ我カ職トシ、父ヤ之ヲ教ヘ、兄ヤ之ヲ喩シ、朋友ヤ之ヲ功ス、故ニ一朝事アルノ日、一死顧ル所ナシ、水火之中猶趣カシムヘキ也、之レ何ニ依テ然ル、素教素徳ノ在ル有レハ也、而民亦己カ職分ニ安シ以簡便ナリト為ス、而如此ノ兵寡シト雖、却テ衆キヲ見ルヘシ、何ソヤ曰、精而強ク強シテ而和スル也、之レ見ルヘシ、兵農分ルノ之勢ヲ」然リト雖古封建制、人民ノ権利ヲ奪フ如クナラス、故ニ士タルヲ好マサル者、士タルヲ致而農タルヲ得、工タルヲウ、商タルヲウ、農亦然リ、農ヲ好マス文武ヲ好ミ秀才卓落ノ者、士林ニ列スルヲウ、人選登庸スルヲウ、故ニ我土ニ生レ、我粟ヲ食ム者、農工商ノ三民ト雖国家危急存亡之際ニ当リ、一死以テ国ニ致スヘキノ義務アリトナスヘシ」今仮令民権ヲ一ニシ、海内皆兵ト為スモ、有名無実ノ兵多々益々無用而已ナラス国家存亡之機、実ニ之ニ関ス、況ヤ今何等ノ時勢ソヤ、要陰両ニ先テ、綱謬セサルヘケンヤ」今也中朝之制ニ基キ、三府五港六十有余県ノ士族ヲ編制シ以テ軍団ト為ス、団各首領アリ、皆県令ニ任シ、簡点、京ヲ衛リ、辺ヲ戍ル、簿記ヲ案シテ差遣ス、然而六衛ニ擬シ、近衛ハ宜ク天下ノ兵士ヲ精選シ、以テ之ニ充テ、六衛之将之ヲ帥ユ」東京・大坂・石巻・小倉ハ即チ日本枢要ノ地定テ四大鎮台トナス、即チ天下ノ軍団之ヲ代守ス、天下ノ軍団毎ニ武庫ヲ置キ、兵器ヲ蔵ス、而月日兵術ヲ練習シ以テ契勅ニ応スヘシ」征伐ヲ挙クル毎ニ沿道諸国契勅ヲ須ヒ勘合セシム」凡ソ征行必大将軍アリ、副将軍アリ、軍監アリ、録事アリ、大将一人出征スル必節刀ヲ授ケ、軍ニ臨ミ敵ニ対シ、首領約束ニ従ハサル者皆専決ヲ聴ス、還ルノ日状ヲ具ヘ以聞

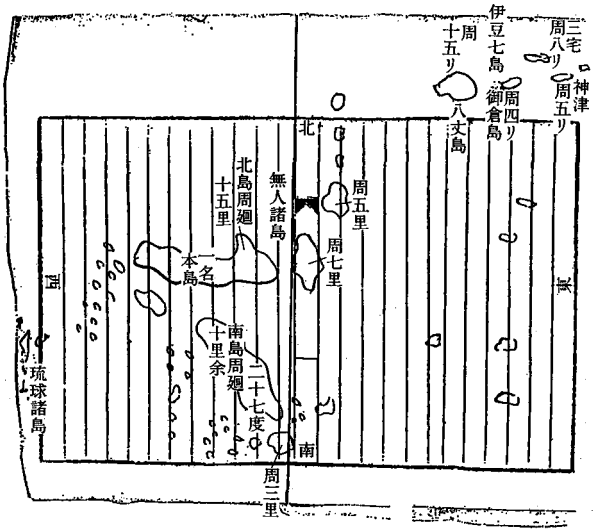
ス」預メ賞罰ノ典ヲ設ケ、功ヲ論シ賞ヲ酬ヒ以テ其兵ヲ罷ム」而其器仗皆武庫ニ蔵シテ出納時ヲ以テス、而皆之ヲ陸軍省ニ管スヘシ」是故天下事アレハ則尺一之符ヲ下タシ、数十万ノ兵馬立ロニ具ル、而平時散シテ郷閭ニ帰リ、亦毎団亦兵ヲ調練ス、故ニ其牙鋒精鋭之ヲ集テハ外寇ヲ圧スルニ足リ、之ヲ散シテハ内治ヲ保ツニ足ル、而民煩労ヲ厭ハス、各其土ニ安スルニ足ル、豈美ナラス哉、仮令昨日徴兵令ヲ下ストモ今日其害アリ、之ヲ改ムルニ於テ、何ニアラン、伏シテ願クハ速カニ決議センコトヲ、臣年少不敏ト雖奥羽ニ帰リ同志数千ヲ得ヘシ、

四島論

夫兵ノ要、地勢ヲ得ル者ハ勝チ、地勢ヲ失フ者ハ敗ル、皇朝ノ地勢タル、古ニ天険ト称セシモ今者天害トモ謂フヘシ、臣比ロ地図ヲ披キ、忽チ感スル所アリ、因テ以為我国ヲ守ル者ハ伊豆・品川海ノ眉前ニ非シテ而遠ク外垣ノ諸島ニ在リ、西南ハ無人島一名小笠原ト云フ・琉球島、東北ハ蝦夷諸島也、先ツ之ヲ取ル者ハ勝チ、之ヲ失フ者ハ敗ル、東北ノ事タル維新以来既ニ着手スレハ、臣等素ヨリ喋々スヘカラス、独リ西南島ニ至テハ未タ着手スルヲ聞カサルカ如シ、豈廟堂既ニ之ニ着眼スルモ未タ之ヲ挙行セサル耶、或ハ巨費ヲ憚カル耶、臣願クハ速カニ決議シ之カ施行アランコトヲ、然レトモ内地ヲ距ルコト頗ル遠ク、遞送ニ宜シカラス、故ニ屯田之方ヲ立テ内地ノ子弟男女ヲ移植シ、之カ資ヲ厚シ彼ノ地ニ送リ、或ハ耕田養蚕ヲ起、或ハ漁猟ノ利ヲ作コシ、或ハ製作之物ヲ設クヘシ、而先ツ速カニ砲台ヲ築キ、兵備ヲ厳ニスヘシ、数年ヲ出テス、而儼然内国ノ藩屏タルヤ必セリ、

左ニ西南諸島ノ略図ヲ掲ク、

無人諸島



冊子原寸　縦二五糎　横一七・五糎　九枚

三四一三　三条太政大臣ヨリ島津左府公ヘ

川村海軍大輔ト面会ノ件

（封筒）「島津左府殿　三条実美」

（封筒ウラ）「　　」

明廿三日一字、川村太輔（純義）面会御差支無之候ハ、拙宅江御来会可給候、仍御差支有無承度如此候也、

九月廿二日　実美

島津左府公

文書原寸　縦一七・二糎　封筒原寸　縦一八糎

横　五七糎　横　七糎

三四一四　無名氏ヨリ久光公ヘ

台湾征伐ヲ頌スル詩一首

（端裏書）「大湾征伐」

世替支那衰　卒然討大湾　支那恐謝罪　僕寿聞此祥
薩始切洋人　幕府出罰金　昨日咎薩過　今却賞薩功
郷限暗揚誉　負我開化早　笑支那因循　実案外幸福
清正万苦労　西郷一朝薫　神力自有助　謹拝謝　太神
明治七年甲戌九月廿三日夜、支那謝罪聴之、歓喜且
驚、日本光徳如此、依賤一絶如件、

文書原寸　縦二八糎　横四〇・五糎

二四五　三条太政大臣より島津左府公へ

河村海軍大輔面会之件

今夕河村面会（川村純義）拙宅へ御来集申上置候得共、御退出掛岩倉
邸ニ御立寄之方ニ願度候、仍此段更ニ申進候也、

九月廿三日　実美

左府公

文書原寸　縦一七・三糎　横三三・八糎

二四六　大久保一翁ヨリ島津左府公？へ

病気療養ノ件

御蔭ニ而御暇被下置病気加養可出来哉と難有奉存候、是
非
条公・岩公（三条実美・岩倉具視）并御宅迄は、一寸も可罷出心得ニ御座候処、
乍憚下痢暁来ニ不限、一昨日より相増候ニ付、全快出
京之節万々御礼可申上、呉々失礼御仁恕伏奉希候、頓首、

九月廿七日　一翁長寛

文書原寸　縦一五・四糎　横二二・五糎

二四七　山階宮晃親王より島津左府公へ

時候御見舞

（封筒）「左大臣様　晃
侍史中」
（封紙ウワ書）「左大臣様　晃
侍史中」
（墨引）

不序之気色折角御用意奉祈入候也、

秋冷之節御座候所弥御勇健ニ御奉職奉大賀候、抑此一折蠢末乍赤面時令御見舞申上候験迄ニ進上仕度、御笑納被下候ハ、本懐之至深々忝奉存候、寔ニ不敬蒙仁恕度万々奉期拝謁候也、

申九月廿九日　敬白、

文書原寸　縦一六・三糎　封筒原寸　縦　一七糎
横四六・五糎　横四・八糎

二四八　久光公ヘノ建言　筆者不明

人才撰用等六ヶ条

（表紙）「上」

乍恐初発　御着手ノ　御箇条極内上疏

第一

人才御撰用之事

今ノ

朝廷也百事紛擾、殆ト処スヘカラサルノ時、直チニ従前ノ姦官汚吏ヲ黜罰スルヨリ必ス先ツ疎外遠退ノ人才ヲ　御登庸、姑ク加入混用シテ以テ各其処議ヲ規シ、其義務ヲ責メ、且ツ広ク衆論ヲ聞キ、群説ヲ求メ、然シテ後チ

閣下御明断ヲ以テ宜ク　御施行、漸次更革、

御趣意万世ノ法トナランコトヲ仰望セリ、仍テ其疎外遠退ノ人才臣カ嘗テ知ル処ヲ挙ル者左ノ如シ、

一山口県士前原（一誠）ヲ用ヒ、木戸（孝允）旧参議ノ代ニ任シ玉フヘシ、

一内田権令（政風）ヲ用ヒ、大久保（利通）参議兼内務卿ト御并用アラセ玉フヘシ、

一副島旧（種臣）参議ヲ用ヒ、大隈（重信）参議兼台湾事務総裁及ヒ寺島（宗則）参議兼外務卿ト両名間ニ御并用、然シテ寺島ハ外務太輔辺ニ左遷、

一勝（海舟）参議・伊藤（博文）参議・大木（喬任）参議ハ故ノ如クシテ可ナランカ、

一大久保一翁及ヒ西京ノ春日（潛庵）、土佐ノ斎藤（利行）等ヲ

皇側ニ　御採用、浅田宗伯ヲ典医ニ　御登庸可然ヤ、

一神祇官ヲ置レ、三条太政大臣（実美）ニテ神祇伯御兼任有テ可ナランカ、

一弾正台ヲ置レ、　中川宮ヲシテ弾正尹ニ　御任用有テ可ナランカ、

一西郷旧参議（隆盛）ヲ用ヒ陸軍大将ニ任シ玉フヘシ、若シ奉セサルニ於テハ桐野（利秋）カ或ハ板垣（退助）ヲ用ヒ玉フヘシ、

一旧藩知事ヲシテ各旧封ノ県令ニ御任用アラセラルヘシ、然レトモ先ツ旧大藩ノミ任セラレ、自余ハ器量ニ随ヒ追々　御任用アルヘシ、差向キ

一橋ハ静岡ニ、毛利ハ山口ニ、

山内ハ高知ニ、従三位公ハ鹿児島ニ、

細川ハ白川ニ、鍋島ハ佐賀ニ、

尾張ハ愛知ニ、紀伊ハ和歌山ニ、

水戸ハ茨木ニ、黒田ハ福岡ニ、

前田ハ石川ニ其他　御見合ヲ以テ、各県令ニ　御任用アラセラレ玉フヘシ、

一自余　御登庸ノ人材ハ追々精密ニ　御撰択、一タヒ御登庸ノ者ハ永ク　御信任ヲ第一トス、故ニ進ムルニ慎ミ退クルニモ亦慎ミ、倉卒ノ黜陟ナキヲ要ト玉フヘシ、以為ラク、

閣下ノ御建言、慎択人材ト慎ノ字ヲ加ル者深意ナランカ、

第二

神祇御敬礼之事

方今邪教ノ蔓延スルヤ、必竟国憲立ス祀典行ハレサレハ也、夫レ国憲立チ祀典行ハルレハ、則人心マサニ其尊フヘキヲ尊ヒ其敬フヘキヲ敬ヒ、以テ彼邪宗妖教ノ如キハ其賤シムヘク悪ムヘキヲ知リ、自然制禦攘斥ノ勢ヲ得ルニ至ラン、是ヲ以テ曩キニ教部省ノ官員建言ノ旨趣　御明断、儼然神祇官ヲ置レ、教部省ヲ合并シ、更ニ祭祀ノ礼ヲ崇フシ、教法ノ典ヲ正フシ、以テ宗廟社稷ヲ尊重シ、

皇祖天風ヲ敬戴シ、祭政一致治教同帰ノ国体ヲ確立シ、厳明ニ

神聖立教ノ大道ヲ観示シ玉フヘシ、

第三

民生御撫育ノ事

重歛横税ヲ蠲キ、濫用妄費ヲ禁シ、以テ官府薄ク取テ用足ルノ制度・紀律ヲ確定シ、仮令其新税ノ取立ツヘキ者アリトモ、目今万民窮迫ノ時ナレハ、一往之レヲ免ルシ、必ス先ツ民庶勧業安堵ノ事務ヲ専ニシ、億兆御保安ノ

詔旨ヲ遵奉、各其実功ヲ奏センコトヲ要トシ玉フヘシ、

第四

兵制御変革之事

陸軍ノ仏式ヲ廃シ、能ク吾カ国体ニ本ツキ、且ツ猶英仏ノ法式ヲモ折衷シ、明体適用ノ兵制ヲ設ケラレ、即チ募兵ノ如キハ、必ス吾カ国固有ノ武士ヲ募リ、資格相当ノ軍律ヲ設ケ、法令修明上下一心ノ法制ヲ定立シ玉フヘシ、然シテ今ノ鎮台分営ヲ廃シ、近衛兵ノミ之レヲ置キ、猶其精兵ヲ撰択シ、亦其兵員ヲ加増シ、鋭精ノ兵威ヲ布クヘシ、然シテ其鎮台分営ノ定額ハ、都テ之ヲ海軍省ニ加入シ、海軍ヲ盛大ニ布行シ玉フヘシ、

第五

服章御改正之事

奏任官以上文武官員共、大礼服・烏帽子・直垂、判任ノ文武官及ヒ庶士上下平服ハ、文官一同割羽織・襠高袴、武官ハ烏帽子・割羽織・筒袖・細袴何レモ結髪帯刀洋剣ヲ用ル勿レ、庶民ハ半髪無刀、

但断然之レヲ施スコトヲ為ス、予メ之ヲ布告シ半歳計ヲ置キ、現実用ルノ都合ニシ玉フヘシ、左ナクハ却テ混雑ヲ生スルノ憂ヒアルヘシ、

第六

貴賤御定方之事

四民ノ定方ヲ厳正ニシ、上下ノ凌犯ヲ糾正シ、即チ先ツ目今行ハル所ノ士分以下ノ馬車・馬乗ヲ禁シ玉ヘ、最モ官員貴賤ノ行装ヲ判明ニシ、高位高官ノ人ハ必ス

陪従ヲ定メ、一目判然タル制度紀律ヲ立玉フヘシ、
右外ノケ条ハ追々　御評議適実行フヘキノ時機ヲ見
合セ、　御発令有テ可ナランカ、恐クハ今ヤ
国朝紛擾ノ時、殆ント処シ難キノ勢ヒアラン、猶
御英断ヲ仰而已、百拝、

冊子原寸　縦二五・三糎　横一七・五糎　一一枚

二四一九　勧業寮農務課出仕川添峯直建白

勧農ノ急務ニ就テ

（表紙）「上」

謹啓

今般百六号　御布達非常ノ節倹相行ハセラレ候義、内外
御多端ノ際故ニ本体主要ノ事務厚ク施サレ、未用不急ノ
事件　御省略ノ　御主意ト実ニ奉恐感候、就テハ金穀
御予備ノ多少未奉詳存候ヘトモ、中古以来勧農ノ良道不
全、幸ヒ豊饒ノ　御代ニ浴シ、国本土徳ノ貴キヲ識ラサ
ル者モ不少、動モスレハ庶民奢侈ニ流レ金銀貨幣ヲ而已
貴ヒ五穀ヲ軽賤ス、故ニ衣食ノ要品国用ニ乏シ、依テ近
来輸入品多ク失貨猶不少、中ニ就テ養蚕・製茶ノ事業主
張ス、是則農務ノ一課業欠クベカラザルハ勿論、通商交
易ノ一大事件　内外ノ有益ニ而貨幣ヲ求ルノ要品也、然
トモ饑饉非常ノ時ニ中リ、国ニ余食無ケレハ何ヲ以テ万
民ノ生命ヲ保チ、且大ニ兵員ヲ養ヒ器具ノ大用ヲ全フセ
ンヤ、即今下民ニ於ヒテハ非常ノ貯ヘモ少キノ形勢也、
仮令蚕茶ノ潤益ヲ以テ金貨ノ蓄積ハ幾千万金ヲ重ヌトイ
ヘトモ、国ニ余食無ク、不可期水旱・蝗・風・震害等非
常ノ凶難ニ中ラハ、必ス食ヲ外ニ求メザルヲ得ス、然ル
時ハ漸ク集有ノ金貨、直ニ食料ノ為ニ費散セズンハアル
ベカラス、左候ヘハ其詮無キノミナラス、適風土良美ノ
御国内天生固有ノ良産ヲ無ニスルノ弊害班然ナラン、故
ニ此際ニ中リ大活眼ヲ開カレ、第一国ノ本ハ民ニ有リ、
民ノ本ハ食ニ有リ、食ノ本ハ農政ニ有ル事ヲ　御決着有
ラセラレ、積年衆民迷暗ノ志心モ一洗仕候様更ニ勧農ノ

良道　御主張、追々食ヲ余シ非常ノ蓄積法ヲモ　御確定、万民安堵ノ思ヒヲ為サシメ賜ハヾ、増穀ハ勿論牛馬羊其他鳥獣草木ニ至ル迄、諸生産物モ倍蓄殖ノ方法相勧ミ、随テ養蚕織工等ノ道モ猶一層精微ヲ尽シ可申也、仮令大国広地ト雖モ其国ノ貧弱ナル所以ヲ尋ルニ、人心帰向セズ民土徳ヲ識ラス、民力聚マラス地力ノ尽サレサルニヨル、乍恐　御国内ハ地狭シト雖モ、各国ニ比セハ人口モ中等ニシテ全体士気英敏、土壌衍沃、五穀豊登、随テ四木三草其他万物ノ生熟モ十全ナレハ、積年治民勧農ノ道ニ有効ノ人材猶更　御親撰　御登庸、仁譲敬恕ノ　御徳政猶厚ク布キ施サレ、勧農ノ為メニ　御府県共土地相応ノ資財　御設立恵而不費、賑貸恵施ノ良法ニ依リ勧業ノ良道　御確定、民心興起シ庶民土徳ヲ知リ、風土ニ応シ地力ヲ尽シ、且水利ヲ便ニシ、或ハ水害ヲ除キ、荒蕪ヲ墾シ衣食豊足、四民業ヲ楽ミ候様　御着手相成リ度ク、左候ハヽ往々戸口猶増殖シ而富強ノ大基礎　御全備可仕奉存候、故ニ至急

御高評右等関係ノ要路、至当ノ方法詳細上申相成リ候様、更ニ　御下命相成度キ　御時勢ト奉存候、此段不奉顧多罪愚拙ノ管見奉上言候、

誠恐誠惶頓首謹言、

勧業寮
農務課十二等出仕
川添峯直敬白

明治七年九月

冊子原寸　縦二八糎　横二〇・五糎　五枚

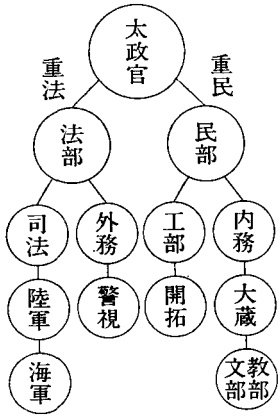
二四〇　無名氏ヨリ政府ヘノ建言

道ト法ヲ一和セシムルコト

謹惟ニ天之生、此民ヤ賢愚美悪ノ別アリト雖モ其用二種アリ、道ヲ主トスナリ、法ヲ主トスルナリ、道ヲ主トスル者ハ能ク恩義ヲ守リ能ク人ヲ憐ム、法ヲ主トスル者ハ能ク法憲ヲ明ニシ能ク事ヲ弁ス、是故ニ此二者相和スルトキハ天下治ラサルナシ、然レトモ此二者ノ相和ルヤ甚タ難シ、如何トナレハ法ヲ明ニシ事ヲ弁スル者ハ実務ニ敏キモ道宜ニ疎ナリ、道ヲ守リ徳ヲ好ム者ハ能ク道ヲ守ルモ実務ニ疎トシ、又タ道ヲ守ル者多クハ好古ヲ開化ヲ難ンス、又法ヲ明ニシ事ヲ便スル者ハ新矩ヲ好テ能ク開

化ス、是以常ニ相反スルコト多シ、開化ハ好古ヲ侮リ、好古ハ開化ヲ罵リ、互蔑視シ、或ハ軽薄無恥ト云ヒ、或ハ頑固因循ト云ヒ、其相激スルヤ各党ヲナシ、頑固ハ暴ニ出テ開化ハ酷ヲ極ム、甚シキニ至ルヤ互ニ仇敵ノ如ク、終ニ天下ノ乱ヲ釀ス、然リト雖モ此ノ一ヲ闕ク亦潰乱ニ帰ス、是レ天之性ナレハナリ、抑治乱ハ此ノ和不和ニアリ、又思ニ其相悪ムヤ各其短ヲ見テ其長ヲ見サレハナリ、其常ニ好古ノ実務ニ疎トキモ其終ヲ保アリ、開化ノ実務ニ便速ナルモ亦タ跌却無キ能ハス、又非常戦軍ノ事ニ及フヤ、隊伍節制ハ法家ノ律ニ出ルト雖モ異勇怪戦等ノコトニ至テハ亦好古ノ義胆ニ出ルモノアリ、夫レ互ニ思サル可ンヤ、然則方今ノ最モ急ニス可キ処ハ、此二者ヲシテ各一和セシムルニアリ、因誠ニ此二者ノ用ヲ分チ、民部・法部トナシ、先ツ道ヲ守リ愛ニ厚キ者ヲ民部ニ属シ、能ク法ヲ明ニシ事ニ弁スル者ヲ法部トナシ、各分ケ持テ闕ク可カラス、離ル可カラサルノ意ヲ述テ以テ左ノ図ヲ画シ、識者ノ議ヲ乞ト云、

明治七年九月



此ノ図ハ大体ヲ表シ二トナシ四トナスノミ、タトヘハ司法ニ聴訟断獄アリテ自カラ民事刑事トナルカ如ク省々局々課々皆此意アリ、

冊子原寸　縦二八糎　横一七・五糎　二枚

二四二　白川県士族長江剛介ヨリ左府公ヘノ建言

人材登用、非違巡察等ノ件

（表紙）「上書」

白川県士族長江剛介頓首再拝、謹

左大臣公閣下ノ左右ニ上言ス、嘗聞、

閣下ハ鎌倉源公ノ尊曽ニシテ大国ノ君也、既ニ壬戌ノ歳ヨリ王事ニ勤労シ、艱難ヲ経渉シ、疏付奔奏先後禦侮一日ニアラスシテ能ク軍旅ヲ整ヘ、鋒ヲ万里ニ摧キ、衆ヲ率テ時難ヲ寧済シ、大勲労有テ功ヲ太常ニ銘シ、帝王ノ補佐人倫ノ師範ト為リ給フコトハ皆世人ノ熟知スル所ニシテ、

閣下ノ徳化ヲ仰カサルモノ一人トシテナキ時ニ当テ、今又新タニ要路ニ当リ給フ、万民ノ喜ヒ而後ニ知ルヘシ、臣剛介モ亦喜テ不寐コト此ニ有日、因宿昔報告ノ志ヲ致シ、上書シテ以テ

閣下ノ電覧ニ供シ、聊カ臣カ鄙衷ヲ尽スコト後条ニ陳述スル所ノ如シ、凡ソ此条々臣剛介一朝一夕、偶然トシテ上言スルモノニ非ス、抑維新以前ヨリ鞅掌ノ際天下ノ形勢ヲ大観シ、維新以後ノ人情時変ヲ按シ、或ハ草莽ニ在リ、或ハ職官ニ在リ、或ハ市井ニ在リテ今日ノ時所位ニ適スルコトヲ察シ、皇化ヲ助クノ一端ニモト之ヲ胸中ニ蔵スルコト有ト雖、苟モ其人ニ非レハ道虚ク行レス、一度之ヲ筆スル時ハ乍チ空論トナルヲ以テ其人ヲ待テ上言セント欲シ、黙止スルコト玆ニ数年、今幸ニ

閣下経国変理ノ重任ニ当リ給フ、臣剛介喜テ不寐、此ニ有日モ亦宜ヘナラスヤ、此ノ時ニ当テ上言センスンハ何レノ日カ報国ノ夙志ヲ致スコト有ント臣カ賤陋ヲ忘レ、敢テ威尊ヲ瀆冒ス、惶恐無己惟垂仁採納アランコトヲ是レ仰、

明治七年九月日　　白川県士族
　　長江剛介頓首再拝

左大臣公閣下
　　左右

西洋ノ言曰、国政ハ人民ノ光リノ返照ナリ、故ニ人民ノ風俗劣悪ナレハ、一時極善ノ律法有テ奸ヲ禁シ乱ヲ遏シテ、人民ノ生命ヲ保護シ、人民自主ノ権ヲ保護シ、人民ノ産業ヲ保護スルノ功用アリト雖、幾何モナクシテ其政事退キ下リテ人民同等ノ位ニ至ルヘシ、又其人民ノ品行

優美ナレハ、能ク人民ヲシテ観感興起セシムルコト猶十室ノ邑一忠信アレハ、満邑里仁ノ風ヲ成スカ如シ、所謂ル開化文明ハ他ナシ、一国ノ人民各自其親ヲ親トシ、其長ヲ長トシ、行止正シク芸事ヲ修メ、職業ヲ勉メ善行ヲ合集シテ開化文明ト成ルナリ、

風化ハ下ヨリ上ニ移ルモノニアラス、上ノ風儀ノ下ニ漸スルナリ、故ニ君子ノ教化ヲ布ク也、家々ニ至テ日々ニ之ヲ見ルニ非ス、又百方説諭シテ後ニ得ルニアラス、教ユルニ孝ヲ以テスルハ、躬自ラ孝ヲ行ヒ了テ而後ニ孝ヲ教ユト云ヒ、躬自ラ弟ヲ行ヒ了テ而後弟ヲ教ユト云フ、赫々タル職官上ニ在テ各自風儀ヲ正シクシ職業ヲ勉メ徳義尊フヘク作事法ルヘク容止観ルヘク、進退度トスヘク而後ニ万民畏愛則象ノ心ヲ生シ愷悌ノ風ヲ興ス、故ニ其徳教ヲ成シ其政令ヲ行フ、猶風ノ草ニ尚フルカ如ク、是ヲ以テ方便説諭セスシテ人民ノ勧励化導スルノ功ハ、郵便ヲ差シテ布誥スルヨリ速カナリ、

今ノ職官ハ則然ラス、花柳ノ美男子為ラサレハ商家ノ伴当ナリ、然ラサレハ或ハ室ニ酣歌シ、或ハ遊畋ニ恒ニシ、或ハ琴棋書画ニ逸ス、三風十愆啻ニ風儀ノ美ナラサルノミナラス、実ニ職務上ニ於テ専ラナラサル所アラン、今夫レ奕ノ為数小数也、心ヲ専ニシ志ヲ致ササル時ハ則得ス、況ンヤ人民ヲ勧化誘導スルノ任ニ当テ、淫逸ノ事ニ心ヲ用ユルニ於テヲヤ、

法律ハ巧言孔壬不慤多能ノ徒ヲシテ、其権謀術智ヲ逞フセシメサルノ具ニシテ、不学無智蠢愚ノ細民ヲシテ穽中ニ陥レシムルノ設ケニアラス、然ルニ今夫レ万物ノ霊ナレハ何カニ自主自由ノ権ヲ天ノ賦与スルト雖、豪商ニシテ権貴ニ結攬シ、官府ヲ把持シテ市ノ利ヲ網シ壟断ヲ私シスル、或ハ職官ニシテ銭債ヲ挙放シ財物ヲ典当シ、或把持行市シテ専ラ其利ヲ取ル等、其禁ナカル可カラスシテ今反テ田夫野人等股脚ヲ露シ、便所ニアラサルニ溺リスルトテ違式詿違ノ罰ヲ追ス、何ソ律法ノ職官、豪商ニ寛ニシテ田夫野人ニ厳ナル、

夫レ政教ヲ善ニシ、風俗ヲ美ニセント欲スル時ハ職制律

ヲ厳ニシ、貢挙ノ道ヲ明ニシ、縦令多能ノ徒ト雖忠信ノ人ニアラサレハ登庸セス、其職制ヲ犯スモノハ罪ノ軽重ニ従テ罰俸付過遁降叙用罷職不叙閏刑類決ノ類、権衡斟酌スヘシ、今改定律ノ該載セサル所ヲ挙ルコト如左、

大臣専擅選官　濫設官吏　貢挙非其人

挙用有過官吏　官吏給由　官吏宿娼

姦党　交結近侍官員　講読律令

上言大臣徳政　照刷文巻　磨勘巻宗

其他倉庫銭債市廛廏牧、郵駅営造河防等枚挙ニ遑マアラス、宜ク此ノ中ニ於テ時宜ニ適スルモノヲ取テ、律法ヲ立テ、職官ノ風儀ヲ正クスルヲ以先務トナスヘシ、

式部寮中ニ於テ、歳貢生挙人ノ会試ヲ設ケ、人材登用ノ道ヲ開クコト、

正院中ニ考功司ヲ置キ、職官ノ勤務優劣ヲ考覈シ、三年一考三考シテ、百官ノ幽明ヲ黜陟スルコト、

正院中ニ監察御史ヲ置キ、諸衙門文案ヲ照刷ノ上駁問スルコト、

正院及内務司法両省ニ照磨ノ官ヲ置キ、御史駁問ノ上ヲ又再ヒ照磨スルコト、

司法省ニ風憲官吏ヲ置キ、在内在外諸官吏ノ非違ヲ巡察スルコト、

律法ハ経国ノ枢機ナレハ、苟モ官吏タルモノハ権官卑職ノ別ナク律意ヲ理会シテ而後、人民モ了解スルコトヲ欲スルハ固ヨリ論ナシ、故ニ古ハ百司官吏務テ律意ヲ熟読講明シ、事務ヲ剖決センコトヲ要ス、年ノ終ニ遇フ毎ニ御史ヲ差シテ、百司官吏ヲ考校ス、若シ律意ヲ講解通暁スルコト能ハサル者アレハ各罰アリ、然ルニ今警視庁ハ所司ト違ヒ行政警察ノ任アリト聞ク時ハ、則違式詿違ノ案至リ兇姦ヲ按シ賊盗ヲ察スルノ責メヲ摂ス、而テ満庁五千有余ノ官吏人等、律法ニ於テハ恬トシテ関スル所ナキモノ、如ク、故ニ支庁小区ノ処決往々律意ヲ失シ、権衡ヲ過ツモノアルヲ聞ク、豈警保警察ノ任ニ勝ユルト為ス可ンヤ、是以今宜ク明法ノ官ヲ差シ考校黜陟セハ可ナラン、

右ノ条々ハ浅見腹稿中ノ一分ニシテ、所謂ル書ハ言ヲ尽サス、其詳悉ノ如キハ拝謁言上ニアラサレハ尽スヲ得ス、仰願曰クハ賜亮察、

白川県士族　長江剛介拝具

冊子原寸　縦二五・五糎　横一八糎　八枚

二四三　栃木県士族伊藤義典ヨリ左府公ヘ

兵備拡張ノ件

臣素ヨリ聞ク、我国凡ソ六十有余州中ノ矩ニテ目度シ兵員大約二十万員許、輜重下夫雑人総計五十万人許、馬七万疋許、是我国鎮撫外寇守禦ニ天然備ル兵員如斯也ト独立ノ世猶斯ノコトシ、方今更始ノ御世ニ在テ兵員七万員ニ限ルト聞ク、今ヤ海外各国ヘ対スルノ時ニ至テ僅カ七万ヤ十万ノ兵員ニテハ兵力誠ニ微ナリト可謂、其勢到底我国自然圧制セラレ、自今条約ヲ以テ我国建国ノ大基礎トスルノ外他事無ラン欤、嗚呼危哉、是何事也、尤御旧藩ノ儀ハ素ヨリ軍備古実共ニ全備ノ御家ニシテ、右等ノ御洞見御確定言ヲ不待、請願ハ右兵備ノ儀（方今支那事件）ニ付奉得拝顔度、俯而奉懇願仰望也、頓首々々謹言、

戌九月

栃木県士族　伊藤義典

文書原寸　縦二四・四糎　横二一糎

二四三　高知県士族高崎睿雄、森復吉郎等廿五人ヨリノ上奏

制度ノ改革ニ就テ

（表紙）「謹上」

謹テ按スルニ、方今天下ノ形勢日ニ迫リ月ニ蹙ル、士民疑惑方向ヲ失フ有志ノ士、天下治安ノ道ヲ失テ永ク一定セサルヲ懼ル、臣等

皇恩ニ浴スル日久シ、今ノ時ニ方テ傍観坐視シテ憂国ノ誠ヲ竭サスンハ臣子ノ道ニ背ク也、又貧困旅資乏シク遠ク郷土ヲ出ルコト能ハス、焦慮苦心空ク日ヲ送ルノミ、伏シテ惟レハ

陛下聖明睿智ノ性ヲ以テ文明ノ治ヲ敷キ、議事院ヲ設ケ、詔ヲ四方ニ下シ、問巷(ママ)ノ小民ニ至マテ、苟モ見ル所アレハ忌諱ヲ不憚上言セシム、臣等今ニシテ言ハスンハ陛下謙譲己ヲ虚フシテ衆言ヲ求ムルノ意ニ背ク而已ナラス、臣等モ亦言フ可キノ時無ランコトヲ恐ル、是ヲ以テ自ラ卑陋ヲ忘レ、謹テ事件ヲ条シ、画一以テ献ルコト左ノ如シ、

一制度法律ヲ立ルハ其土地民情ニ本クハ当然ノ理也、

皇国ニハ

皇国ノ制度アリ、欧米ニハ欧米ノ制度アリ、其他亦然リ、

皇国君臣父子ノ大倫ニ於テ屹然トシテ変セス、漢土ニ在テハ堯舜ノ授受正大至公ト称スト雖トモ後湯武ノ放伐トナリ、後世ニ及ンテ其名ヲ仮リ、君ヲ弑シ父ヲ殺スコト勝テ数フヘカラス、仏蘭西ノ如キ文明開化富国強兵ト称ス、然ニ仏王普国ノ擒トナル、仏人一人モ節ヲ守リ義ニ死スル者有ヲ聞カス、抑文明開化ナル者君臣父子夫婦ノ道相行ハレ、上下親睦路ニ餓莩ナク、野ニ盗賊ナク、人々私闘ニ拙ク公戦ニ勇ム是也、奚ソ礼義廉恥ヲ廃テ而後文明開化トセン哉、是故ニ

皇道ヲ尊奉シ、聖教ヲ遵守シ、彼我ノ軽重ヲ弁別セスンハアルヘカラス、而シテ徒ニ西洋諸洲ノ風習ニ傚フ、其弊恐ラクハ彼カ所謂共和政治ニ漸浸スルモ亦知ル可カラス、

一　朝廷ノ礼衣冠ノ制ハ

祖宗ノ定ムル所ニシテ

列聖ノ遵守スル所也、妄ニ之ヲ改ム可カラス、若或ハ便ナラサル所アツテ将ニ之ヲ改ントスレハ、宜シク祖廟ニ白シ天下ニ布告シ、而後之ヲ改ム可シ、今也不然尽ク改テ洋礼洋服ニ摸ヒ独リ神官ノミ旧礼ニ従ハシム、是ヲ以テ士民特ニ洋礼ニ傚ハサルノミナラス、在官ノ者ト雖トモ庁ニ在テハ則チ洋礼ニ傚ヒ、家ニ在ツテハ則チ旧礼ニ従フ、夫レ

皇国古ヨリ坐拝ヲ以テ礼トシ、彼ハ則チ立ヲ以テ礼ト

ス、而シテ神官独リ旧礼ニ従ハシムレハ則チ
祖宗ニ事フルニハ坐拝ヲ以テシ、群臣ニ臨ミ、外国ニ
接スルニハ立礼ヲ以テスル乎、群臣亦
陛下ニ見エ、外国ニ接スルニハ立礼ヲ以テシ、
祖宗ノ廟ニ謁スルニハ坐拝ヲ以テ礼トスル乎、若シ然
ラハ則チ臣等未タ其可ナルヲ知ラサル也、夫礼豈苟モ
ス可ケンヤ、宜シク速ニ
祖宗ノ制ニ復ス可シ、
一近時都鄙ヲ論セス毎区ニ学校ヲ設ケ、貴賤トナク童子
ヲシテ入校セシメ、又西洋諸洲ヘ学生若干輩ヲ遣シ、
其学ヲ研究セシム、問学ノ盛ナル前古未タ曾テ有ラサ
ル也、然ルニ今ノ教授スル所専ラ洋学ヲ事トシテ、漢
土聖賢ノ教ヲ廃セントス、蓋シ漢土聖賢ノ教、我
神聖ノ道ト相同シキ者多シ、是ヲ以テ
列聖之ヲ尊崇スルコト殆ント千六百年、今也尽ク之ヲ
廃セントス、何ソ其レ謬レルヤ、夫レ学問ノ道ハ先ツ
我カ国書ヲ学ンテ国体ノ万国ニ卓絶タルヲ知シメ、聖
賢ノ道ヲ学ンテ忠孝仁義ノ道ヲ知ラシメ、而後西洋各
国ノ書ヲ読マシメ益々智識ヲ広メシムヘシ、不然ハ後
世必ス彼ヲ尊ヒ、我ヲ陋シメ、駸々乎トシテ遂ニ邪教
ニ陥ン、今也耶蘇教都下ニ熾ンニシテ殆ント将ニ天下
ニ蔓延セントス、夫レ耶蘇教ナル者ハ天ヲ誣テ以テ天
ヲ敬ストシ、人ヲ惑ハシテ以テ人ヲ教ユトス、其弊遂
ニ君父ヲ無之スルニ至ル、今ニシテ厳禁セスンハ終ニ
天位ヲ覬覦スルニ至ントス、実ニ懼ル可キノ甚シキニ
非スヤ、恭ク惟ミレハ、我
皇国開闢以来今日ニ至ルマテ
皇統綿々トシテ絶サル者、蓋シ
皇威ノ宇内ヲ照臨シ、万民ノ
天恩ニ浴シテ君臣ノ義厚ク上下ノ分正シキヲ以テ也、
而シテ洋学ヲ学フノ徒、
皇国ノ道ヲ守ルヲ以テ頑固トシ、聖賢ノ書ヲ読ムヲ以
テ迂闊トス、夫レ世ノ所謂頑固ナル者ハ固ク一ヲ執テ
以テ善ニ移ラサルヲ謂フニ非スヤ、所謂迂闊ナル者ハ

高遠ニ馳セテ目前ノ利害ヲ知ラサルヲ謂ニ非スヤ、今洋学者唯万里外諸洲ノ風ヲ主張シテ、我神道ノ尊ク聖教ノ用有ルヲ不知、是頑固迂闊ノ甚シキ者ニ非スヤ、願クハ陛下正学ヲ興シ邪教ヲ禁シ、以テ教育ノ道ヲ厳ニス可シ、

一方今国家多事、尤急務トスル所ノ者ハ、士気ヲ振起シ人心ヲ収ムルニ在リ、抑我皇国開闢以来、外国ノ侮辱ヲ受サル者ハ固有ノ義気存スレハ也、苟モ此義気無ケレハ焉ソ諸大洲ト抗衡スルコトヲ得ンヤ、然ルニ嚮キニ士族ノ常職ヲ解キ、人民平均ノ制ヲ設ク、所謂名有テ実無キ者ト謂可シ、夫レ士ナル者ハ力ヲ文武ノ道ニ尽シ心ヲ国家ノ事ニ用ユ、今既ニ其所長ヲ廃シ遽ニ農ニ帰セント欲シテ不能、工商ヲ営ント欲シテ亦不能、徒ニ遊惰ヲ事トシ空ク廩禄ヲ食ム、一旦国家急アリ、防禦ノ術ニ於テ如何ソヤ、封建ノ治ノ如キ文武ノ課程ヲ立テ之ヲ督責スレトモ猶或ハ怠惰ニ流ル、況ヤ今其制ナク上下奢侈ヲ尚ヒ新ヲ競ヒ奇ヲ好ミ、大小トナク毎事外国ニ仰キ、我固有ノ物ニ至ツテハ善ト雖トモ卑ンテ顧ミス、何ソ其戻レルヤ、宜ク速ニ士ノ常職ヲ復シ固有ノ義気ヲ振ハシメ、節倹ヲ守リ風俗ヲ正スヘシ、是之ヲ務メスシテ徒ニ文明開化ノ域ニ進マント欲ストモ豈得可ケンヤ、

一　朝廷改革スル所尽ク洋制ニ倣ハサルコトナシ、而シテ火器戦艦及ヒ砲台ノ如キ彼カ最モ長スル所取テ、以テ海岸ヲ厳ニセサル可カラス、然リ而シテ中興以来一大砲ヲ鋳シ一砲台ヲ築コトヲ聞カス、蓋シ　朝廷以為ク、彼カ公法ヲ以テ各国ニ接シ、信義ヲ以テ人ニ交ル、今我既已ニ彼ト和信ス、之ヲ待ニ信義ヲ以セハ彼レ決シテ来寇スルノ理ナシト、臣等窃ニ以為ク、不然今我彼ニ接スルニ卑屈ヲ以テス、是ヲ以テ未タ遽ニ来リ寇セス、若シ是ヲ待ニ威武ヲ以セハ我信ヲ不失ト雖トモ彼レ必怒テ来寇セン、何トナレハ彼レ動モスレハ相攻撃ス、其起ル所利ヲ争ヒ威ヲ争フ、必シモ已ムコトヲ

得サルニ非サル也、且彼レ癸丑以来我カ卑屈ヲ軽侮ス、是ヲ以テ我ヲ要スルニ兵威ヲ以テシ、我ヲ欺ニ公法ヲ以テシ、我ヲ誘ニ妖教ヲ以テス、其心最モ可憎ノ至也、然レハ則チ彼レカ所謂公法信義決シテ不可恃、　朝廷何ソ先ツ彼レカ所長ヲ取テ以テ海防ヲ厳ニセサル乎、今鉄道ヲ築キ石室ヲ造ル、其費巨万ナルヘシ、臣等以為ク今其費ヲ以テ海防ノ用ニ充ツ、其事甚難カルヘカラス、願ハクハ

陛下彼カ誘脅ニ陥ルコト勿フシテ而シテ其長スル所ヲ取テ可也、

一側ニ聞ク、　朝廷満清ト隙ヲ開キ将ニ之ヲ討セントスト、信ニ然レハ則チ実ニ

皇国安危存亡ノ秋也、何トナレハ則チ満清弱ト雖トモ国ノ大小士卒ノ多寡ヲ較スレハ彼レ我ニ数十倍ス、必之ヲ討セント欲スレハ数十万ノ兵ヲ挙ルニ非レハ不可也、数十万ノ兵ヲ挙テ之ヲ討ス、勝敗猶未タ知ル可カラス、縦令数々之ニ勝ツトモ清主ヲ擒ニシ、彼ヲシテ降服セシムルコト不能コト必セリ、若シ或ハ敗衂セハ援兵ヲ遣ハサヽルヲ不得、如此スルモノ数年、兵結テ解サレハ国用必尽シ、国用尽レハ則チ貨財ヲ民ニ課セサルヲ不得、今ヤ号令数々改リ万民未タ安堵セス、而シテ之ニ課スルニ巨万ノ財ヲ以テセハ、則万民必チ朝廷ヲ怨ニ至ラン、是ノ時ニ当テ姦雄間ニ乗シテ起ラハ、予メ言ヘカラサルノ大事ニ至ランモ亦未タ知ル可カラス、昔者豊臣秀吉不世出ノ姿ヲ以テ天下兵馬ノ権ヲ握リ、遂ニ加藤清正等ノ猛将勇士十六万ノ兵ヲ遣ハシテ朝鮮ヲ討セシメ、朱明ノ援兵ト数々戦ヒ数々勝ツ、然レトモ鴨緑江ヨリ以西我カ隻兵到ルコト能ハス、兵結テ解サルモノ前後七年秀吉薨シテ兵ヲ引テ帰ル、而シテ韓ノ地尺寸ヲ得ル能ハス、是レ我カ謀拙ク士卒怯ナルニ非ス、主客勢異ニ衆寡敵セサルヲ以テ也、今

陛下聡明ト雖トモ、将ノ能否、士卒ノ強弱、之ヲ秀吉ノ時ニ較レハ、孰レカ能孰レカ強、智者ヲ不待シテ知ルヘシ、而シテ今遽ニ寡兵ヲ以テ大国ヲ討ス、是レ危

道也、然ト雖トモ臣等未タ其事由ヲ詳ニセス、勢已ムヲ得サルニ出テ隙ヲ開キ義討セサルヲ得サルコト有テ之ヲ討ス、則チ忠憤義慨宜ク
皇威ヲ海外ニ耀スヘシ、固ヨリ其所也、況ヤ我ヨリ事ヲ生セサルニ先テ彼レ或ハ来寇ス、是力ヲ竭シ命ヲ効シ国ニ報スルノ時也、事不成ハ国ニ死ス、何ソ其他ヲ問ハンヤ、然レトモ己レ守ニ足テ後人ヲ攻ムヘシ、人ヲ攻メテ不勝ハ人亦己レヲ攻ム、而シテ己レ守ル能ハサレハ則チ自ラ亡フ耳、故ニ人ヲ攻ル者己レ守ルノ備ヲ厳ニスヘシ、今也城郭隳壊糧儲空乏、器械蕩尽辺海砲台無ク封疆関門無シ、何ヲ以テ国ヲ守ランヤ、古云、安シテ危ヲ忘レス、治ニ乱ヲ忘レスト、此等宜シク平日ニ講究スヘシ、而ルヲ今舎テ講セス、臣等其故ヲ知ラス、況ヤ世ノ乱ヲ好ミ万一ヲ僥倖スル者動スレハ輒曰、我強兵ヲ以彼カ畏懦ヲ討セハ、猶枯ヲ折カ如ク彼必降服セン、彼服スレハ則償金ヲ得テ而帰、特威ヲ海外ニ示スノミナラス、亦国用ヲ足サンノミト、　朝廷亦此言ヲ悦フ者有テ
陛下ノ聞ヲ誤リ、事或ハ己ヲ得テ已マサルニ出ンコトヲ恐ル、顧フニ
陛下ノ聡明決シテ此事無キヲ知ル、然ニ道路ノ説洶々トシテ止マス、臣等一言セサルヲ得ス、唯
陛下之ヲ察セヨ、
右謹ンテ具スルコト前ノ如シ、書曰、治ト道ヲ同スレハ興ラサルコト無ク、乱ト事ヲ同スレハ亡サルコトナシト、中興ヨリ以来改革スル所治ト道ヲ同スル乎、乱ト事ヲ同スル乎、若シ治ト道ヲ同セハ今日ノ如ク万民迷惑シテ危懼ヲ抱キ、有志ノ士天下ノ久シク治安ナラサルヲ憂ルニ至ラサル可シ、乱ト事ヲ同フストセハ宜ク速ニ改メテ、祖宗ノ旧制ニ復スヘシ、若シ或ハ民ニ便ナラサルアレハ宜ク古今ヲ斟酌シ、時措ノ宜ヲ計ル可シ、何ソ必シモ万里外諸洲ノ風ヲ模倣センヤ、臣等愚忠憤懣ノ誠ニ不勝天威ヲ干犯ス、伏テ鉄鉞ヲ待ツ、臣等誠惶誠恐頓首頓首謹上書、

明治七年九月日

進呈

高知県貫属士族　高崎睿雄
高知県貫属士族　森復吉郎
高知県貫属士族　下元敏功
総代人
高知県貫属士族　奥宮正方
高知県貫属士族　高野正雄
高知県貫属士族　宮地奏
高知県貫属士族　棚橋長亨
高知県貫属士族　清水六郎
高知県貫属士族　宮地森城
高知県貫属士族　市原辰雄
高知県貫属士族　香宗我部源太
高知県貫属士族　大谷謙作
高知県貫属士族　岡本卯太郎
高知県貫属士族　岡本治平
高知県貫属士族　大黒祐勝
高知県貫属士族　浅井以政
高知県貫属士族　麻田直蓬
高知県貫属士族　小崎元曄

冊子原寸　縦二四糎　横一六・五糎　一二枚

三四二四　白川県士族松井正幹、植野常備ヨリ左院ヘノ建白

時弊矯正策

（表紙）「建白書草稿」

白川県士族
微臣　松井正幹・植野常備

誠恐誠恐頓首頓首謹テ白ス、

伏テ維ミレハ

皇国朝政ニ復シテヨリ既ニ中間五年ニ及ヘリ、天下ノ兆民復古ノ仁政ニ浴シ鼓腹ノ楽ヲ蒙ランコトヲ冀望セリ、然リ而テ方今ノ形勢人心帰向定ラス、上下否塞シ四民日ヲ逐テ疑懼ヲ生セリ、加之ミナラス、民間ノ暴動数十ケ所ニ及ヘリ、草野ノ愚民固ヨリ廟議ノ深遠敢テ窺ヒ料ルヘカラサルヨリ、如斯ノ勢ヒニ至ルヘキカ、然リト雖熟ラ々下民ノ情実ヲ深察スルニ、人々自ラ思ヘラク　朝政専ラ上ヲ利スルニ原ツケリ、今日ノ勢ヲ以テセハ、恐ラクハ手足ヲ措ク処ナキニ至ルモ亦料ルヘカラサルナリト、嗟夫　朝政何ソ独リ上ヲ利スルコトヲ料ランヤ、百宦豈下ヲ苦ムルヲ欲センヤ、然リ而テ民情既ニ玆ニ至ル所以ノ者ハ何ソヤ、微臣謂ヘラク、恐多モ復古ノ業隆盛シ玉ハンコトヲ欲シテ、洋政ニ則トラサレハ国富マサルナリ、洋法ニ倣ラハサレハ兵強カラサルナリト、一時ノ変革国ノ大小強弱ヲ察セス、取捨ノ公平ト緩急ノ順序トヲ失スルヨリ、斯クノ如キ形勢ニハ至ラサルヤ、夫西洋ハ国大ニシテ且富メリ、我　皇国ハ小ニシテ且疲ル、其疲レタル国力ヲ以テ彼カ富大ノ風ニ倣フテ百般ノ大挙ヲ為ス、之レ国ヲ富マスノ本ヲ務メスシテ、已ニ富メルノ末ニ倣フヲ以テ国ヲ富スノ急務トナスノ害ヲ生スルニ非ラスヤ、今日我疲弊ノ民ニ外国富強ノ民ノ負ヘル血税ノ重担ヲ負ハシムルハ、喩ヘハ牛馬ノ重担ヲ犬猫ニ負ハシムルカ如シ、豈夫レ一日モ立ヘケンヤ、語曰、民ハ是国ノ本、々固ケレハ国安シト、民斃ル、時ハ国モ亦倒ル、今日ノ朝政、恐ナカラ取捨ノ公平ト緩急ノ順序ヲ得サルヨリ、其勢ヒ自ラ独リ上ヲ利スルノ害ヲ来タシ、国民二ツナカラ益マス疲弊スルニ至レルナリ、然ラハ則チ今日ノ急務ハ一日モ早ク除カルヘキ処ノ雑税ヲ弛メ、下民各其業ニ安ンシ、其職ヲ務メシメテ真ニ兆民愛撫ノ仁政ヲ施シ玉ハヽ、天下誰レ有テ

朝政ヲ仰慕セサランヤ、是左今日ノ急務ナリ、夫如斯ナルトキハ、則チ下民相競フテ自ラ金穀ヲ納メンコトヲ欲スルニ至ルハ必然ナリ、蓋シ人心既ニ此ニ至リ、然ル後下民ノ貧富ヲ計リテ諸税ヲ加ヘハ、仮令ヒ愚夫愚婦タリ

ト雖モ豈朝政独リ上ヲ利スルノ疑心ヲ生センヤ、仰願クハ三公及ヒ百官群職ニ至迄、
陛下ノ神慮ヲ体任シ、断然政体ヲ改正シ、本根ヲ培養シ、急務ヲ勉励シ、天下ノ兆民各其処ヲ得セシメ玉ヘ、将タ其政体ヲ改ムルヤ人才ヲ撰フニ在リ、恐ナカラ是迄人材ヲ撰ヒ玉ヘル、専ラ才智有力者ノミヲ以テ天下有用ノ人トナスノ勢アリ、願クハ老成徳望ノ士賢才廉潔ノ人、専ラ採用シ玉ハンコトヲ是冀望ス、一旦撰挙ノ法其公平ニ出ルヤ天下ノ賢才郡起輩出シテ、所謂野ニ賢ナフシテ復古ノ業愈盛隆ナランコト必セリ、且強兵ノ道四民合一ノ法ニ倣フハ固ヨリ不可ナリ、我国ハ中古以来既ニ四民ノ別有テ軍事ハ士族ノ職掌ニシテ士タル者一身ヲ国事ニ委スルヲ以テ己レカ任トス、彼ノ三民モ亦軍事ハ士ノ分ニシテ己レカ職掌ニ非ストセリ、然ルニ近年四民合一ノ兵ヲ募リ玉フト雖トモ、固ヨリ不教ノ三民義気無ク、廉恥ナク、豈ニ堅陳ヲ破リ強敵ヲ挫クノ胆力アランヤ、平日無事之時縦横開合華法ノ上ニ就テ之ヲ見レハ、固ヨリ士族ノ兵隊ト同様タリト雖モ、一旦其事アルニ当テハ万々士族ノ兵ニ及ハサル可キナリ、将タ兵器ノ如キ彼ノ大小炮器ノ長技タルコト、誰カ是ヲ了知セサランヤ、然リト雖トモ専ラ彼レノ長技ヲ取ラント欲シテ、反テ我カ長スル処ノ刀剣ヲモ廃棄スルニ至ルハ何ソヤ、刀剣ノ如キ海内ノ名器ノミナラス、第一士族是迄義気ヲ張リ、廉恥ヲ知リ、胆力ヲ強クスルハ畢竟刀剣ノ術ヲ煉磨スルヨリ養ヒ得ル処ニシテ、暫クモ廃スヘカラサルナリ、然レハ強兵ノ道ハ能ク士族ヲ養ヒ、三民ノ強敢ヲ撰テ其闕ヲ補ヒ我カ長技ヲ存シ、彼ノ法ヲ取捨シ彼ノ長技ヲ取ルノ法ヲ建ハ、自ラ取捨其宜キヲ得、緩急其順序ヲ失セスシテ強兵ノ道必至当ヲ得ルニ至ルヘキナリ、仰願クハ
皇帝陛下深ク三公ト議シ、下百官ニ諮詢シ玉ヒ、富国強兵ノ道其本末緩急ノ順序ヲ得、政体真ニ非民愛撫ノ仁政ニ基キ、天下ノ四民各其処ニ安ンセシメ玉フハ、尤今日ノ急務ニ非ラスヤ、嗟夫外患既ニ迫レリ、慨嘆悲泣ニ堪ス、臣等痴蛙ノ管見妄ニ越俎ノ罪ヲ犯シ、敢テ忌諱ノ論

ヲ発ス、其罪固ヨリ容ルスヘカラサルナリ、誠恐誠惶頓首再拝、

明治七年甲戌九月

白川県士族
松井正幹
白川県士族
植野常備
寄留島原新富町五丁目
壱番地山木宅

左院建白所御中

冊子原寸　縦二五糎　横一七・五糎　七枚

三四三　旧芸州藩岩碕一基ヨリ左府公ノ左右ニ呈ス

世変ヲ憂ヘテ

「高閣楼（包紙ウワ書）　岩碕一基
昵近士中几下　千拝」

恭敬

奉備

高台下益御機嫌克被為在何事可不如之、僕生来芸藩、壮年時游浪華、其節鹿児島御国益法立相備因御帰服竭精忠、近年御改革白浜為権参事御引移、折々御面話御国風誠実意心服尽余情、時拝承

台下先為　大臣謹奉拝賀御国風天性御篤実抜群無比類、万寿南山不騫不崩、今般芸備況城郭無全所諸国如斯無之風説、岩国市中人宮島拝参序城下見物、於旅宿城天主入札払之触伝聞驚入無是非次第不堪嗟嘆、因百両之及入札速落札而金子収斂而後嘆願、同天主取除残忍含羞、其侭将閣素意因以入札心底、人為人不堪雀躍争利強人物不忍冥理、三十円聞会釈、鴻池善右衛門与（或）惑藩士面談之砌、伊達五郎芸国人気問如何、答曰、令公欣、勿論渠雖委商売与国政知非器争、況衆人不忍困窮上下交取利国危矣、孟子有、猶穿踰盗彷彿用達、大搆家本川筋一箇所、悉下郢一箇所進物、是以仮虎威狐穿踰候様、自在白浜毎々嗟嘆忌憚、将令随取衆心号泣、以爰僕頻請汲更勉強、乍恐僕俯抛身命嘆願使白浜為県令、且立平雖豈不穆方歳自侘、縦雖稼殖貨金珠玉、銜息不返時空々斉々者人以天地為父

母、父母何憂海内為兄弟昵近、今般出府而雖驚尽強勢之
楼閣積而鎮台之御備厳重、有事逃奥手之風説無大小嗟嘆
無窮、己差立之失費三歩一以救貧民、扶帰農開闢之手便
先々十五年遅二十年至三百万石及五百万石弥増、光陰一
瞬間休節到来、僕来生骨拝語将撫開闢非違有近不言而分
明沢哲事、豈尽焉、敬白、

菊月　　岩碕一基
　　齢七十有三

高閣楼
昵近御披露

文書原寸　縦　一六・三糎　横一六五・八糎　包紙原寸　縦二四・五糎　横三二・五糎

二四六　石川県士族小川孜成ヨリ左府公ヘノ建言　二冊

内治外交ノ刷新ト賢材任用

二四二六ノ一

小川孜成恐惶恐懼頓首粛拝謹白、
従二位左大臣島津公殿下執事、前日嘗上書計已上達、窃
惟進退黜陟之事、所謂作気之術、而天下治乱安危之機不
可以不慎也、且所上載選挙法衆議久囂々焉意在、
廟堂固応有之成案而臣又言之、不啻僭越将足以煩瀆、
尊聴然愚者千慮一得、伏願
殿下寛仮狂妄罪、
一術技専能之材雖選諸学校、若夫心操性行及煉熟事務者、
不別置之、撰挙法恐未免遺賢棄材之弊、
一左院今兼議院之体、宜於本院中別置待賢院、以招致天
下賢材及有志者、亦皆令得来焉、以検察其材否、
一自　維新以来、嘗為大属以上而今処閑散者、宜記之履
歴令府県集上之待賢院、受閲之簡点甲乙号、先徴集其
甲者院員宜以議官兼之、接待之察其言行、審其才識或又策問
之補闕挙試各随其宜、
一府政姑置焉、然若夫僻遠諸県、以俗吏臨頑民者、未嘗
識　朝旨之所在間有誤認、其事者宜審委任其人考、責
其実効、蓋本重而末軽、厚近而疎遠者古今県治之通弊
可不察乎、
一置内務巡察使、常使巡出諸地方、以観察県治之得失、

吏人之良否及其俗風習等、則本支貫通遠近同体、蓋為郡県之要制也、

以上、

冊子原寸　縦二四・五糎　横一六・八糎　二枚

二四二六ノ二

「（表紙）上書」

小川孜成

明治七年九月、石川県士族小川孜成恐惶恐懼頓首粛拝、

謹上書

従二位左大臣島津公殿下執事、臣聞天下之禍常起於人所恃、而出於意之所不虞、故善走者必多蹉、豈非其恃走之熟、或不慎其歩乎、

国家維新創業之際、用材未必由履歴、惟賢之挙制法未必問、古今惟良之取以致蒸々日進之治、蓋其効亦速焉矣、以為我既網羅天下之賢材、幾其無遺策乎、若夫選挙法則施諸後進輩出之日、亦未為晩也、宜哉方今勅奏之位不誰積労、久甚遂奏実効之人、乃出其下之士、亦皆党援類推而未必由賢路也、臣固空疎迂闊未嘗審是非得失之故、然猶識時弊之所在焉西人有云、曰、人民皆有与其国政之権是、臣遂自不揣所冒進以言也、伏惟方今内務未整、外務未張王事靡監不遑、啓処之秋苟為之臣民者宜報効有所竭尽焉、寧知当路其人相率、窃有謂曰、朽材蠹木支柱之難要在更造改修耳、是蓋所謂民政党之比而其言不忌、亦甚焉矣者、一夫所唱万人和之以紊紀綱以移人心禍害之所由、又奚有底止哉、抑我恃焉所以為治者務富国也、策強兵也、開物成務也、而其本之則所謂在任賢材而已、苟任使賢材而不加諸作気之術焉、則慷慨忠良之気変為驕惰偸安之習脱、然遺却大義倫常而肆議眩夸開化者起焉、亦奚足怪哉、夫作気之道無他張、紀綱正人心是而已、乃黜驕惰陟慷慨誠実之士更設撰挙之法、明党援類推之所由、風俗一変方向以定、則内務可整外務可張不虞之禍無由生矣、

恭惟

殿下元勲碩徳忠讜、夙著衆望久鍾、若有能察於此也、蓋赫然奮発而銷患於未形保治於未然臣無任、区々憂慮之至不覚、瀆冒尊厳死罪死罪、

冊子原寸　縦二四・五糎　横一六・八糎　四枚

三四七　千葉県人石川静湖ヨリ同県令柴原和ヘノ答書

官令ノ民情ニ適否等七ケ条ノ下問ニ対シテ

（表紙）「下問尊答建白」

一官令ノ民情ニ適セサル者アルカ、

一上旨ノ不通下情ノ不達者アルカ、

此両状官吏都テ孔孟ノ教ヲ以テ情性ヲ図リ、奔利ノ念ヲ去テ克ク実忠ヲ貫カハ、豈如レ斯ナランヤ、方今悉ク孔孟ノ意ニ反シテ、

上ノ徳ヲ下ニ不レ通、下情亦更ニ　上ニ不レ達、総テ名実違ヒ有リ、可レ歎、孔孟ノ意ニ反スルカ故ニ何ソ如レ斯ナラサラン、

一旧貫ノ可改新法ノ創ム可キ者アルカ、

此改メ玉フ可者ハ　親王家公卿家ヲシテ厚ク家禄ヲ増加セシメ、文ヲ学ハシメ、仁義ヲ詢ラシメ、之ヲ華族トセハ、武家ヲシテ之ト弁別セシメ、武家ハ各々士族ヲ配賦シテ之ヲ付属セシメ、大家ノ族ヲ算シテ于レ時人撰シ、其適宜ナル者ヲ以テ之ヲ要地ニ分チ居シメ、各将軍職ヲ　命セラレ、専ラ神武ヲ勉励シ、公卿家ハ仁義徳行能ク政体ヲ補助スルノ功ニ依テ官位昇進シ、武家ハ武威ノ逞シキヲ以テ武備人賦ヲ増加シテ、黜陟凡期限ヲ定メ、而シテ后旧弊ヲ改メ、曽テ新良法ヲ創メ玉フニ不如乎、

一人民ノ疾苦又期望スル者アルカ、

之ニ由シム可知シム可ラサルノ民ニ、方ニ太陽暦ヲ以テ布告ナシ玉フト雖、即今季節違ヒ日月星晨眼前ノ時用ヲ能クセス、此下民ヲシテ遄然ト文字ヲ学セ博識ニセシメテ行事ナサシメンコトハ、従今百載ヲ

径ルト雖実ニ活利ヲ得可ン乎、今聖策ヲ廃テ強チニ之ヲ諭サシメントセハ、譬ヘハ五音六律ニ違テ新ニ音律ヲタテ、五味五色ヲシテ唱ヲ易ヘシムルニ不レ異乎、凡一年ヲ図ルニ日輪太陽行道三百五十余日ヲ以テ、譬ヘハ甲子ノ歳尽テ乙丑ノ歳ニ改リ、甲子ノ四季終テ乙丑ノ春ニ至ル、然レハ一年ト云ルモ即チ陽也、春夏ト云ルモ亦陽也、甲子ノ春正月元日ノ太陽出ル所ニ復シ出ルカ故ニ乙丑ノ正月元日也、是又太陽ナラスヤ、旧暦盍ソ太陽暦ナラサラン、当新告名ハ太陽ト雖概ネ秋冬ノ陰中ニ孕テ月名ヲ先ンセシム、是即チ女子妊娠シテ又女ヲ産ルノ貌也、強チ太陽ノ意現レス、且和漢共ニ人齢ヲ算ルニ月数ヲ以テスルコトナシ、十二ケ月トハ太陽壱ケ年ニ属スルノ月数也、凡齢数ハ干支ヲ以テ算ルカ故ニ何歳ト称ス、是ヲ以テ甲子冬十二月卅日ニ生スレハ即乙丑正月ニ至テ二歳也、然ルヲ齢ヲ称スルニ月数十二ケ月ヲ盈サレハ年中齢数不定ニシテ、当丑ノ二歳ト称スルコト能ハス、下民ニ於テ一人トシテ執用スル者ノナキハ宜ナル哉、

一山村海岸ノ小民ニ至迄

朝旨ヲ奉載シ、毫毛モ猜疑ヲ抱カシメサル如何シテ可ナラン、

官吏私欲ヲ去テ務功ヲ不レ争、専ラ徳政ヲ補助シテ仁徳聖帝ノ例ニ遵奉シ、税ヲ免シ恵ヲ用ヒ、而シテ諸物価ヲ往昔ニ戻シ、財貨ヲ国家ニ盈シメハ、人民如何ソ安穏ノ心ヲ生セサラン、

一頑愚ノ俗ヲシテ開明ニ向ハシメ、学ノ不可止ヲ知リ、喜テ此学ニ就シメルコト、如何シテ可ナラン、

凡賢愚精粗大小共ニ各天然ノ稟受有リ、殊ニ神州ハ旧来小地ト雖山川渓谷俊秀ニシテ、森羅万象諸州ニ優リ、人員最モ衆ク物産モ又盛大ニシテ、人種賢明モ隆ン也ト雖愚者モ又多分ナレハ、之ヲシテ悉ク学ハシメ頑ヲシテ皆ク賢ナラシメンコトハ甚難カラン乎、譬ヘハ草木ニ幾許ノ肥養ヲ与ルトモ其性質ヲ易

ルコトハ難成ノ理ナラン、故ニ学校ヲ周施シテ薦学セシムルハ至当也ト雖、学フト学得サルト学テ開悟セサルトハ各其性ノ得失ニ在リ、敢テ
上ノ不徳ニハ非ル也、曽テ各産業ヲ務ルニ於テ安逸懶惰ナラシメサルハ　上ノ法ニ在ン乎、将タ頑愚若シ咸ク学ヒ、皆ク開明ニ至ラハ、畢ニ各々賤陋ノ業ヲ禁シ卑賤ヲ省スシテ、徒ラニ国家ニ名ヲ立ントスル而已ナラン乎、或ハ博識ニシテ奸悪ナル者有リ、或ハ不学ト雖善ナル者アリ、亦不学ノ故ニ不善ナル者有テ堯舜モ之ヲ疚リトス故ト、是神州ノ美風タルヤ、辱クモ一姓ノ
君臣、万古千秋不朽タラントスルコト、臣ハ
君上神孫ノ一姓ニシテ累代国恩ノ重キヲ尊崇シ、
君ハ臣ノ門閥聯綿タルヲ親シンテ、信義愈々敦キヲ以テ巍々堂々タリ、
君ミ臣ヲ使フニ礼ヲ以テシ、臣
君ニ事ルニ忠ヲ以テスル所以、古来神明ノ擁護赫々トシテ如何ンソ、外夷各邦ノ暨フ可所ナラン乎、盍ソ即今卑賤ノ野郎奴僕ニ抜群タル俊傑出頭ナス可ンヤ、然ルヲ挙動ノ時ニ乗シテ自己ニ中古ノ楠氏・豊太閤等ヲ欺クノ知有リトシ、外異窮理ノ伶利ニ似タルヲ尊テ、外ニ文明開化ヲ表シテ内ニ五常ノ大道ヲ廃シ、神武ヲ粗略ニシテ各学ト云ヒ、教ト云ヒ、武ト云ヒ、士ト雖、悉ク有名無実ニシテ、偏ニ信直ノ情性ヲ滅セントスルノ党類也ト聞ケリ、依テ国内各欽粛恐慎シテ神風ノ古礼ニ可復コト最モ至当タランカ、故ニ先王ノ法言ニ非レハ敢テ言ス、先王ノ法服ニ非レハ敢テ服サストハ千万載確乎ト抜可ラサルノ金言タラン、蓋シ邪正ヲ糾ント欲セハ、旧キニ依テ賞罰ヲ明ラカニシテ、啻ニ賞ヲ重ンシ、罰ヲ軽ンスルノ法ニ不如乎、
一荒蕪ヲ開墾シ、物産ヲ生殖シ、公益ヲ図ラシメル如何シテ可ナラン、
易卦ニ風雷益上ヲ損シテ下ニ益ヲ以テ益トスト有リ、

然レハ克ク其山相地味ヲ弁シテ奮発シ、功ヲ得ント庶幾フ者ヲ以テ適宜トシテ厚ク資本財ヲ賜テ、迺チ如意ノ成功ヲ遂ハ焉ニ無毛ノ地ニ肇テ貢ヲ為ン、仮令開墾ニ万金ヲ費スト雖、其成功ニ至テ貢ヲ納ルコトハ千万載ナレハ之レ則公益ナラサラン乎、蓋シ他邦ハ概ネ土地広大ニシテ人員乏シキ者アリ、独リ神州ハ土地狭クシテ人員多分ニ繁茂シ諸産又富饒也、是故ニ徒ラニ人手ヲ遊ハシメテ製工ノ器械ニ空ク大財ヲ費シ玉ハンヨリハ、人民各竭力労苦シ、之ヲ養フニ恵ヲ以テナシ玉ヒテ、焉ニ寝食ヲ安ンセシメルニ不如乎、抑

上ニ仁恕ノ志有テ、中以下其意情無カ故ニ、下ハ活利ヲ得スシテ困苦スルコト甚シ、是故ニ名ハ仁恕ニシテ、其実ハ悉ク暴虐也、此形状ヲ以テ事物ニ譬レハ、則チ世俗ニ所謂放生会タルモノ、其旨趣ハ実ニ殺害ニ垂ナントスル所ノ禽獣魚鼈ヲ救テ之ヲ山林川谷ニ放タハ、其催主ノ旨意ニ協フ可所以ナリト雖、此催ヲ伝聞シテ専ラ所置ナスノ下輩、卒然ト奔走シテ山林江沢ニ臨ミ、親子雌雄和楽シテ飛行游行ナス物ヲ無解ニ擒ニシ、小鳥魚ト雖離別ニ悲哀スルヲ不憐、生所ヲ去シメテ彼ノ催主ノ許ニ運ヘルカ故ニ、本来恐愕迷動シテ網セラル、中ニ、困苦ニ堪スシテ頻リニ落命スル者アリ、曾テ漸ク時ヲ得テ放サル、ニ及テ旧里ニ帰スルコト不能、更ニ他邑ノ山林江川ニ投セラレテ僅ニ命ヲ保ツト雖、又風土応セスシテ忽チ死ニ至ル有テ、畢竟催主ノ慈志ニ違フ者則如斯、依テ有名無実ノ為ニ虚ク挙動ニ疲弊スル者、幾許有トモ算スルニ遑アラス、可歎啻ニ当世官吏偏ニ月給ニ浴シテ、文明開化ヲ商ツテ、日夜淫酒ニ耽リ歓楽ヲ極テ、将ニ上下ヲ侮ルコト甚シキヲ、有志輩之ヲ傍観シテハ、実ニ〳〵潜眉ニ堪サル而已矣、恐惶謹、

副白

此下問七箇条事件不レ顧二微身一、以二愚論一記二尊答一而雖レ及二謹上一最不遜之至多罪難レ遁恐惶也、乍レ然聊為レ

報ニ　国恩ヲ顕ニシテ寸虫之分魂ヲ、而シテ赤心之献言如レ斯矣、
頓首九拝、敬白、

上総国市原郡
第五大区三小区山木村住
石川七十郎父隠居
明治七年十月二日　石川静湖　印
千葉県令柴原和殿

冊子原寸　縦二四・八糎　横一七・二糎　九枚

三四八　三条太政大臣より島津左府公へ
英孛駐劄公使等御陪食の件

（封筒）「島津左府殿　実美」

秋事鬱然候処御清穆奉賀候、御不例如何御保復専祈候、
明後日御陪食節、此度派出英孛公使ニ方今蕃地処分清国
関係之事等被仰含候ハヽ可然存候間、何卒尊公ニも御参
候相成候様致度候、仍此段得貴意度如斯候也、

十月五日　実美
島津左府公

文書原寸　縦一七・二糎　封筒原寸　縦二二・五糎
横四六・八糎　横　七糎

三四九　三条太政大臣ヨリ島津左府公へ
青森県参事ノ件

（封紙ウワ書）「島津左府殿　実美」

御安全奉賀候、然ハ過日御頼申置候土持綱之青森県参事
之事ハ如何ニ御座候哉、御催促ケ間敷候得共差急候事情
も有之候ニ付、此段以書面御問合申候、草々不備、
十月六日

文書原寸　縦一七・三糎　横五一・三糎

二四三〇　三条太政大臣より島津左府公へ

青森県参事の件

（封筒）「島津左府殿　実美」

（封筒ウラ）「緘」

御安全奉賀候、然ハ昨日青森県参事之義ニ付、御来示之趣有之候処、和田義已ニ今日従式部宣達相成拝命之由ニ候、猶青森県同人御撰挙転任之義は拝上万々御談可申候、仍右得貴意置度如此候也、

十月八日

実美

島津殿

文書原寸　縦一七・三糎　封筒原寸　縦　一八糎

横　五一糎　横五・八糎

二四三一　横山租税権助林海軍大佐ヨリ大隈長官ヘノ

電報訳文

大久保弁理大臣ノ北京談判

大久保弁理大臣、本月十日北京到着、支那政府談判十四日・十六日・十九日都合三度アリ、李鴻章其談判ノ席ニ列セス、支那官員恭親王・文祥其余ノ官員列席セリ、支那政府ハヤハリ先日ノ論ヲトリ、台湾支那版図ト云、我ハ無主野蛮ト云、其論未結局ニ至ラス、併シ彼格別劇論ナシ、和ヲ破ラシト云、談判書翰昨日出帆米国郵船より差出申候、

十月八日午前十一時三十分発線、同日午後三時十分着、

横山租税権助

林海軍大佐

大隈長官（重信）

文書原寸　縦一七糎　横六三・六糎

二四三三　三条太政大臣より島津公へ

井上少佐報告

（封筒）「島津殿　実美」

（封筒ウラ）「　」

（封紙ウワ書）「島津公　実美

」

弥御安全奉賀候、然は今日井上少佐出頭事情委細承り申候、尊公御不参ニ付明朝尊館江参上、委細申上候様申聞置候間、委細御直聴可給候、仍此段申上候、謹言、

十月九日

文書原寸　縦一七・八糎　横六三・七糎　封筒原寸　縦二一・五糎　横七・三糎

二四三三　三条太政大臣より島津左府公へ

国債募集の件

（封筒）「島津左府君　実美
梧右」

（封筒ウラ）「緘」

弥御安泰奉賀候、然は明後十二日朝九時より拙宅ニ集会、先日来取調有之候国債募集一条評議可仕候間、何卒尊台ニも御来会給度候、仍此段得貴意度草々如此候也、

十月十日　実美

島津公

文書原寸　縦一七・二糎　横四七・八糎　封筒原寸　縦一七・七糎　横五・八糎

二四三四　三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

青森県参事ノ件

（封筒）「島津殿　実美」

（封筒ウラ）「緘」

弥御清穆奉賀候、然は過日御来諭有之候和田八之進之義、地方適任之人と存候間、其辺聊異論無之候得共、同人司

法御登用事ニ付而は、司法卿より申立之次第も有之、既拝命ニも相成候、直様転任も如何と存候へハ青森県之処ハ他ニ見込も無之ニ付、他県之人ニハ候得共、塩谷(良翰)ニ被任候而、可然存候間此段得貴意候、御参朝ニ候へハ御直談可申含之処、御不参ニ付乍略義以書面申述候、早々乱書高免可被降候也、

十月十日　　実美

島津公

文書原寸　縦一七・三糎　封筒原寸　縦二二・八糎
横七七・八糎　横七・三糎

二四三五　堤功長ヨリ島津左府公ヘ

就職願出ノ件

(包紙ウワ書)「左大臣殿閣下　堤功長百拝
□(朱「緘」)」

謹啓、過日は昇館拝面御懇篤ノ高話ヲ拝承シ難有奉感謝候、陳は兼テ懇願ノ小生官途一条、未タ良会無御座候哉、定メテ清政府ノ大事件ニヨリ御遷延トハ奉存候得共、只々殿下ノ御指令ノミ日夜相待居候仕合御洞察ヲ仰度、先般拝謁ノ節懇々ノ尊命ヲ蒙リ、欠員アラハ必御賢考被成下候趣謹テ拝諾罷在候、然ルニ尚又再タヒ願出候ハ尊慮ニ逆抗スルヨフニテ太タ恐懼々々ナレトモ、何分日々徒食空然イカニモ難堪折柄不得止願出候、兼々一度ハ奏任官ニ列シ度志願ト雖モ、方今追々御精撰ノ由拝承シ、就中諭材倹腹ノ小生ュヘ迚モ奏任ノ職ハ奉スル能ハスト存候マ、、一先判任ニ出仕シ一層奮発励精シ、而后非常出格ノ尊慮ヲ以奏任江御抜擢奉願度存候、判任ヲ願フニモ可然的人無御座候間、何卒旧御家士方、目今各省御顕職ノ方々ヘ御依頼ヲ蒙リ度、尚其上ハ御都合ニヨリ御指揮ノ方江直チニ罷出候、誠ニ毎々御促迫申千万恐縮ノ至、不悪御寛宥ヲ乞フ、去夏以来懇願ノ志望頃日相叶候ハ、徹心魂難有奉存候、先は右ノ願旁及ヒ御答伺トシテ昇館仕

候、誠惶々々頓首、

第七季
十月十二日　　従四位堤功長
稽顙

島津左丞相殿
閣下

文書原寸　縦一六・三糎　包紙原寸　縦二八糎
横　一二二糎　横四〇糎

二四三六　三条太政大臣より島津左府公へ

森外務少輔建白
（付箋）『別紙建白無シ』

「（封筒）島津左府公　実美」

「（封筒ウラ）封　」

弥御安全奉賀候、然は別紙森外務少輔（有礼）建白書差出候間御廻し申候、御覧後御返却給度候、草々拝具、

十月十四日　　実美

左府殿

文書原寸　縦一八・八糎　封筒原寸　縦二四・五糎
横三九・五糎　横　九・八糎

二四三七　三大臣ヨリ西郷都督ヘノ贈物

酒灘　代凡弐百円　五捨樽
干豚長崎　凡百円　百
密柑紀州　凡百円　箱
金米糖東京　凡五捨円　箱
佃煮魚　同　凡五捨円　箱
惣計代価五百円

十月十八日
三大臣より
西郷都督江

文書原寸　縦一六・七糎　横四五糎

三四八　大隈長官ヨリ島津左大臣ヘ

台湾事件電報

（封筒）「島津左大臣殿　大隈重信」
至急御親展

（封筒ウラ）（朱「蕃地事務局長」ニツ同ジ）「□」

二四三八ノ一

本月五日大久保弁理大臣北京ニ於テ談判有リ、遂ニ結局整ハズ、其レカ為メ大久保弁理大臣帰朝ノ事ヲ支那政府ニ告知セシニ彼和ヲ傷フハ欲セズ、然レ共帰朝ノ事ハ止メズト云フ、故ニ只今ノ模様戦ヲ決スル事ヲ公然掛合シテ引払ヒニ成ルカ、或ハ支那政府ヲ差シ置キ勝手ニ台湾カチヘ開墾ヲ始メルカノ二ツナリ、此ノ話シ決シテ後八日カ九日カノ内ニ引払ヒニ成ル可シ、益満・向井・中村・江田ハ北地ノ地理研究届キ台湾ニ帰リタリ、クロワマル（黒田丸カ）ハ本月十日ニ天津川口タアクウニ着ス、各位ヘ此旨伝達可有之、右伝信只今品川領事ヨリ致落手候、

十月十六日午前十一時十五分発

横山租税権助
林海軍大佐

蕃地事務局

大隈蕃地事務局（重信）長官殿

山県陸軍卿（有朋）殿

河村海軍大輔（純義）殿

文書原寸　縦二七糎　横二〇糎

二四三八ノ二

高砂丸本日到着、台湾ヲ十一日出帆ス、当便海兵砲兵及工兵部夫卒、其外総計七百八十五人欠七八五人乗セ来リ、何レモ病人ナリ、独逸医師モ到着、当人是非東京ヘ行ト云、明日明後日ノ米国郵船ヨリ横浜ヘ出帆ス、七百八十五人欠七八五人ノ内二十三人ハ洋中ニテ死ス、

十月十六日午前十一時廿五分発ス

横山租税権助
林海軍大佐

東京
大隈蕃地事務局長官殿

文書原寸　縦二七糎　横二〇糎

二四三八ノ三

昨日到着之電報二葉、乍延引御廻申上候也、

十月十八日　内史

左大臣殿

文書原寸　縦二七糎　封筒原寸　縦　二二糎

横二〇糎　横七・二糎

二四三九　三条太政大臣ヨリ島津左府公へ

台湾出張都督以下へ慰問品贈与ノ件

「（封筒）島津左府殿　実美」

「（封筒ウラ）緘」

御安全奉大賀候、貴恙如何被為在候哉、御保護専祈候、

扨台湾出張都督始ニ為慰問酒処菓子等差贈候含ニ御座候、

就而は尊君よりも御贈之思召ハ不被為有哉、自然思召も

被為有候ハヽ、連名ニ而差遣し可申と存候、仍右尊慮承度

乍略義以書面申上候、御回答給度候、草々拝具、

十月十八日　実美

島津老台下

文書原寸　縦一七・三糎　封筒原寸　縦一七・六糎

横　四八糎　横　五・八糎

二四四〇　茨城県士族鈴木成章ヨリ左府公へノ建白

台湾征伐従軍希望　七言律詩添

「（包紙ウワ書）上」

左大臣島津公閣下

「（朱「鈴木」）□　第二大区一ノ小区内幸町三番地寄留茨城県士族鈴木成章」

二四四〇ノ一

十月十九日茨城県士族鈴木成章再拝謹奉書

左大臣島津公閣下僕未識　閣下遽然叩閣以進瞽言　閣下

応為狂且妄而不信也、雖然僕叨列士籍坐享俸給未嘗有涓埃之益国家故敢吐丹心、以謀報効雖其言之不見信而招狂妄之謗自所不辞也、窃聞　朝議将有事于韙虜征之与不征利害得失、雖不得而詳焉、慨然有自奮之志、若一且布告中外出師海外則征之与不征利害得失固不遑問焉、凡天下之民不得不一心協力以従事也、況於素餐若僕輩者乎、雖然僕固不敏将何以且致報効反覆思之当以其所能求之也、僕也少小好嗜書史喫古人之糟粕踪前賢之遺迹、罵風嘲月遊猟於詩陣文営之間、則舎筆研而無可他求也、昔豊公之征韓也、或請以善漢文者従焉、公笑曰、将使彼用我文耳然而観彼行長之不学遂誤於封冊則或之請亦非無理、凡軍行必置史記事、或備応答故与韙虜戦必不得不待、善漢文者僕将以其職従命今海内之衆不下数百万虓虎勇悍斬将搴旗之徒何限矣、然挙拈筆千言立就縦横馳騁極其妙者、則三府六十県恐十之二三耳、不才君僕等則車載斗量何足数、乃非敢自謂能之也、然至今日之事則不敢不自勉願欲得列史官後以赴海外、若賜題而試之、亦足以知平生所習之浅深　閣下其勿傚豊公之顰則幸甚伏待返教、別啓本文応致之左院而今直呈之　閣下者以其傚平常手簡也、　閣下幸領其意、

第二大区一小区内幸町一町目三番地
中村清次郎寄留
茨城県貫属士族
鈴木成章頓首再拝

文書原寸　縦二四・四糎　横一六・四糎　一枚

二四四〇ノ二

述懐奉呈

島津公閣下拗律

輝兵海外掃腥羶　満眼丈夫意浩然
髯奴瞻冷台湾地　蜻島尾連支那天
人生莫失風雲会　功業須期少壮年
問余昨夜夢何事　夢在鯨濤万里船

鈴木成章再拝

文書原寸　縦二四・三糎　横三二・五糎　包紙原寸　縦二四糎　横三三糎

二四四一　三条太政大臣より島津左府公へ

台湾征伐の件

十月廿一日　実美

島津殿

（封筒）「島津左府公　実美」

（封筒ウラ）「緘」

文書原寸　縦一七・三糎　横一七・二糎

封筒原寸　縦一七・五糎　横五・八糎

二四四一ノ一

内々口達

此度九州出張御用之義は、提督府製造所等取調被仰付候条、緩急不都合無之様手当可有之候、尤開戦ニ決候上は廟議有之候ニ付、長崎・鹿児島之間ニ於テ政府之指令相待進退可致事、

但戦艦器械等用意取調出来次第其旨可届出事、

明治七年十月廿一日

文書原寸　縦二七・八糎　横四一糎

二四四一ノ二

別紙之通川村大輔（純義）江相達候間此段申進候、草々頓首、

鹿児島県史料編さん関係者

史料編さん顧問　東京大学史料編纂所長　黒田日出男

東京大学史料編纂所教授　宮地正人

尚古集成館館長　芳即正

鹿児島女子大学教授　五味克夫

委員　安藤保　晋哲

原口泉　日隈正守

三木靖　宮下満郎

山田尚二　堂満幸子

鹿児島県歴史資料センター黎明館

館長　今吉弘

調査史料課学芸専門員　尾口義男　久保田瑞成

資料調査編集員　荒田邦子　伊集院祐子

尾形ひろ子　茶圓倫子

寺田緑　長嶺泉子

鹿児島県史料　玉里島津家史料 七

平成10年1月10日　印刷
平成10年1月31日　発行

非売品

編集　鹿児島県歴史資料センター黎明館
発行　鹿児島県

印刷所　株式会社　ぎょうせい